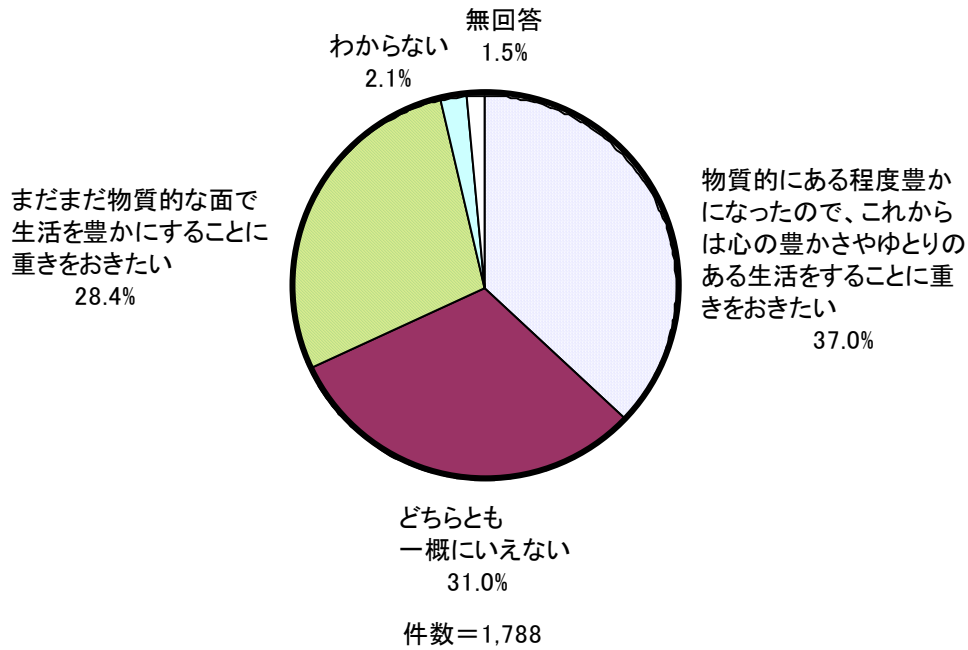


1 心の豊かさと生活意識

(1) 心の豊かさ、物の豊かさ

「心の豊かさやゆとりのある生活をすることに重きをおきたい」が37%

問1 これからの生活の仕方について、次のような2つの考え方のうち、あなたの考え方に近いものを選んで番号に○をつけてください。(○は1つ)

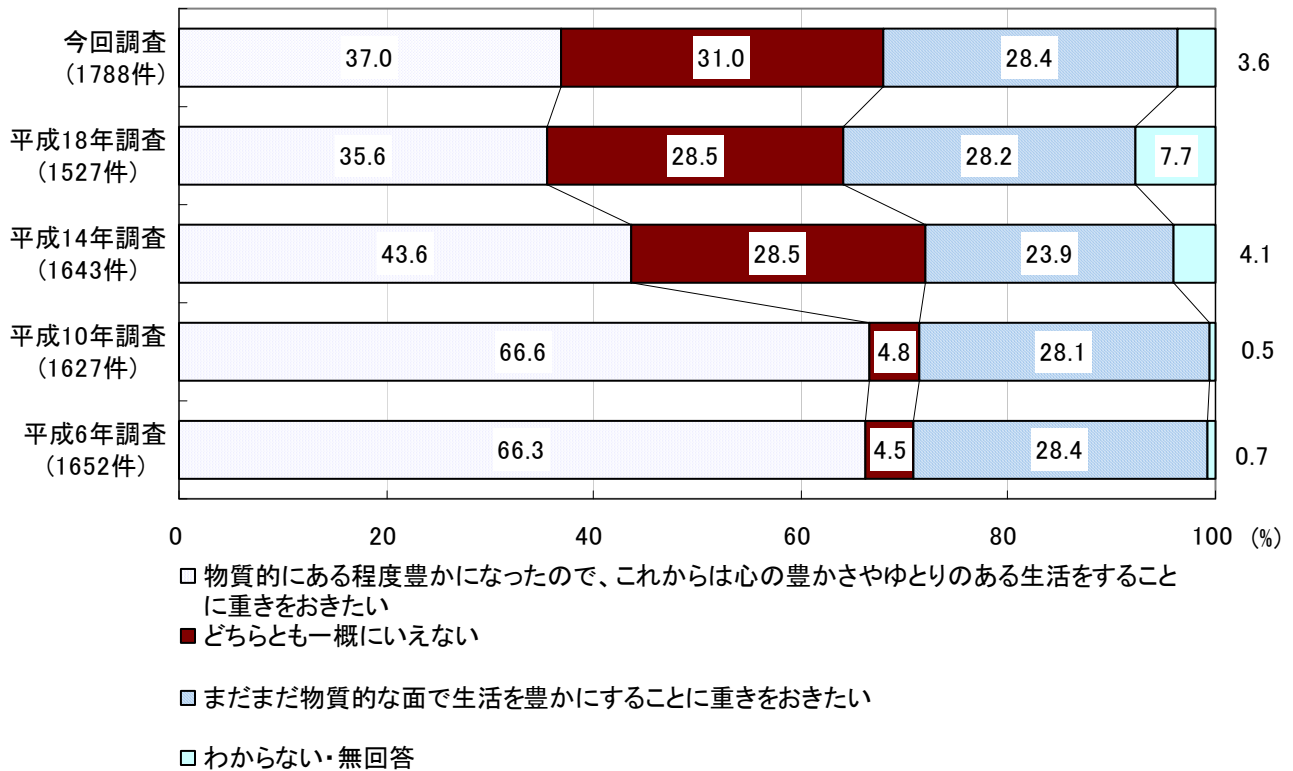


これからの生活の仕方について、「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活をすることに重きをおきたい」と答えた人の割合は37.0%となっている。一方で、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」と答えた人の割合は28.4%となっている。

また、「どちらとも一概にいけない」と答えた人の割合は31.0%となっている。

心の豊かさ、物の豊かさ（時系列比較）

平成18年の県政世論調査と比較すると、「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活をするに重きをおきたい」と答えた人の割合は35.6%（平成18年調査）から37.0%（今回調査）と1.4ポイント高くなっている。



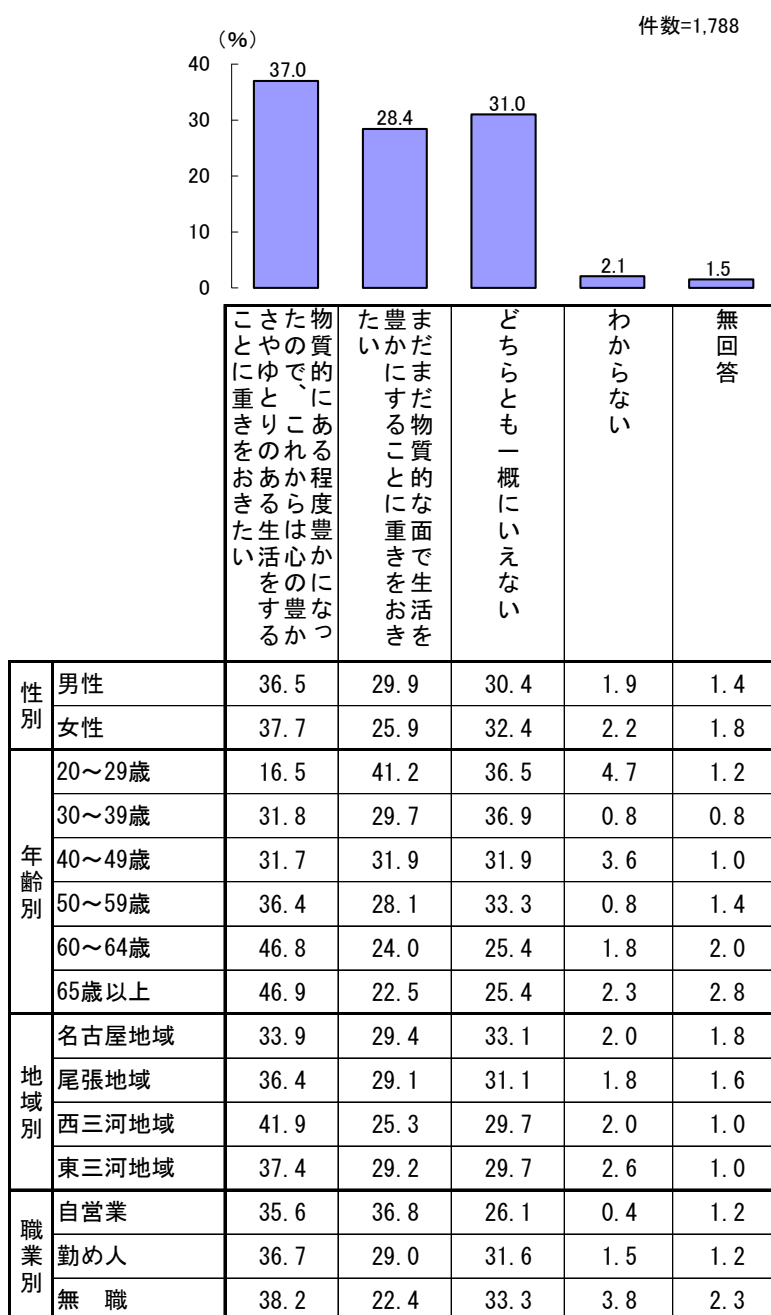
心の豊かさ、物の豊かさ（性別、年齢別、地域別、職業別）

◆性別でみると、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」と答えた人の割合は、女性（25.9%）より男性（29.9%）で4.0ポイント高くなっている。

◆年齢別でみると、「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活をするに重きをおきたい」と答えた人の割合は、60代以上で4割を超えている。

◆地域別でみると、「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活をするに重きをおきたい」と答えた人の割合は、西三河地域（41.9%）で高く、名古屋地域（33.9%）で低くなっている。

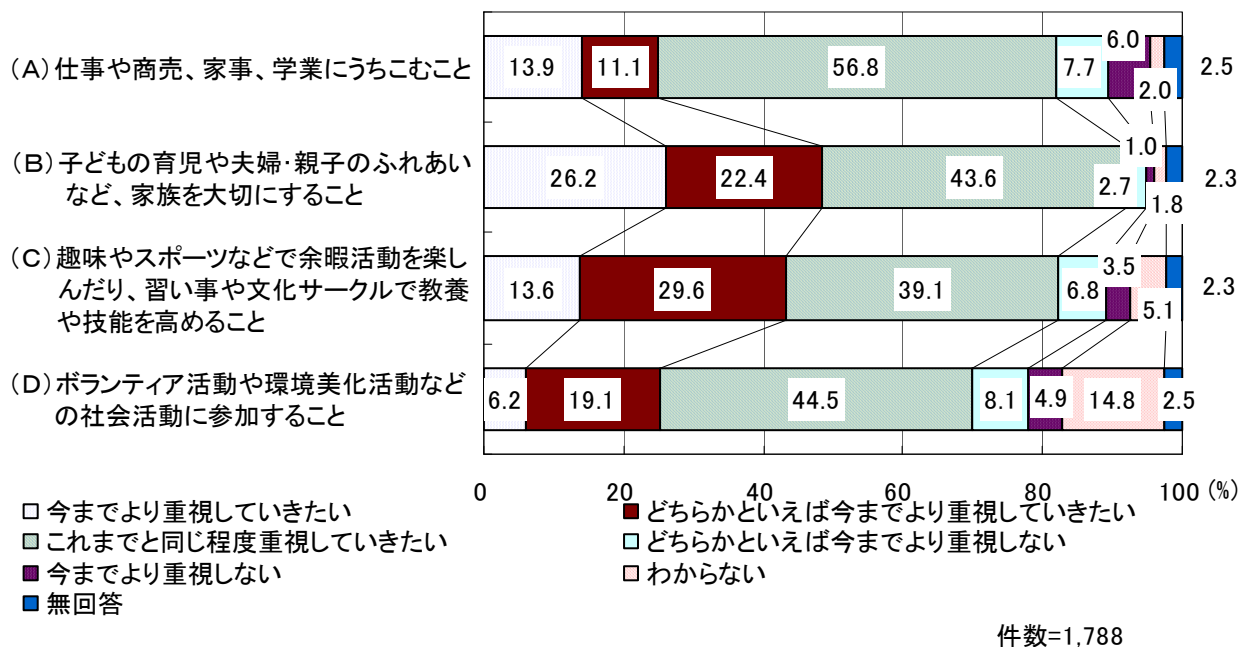
◆職業別でみると、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」と答えた人の割合は、自営業（36.8%）で最も高くなっている。



(2) 今後重視したい生活領域

『家族を大切にすること』を“今までより重視”する人が49%

問2 あなたは、これからの生活の仕方について、次にあげることをどのくらい重視したいと思いますか。
 (A)～(D)のそれぞれについて、あてはまるものを選んで番号に○をつけてください。
 (○はそれぞれ1つ)



4つの生活領域について、今後どの程度重視したいかをそれぞれ聞いたところ、「今までより重視していきたい」と「どちらかといえば今までより重視していきたい」と答えた“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、『子どもの育児や夫婦・親子のふれあいなど、家族を大切にすること』(48.5%)で約5割となっている。

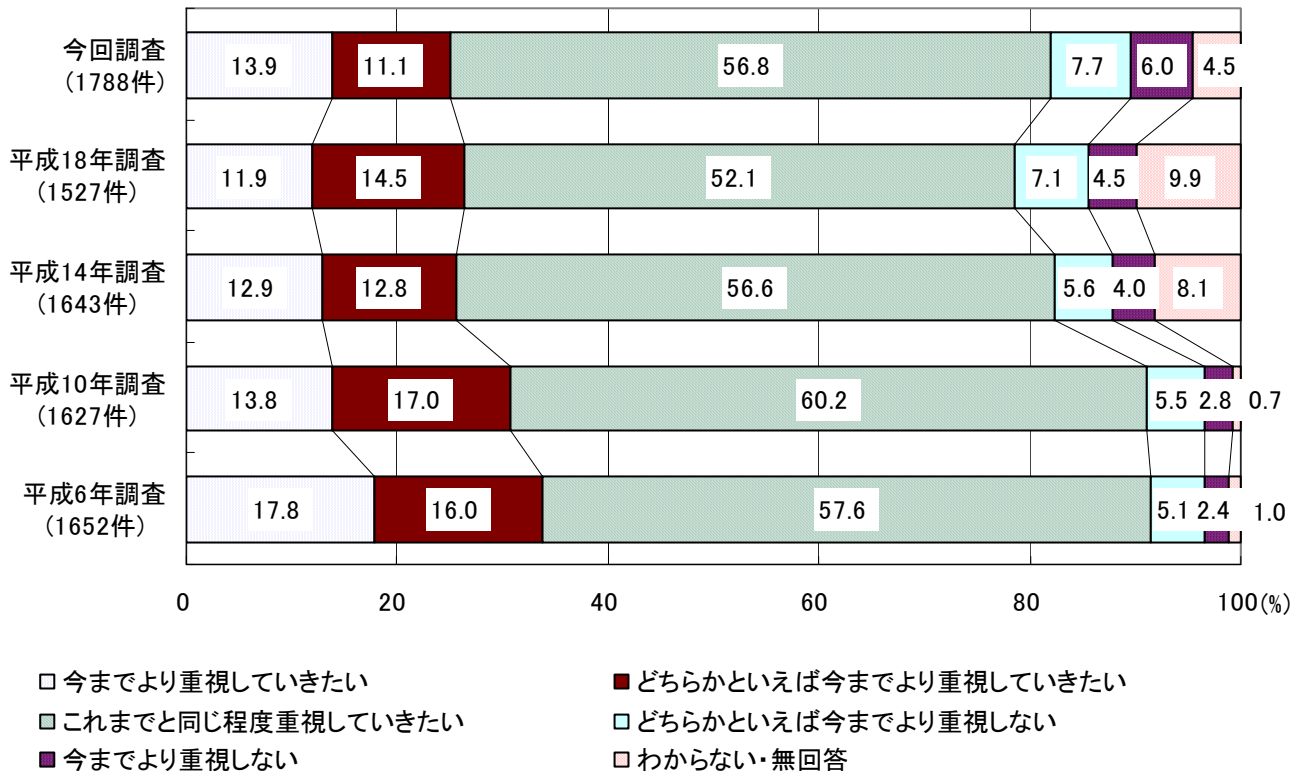
一方、『仕事や商売、家事、学業にうちこむこと』(25.1%)と『ボランティア活動や環境美化活動などの社会活動に参加すること』(25.3%)について“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、ほぼ4人に1人とどまっている。

4つの生活領域ごとに過去の調査との比較および属性との関連をみると、次のとおりである。

(A) 仕事や商売、家事、学業にうちこむこと

平成18年の県政世論調査と比較すると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は26.4% (平成18年調査)から25.1%(今回調査)と1.3ポイント低くなっている。

仕事や商売、家事、学業にうちこむこと（時系列比較）



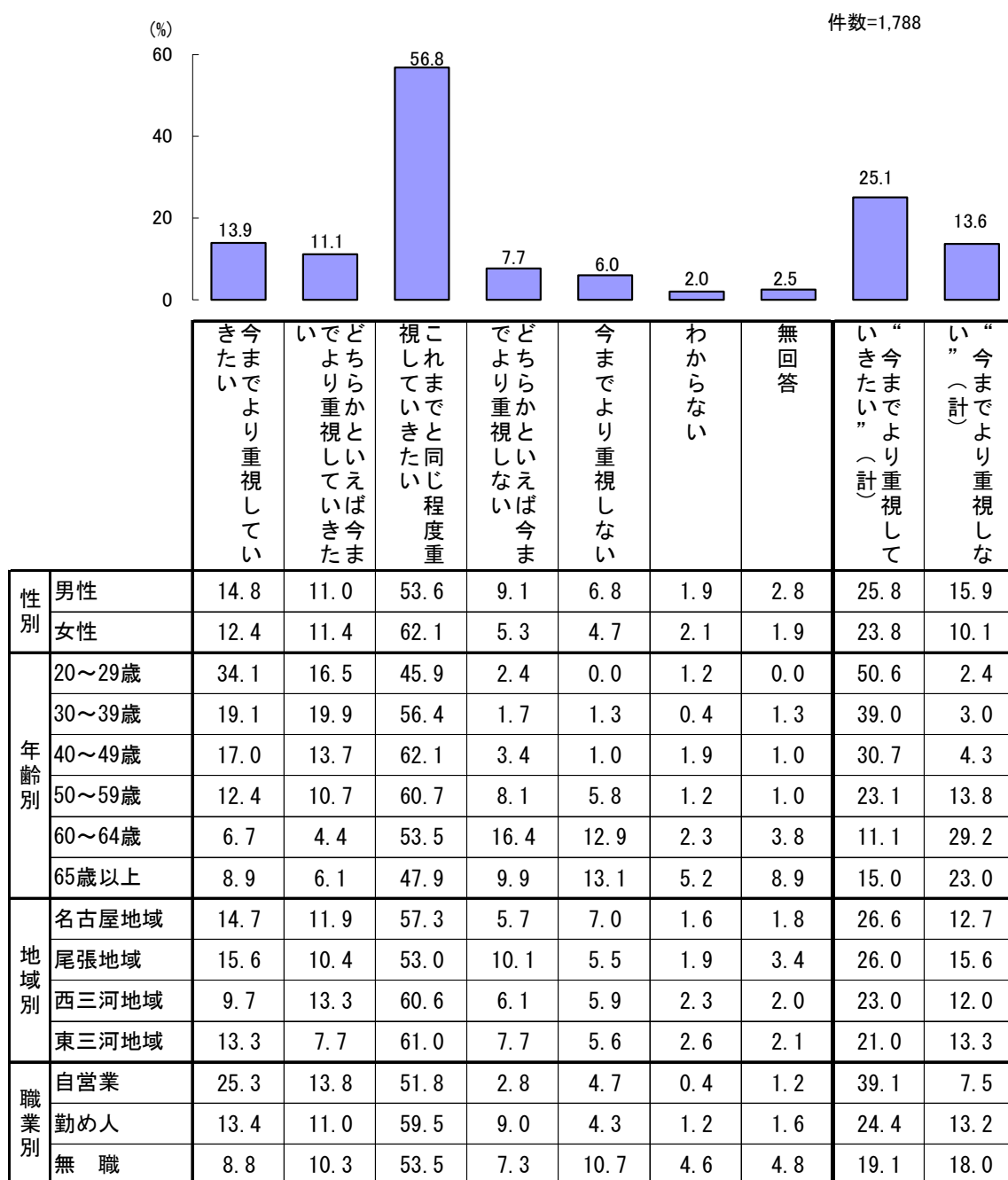
仕事や商売、家事、学業にうちこむこと（性別、年齢別、地域別、職業別）

◆性別でみると、“今までより重視していききたい”と答えた人の割合は、女性（23.8%）より男性（25.8%）で2.0ポイント高くなっている。

◆年齢別でみると、“今までより重視していききたい”と答えた人の割合は、概ね年齢が下がるほど高く、20代（50.6%）で5割を超えている。

◆地域別でみると、“今までより重視していききたい”と答えた人の割合は、名古屋地域（26.6%）が最も高く、尾張地域（26.0%）が続いている。

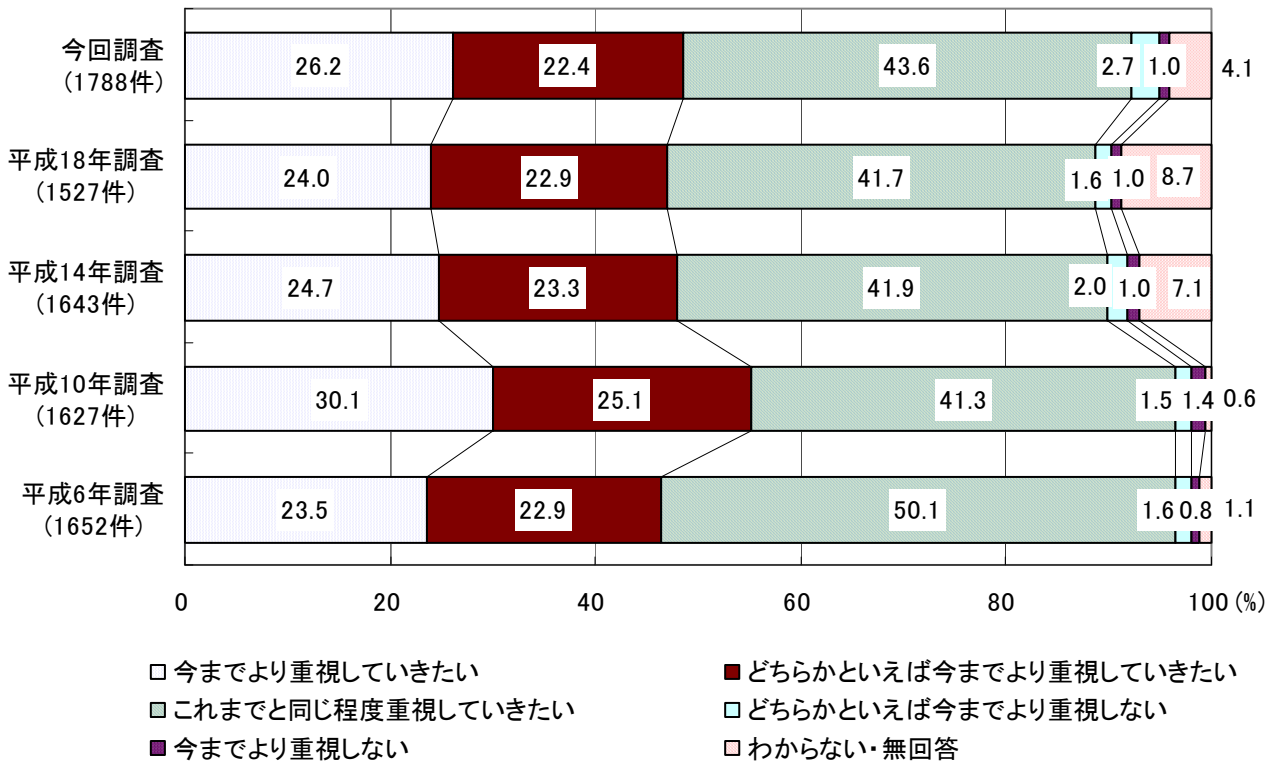
◆職業別でみると、“今までより重視していききたい”と答えた人の割合は、自営業（39.1%）が約4割と最も高くなっている。



(B) 子どもの育児や夫婦・親子のふれあいなど、家族を大切にすること

平成18年の県政世論調査と比較すると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は46.9% (平成18年調査)から48.5%(今回調査)と1.6ポイント高くなっている。

子どもの育児や夫婦・親子のふれあいなど、家族を大切にすること（時系列比較）



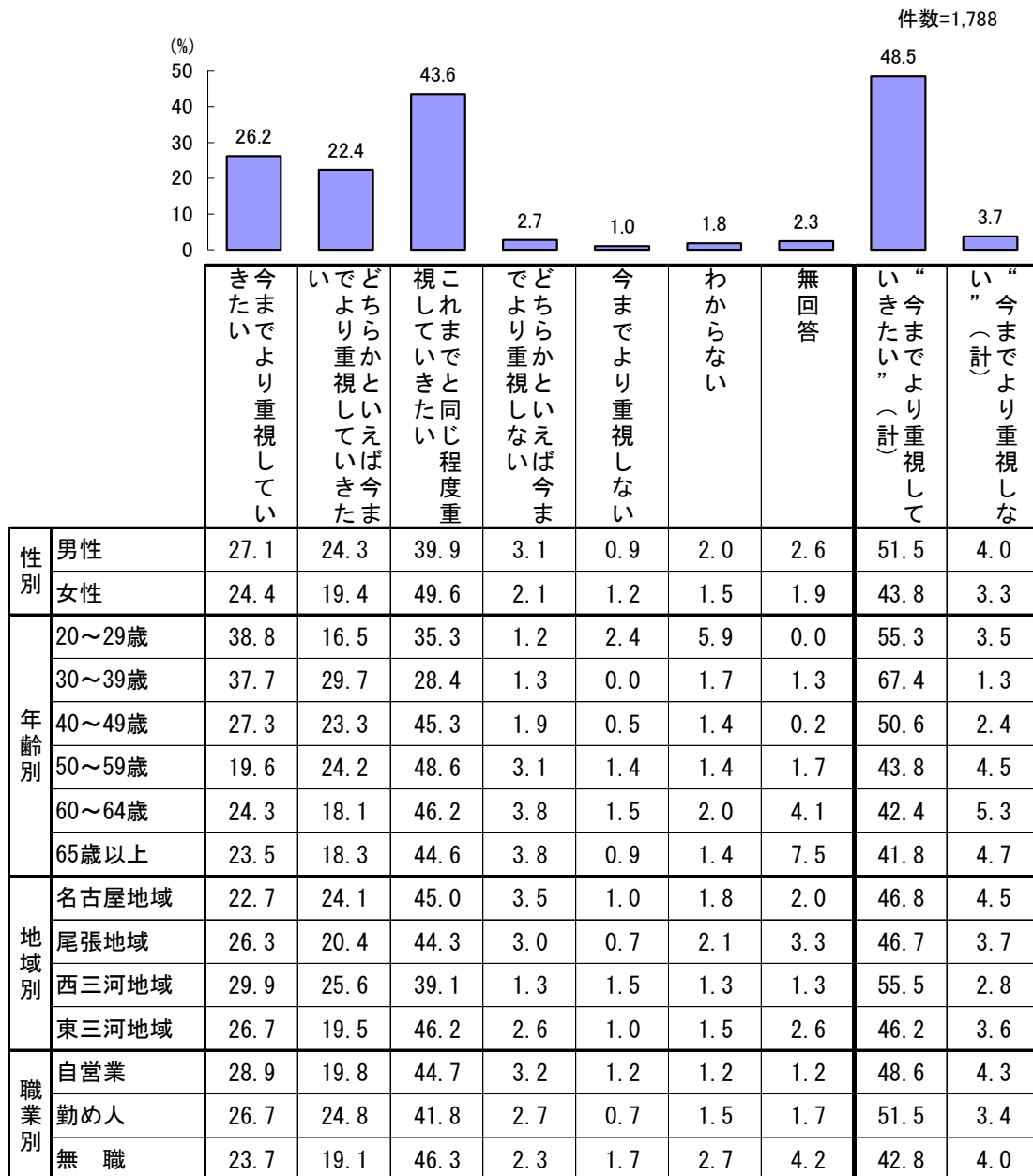
子どもの育児や夫婦・親子のふれあいなど、家族を大切にすること (性別、年齢別、地域別、職業別)

◆性別で見ると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、女性(43.8%)より男性(51.5%)で7.7ポイント高くなっている。

◆年齢別で見ると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、30代(67.4%)が約7割で最も高く、20代(55.3%)が続いている。

◆地域別で見ると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、西三河地域(55.5%)が5割を超え最も高くなっている。

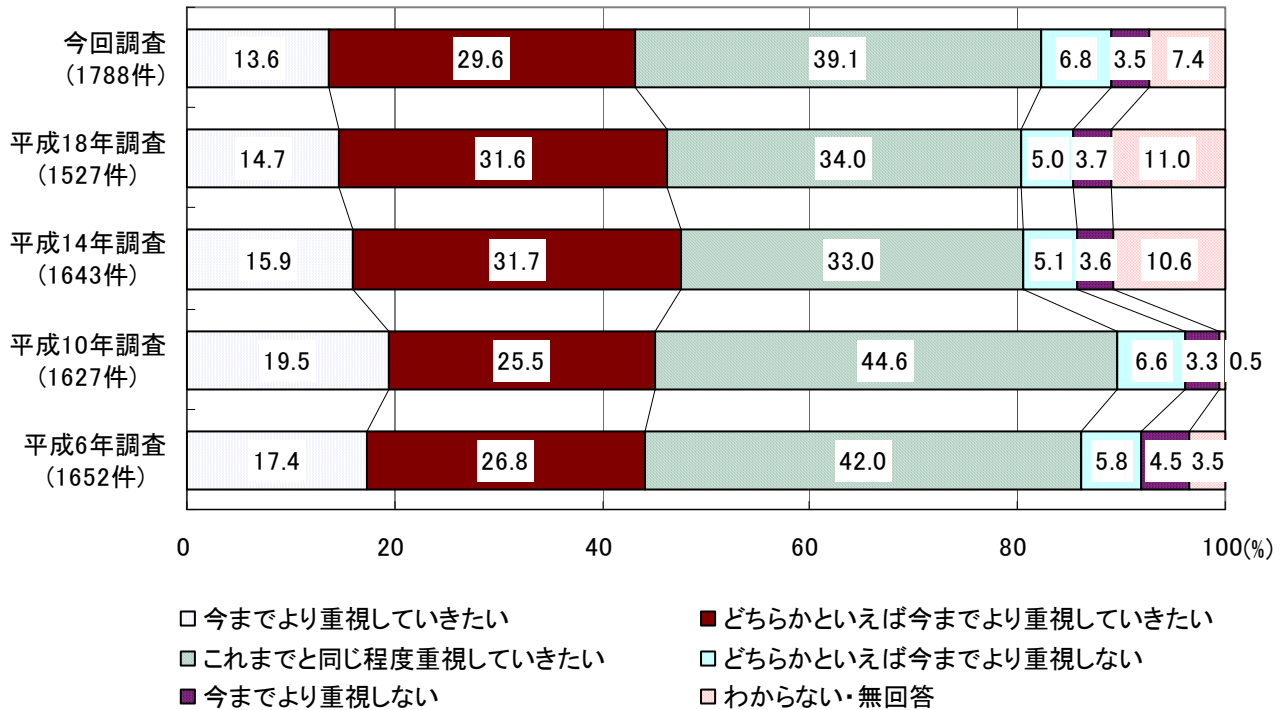
◆職業別で見ると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、勤め人(51.5%)が5割を超え最も高くなっている。



(C) 趣味やスポーツなどで余暇活動を楽しんだり、習い事や文化サークルで教養や技能を高めること

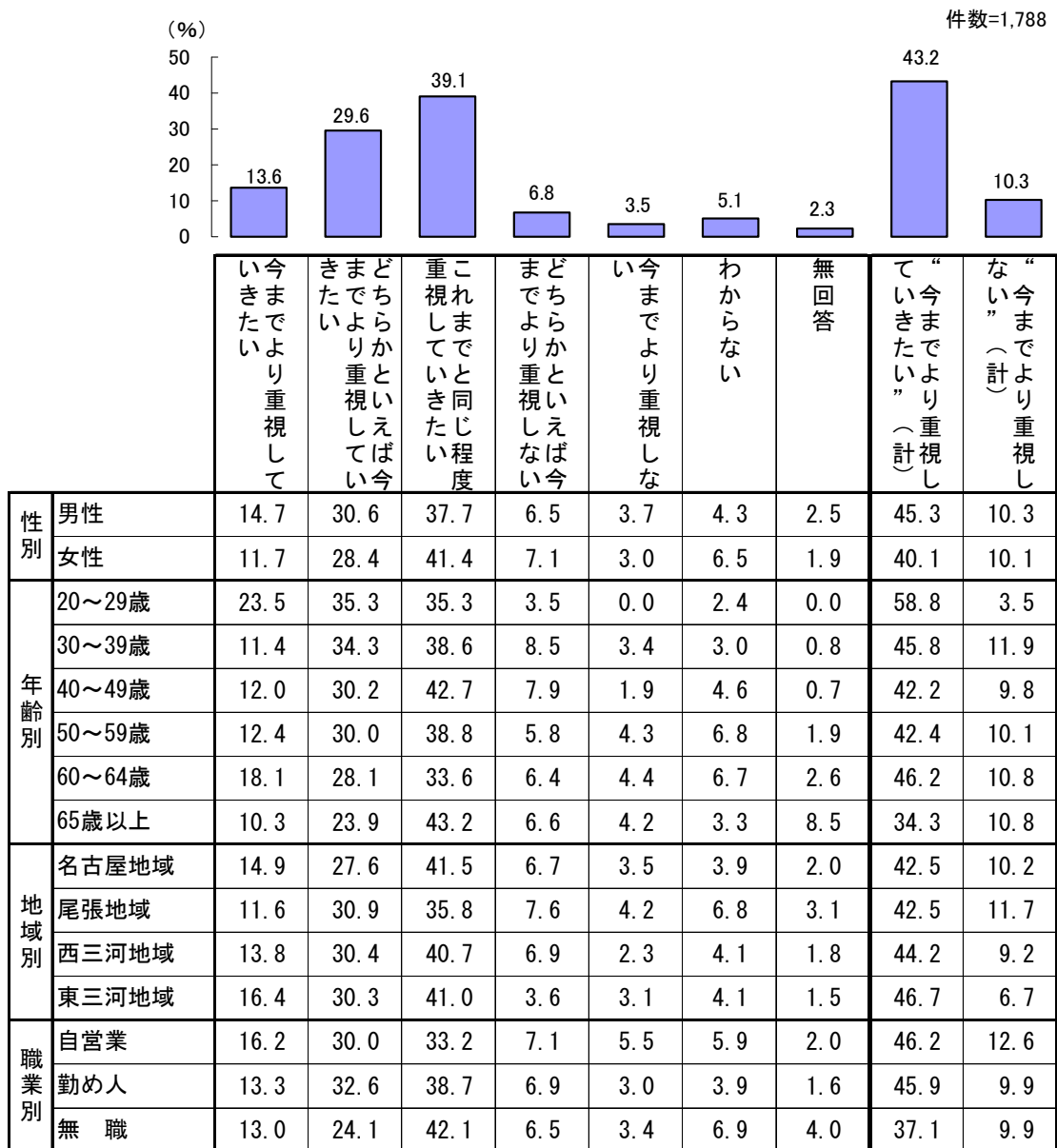
平成 18 年の県政世論調査と比較すると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は 46.3%(平成 18 年調査)から 43.2% (今回調査) と 3.1 ポイント低くなっている。

趣味やスポーツなどで余暇活動を楽しんだり、習い事や文化サークルで教養や技能を高めること (時系列比較)



趣味やスポーツなどで余暇活動を楽しんだり、習い事や文化サークルで教養や技能を高めること（性別、年齢別、地域別、職業別）

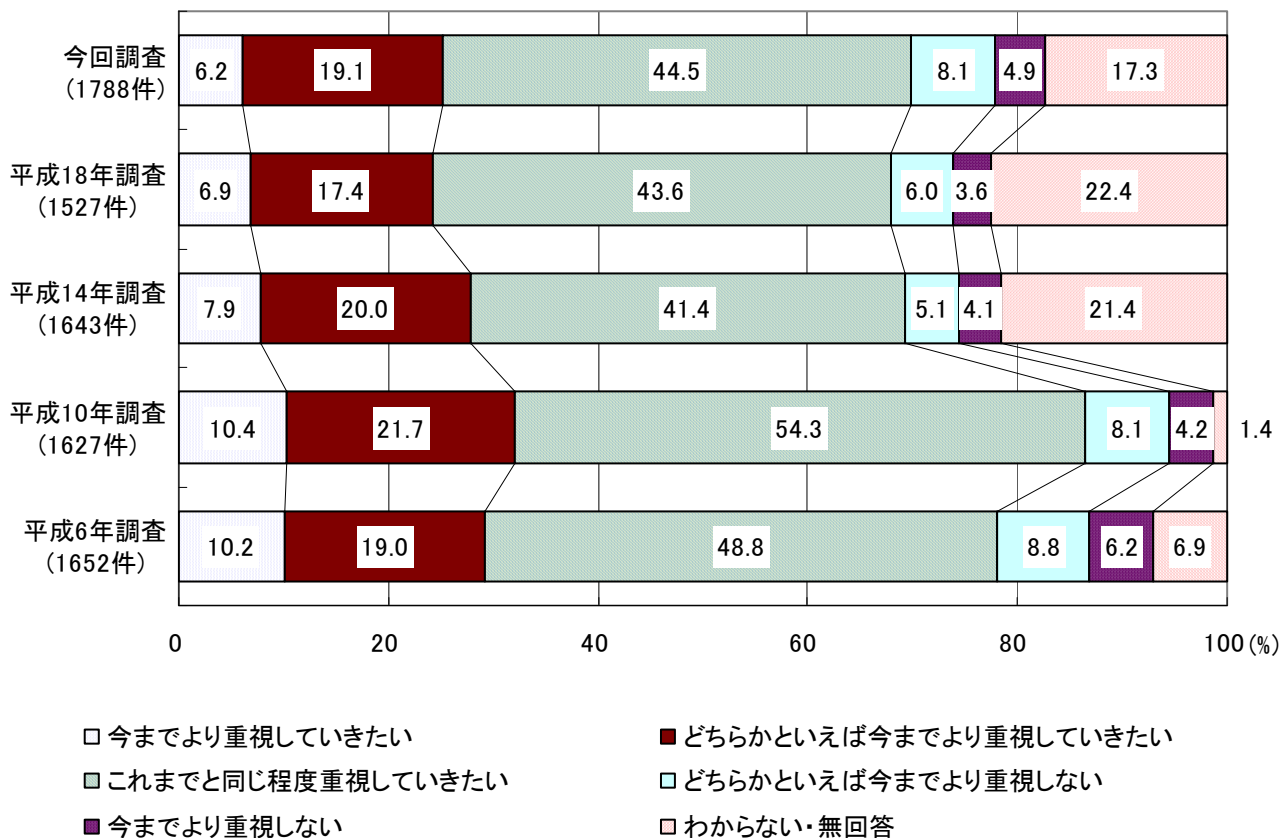
- ◆性別で見ると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、女性（40.1%）より男性（45.3%）で5.2ポイント高くなっている。
- ◆年齢別で見ると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、20代で5割を超えている。
- ◆地域別で見ると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、東三河地域（46.7%）が最も高くなっている。
- ◆職業別で見ると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、自営業（46.2%）が最も高くなっている。



(D) ボランティア活動や環境美化活動などの社会活動に参加すること

平成18年の県政世論調査と比較すると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は24.3%（平成18年調査）から25.3%（今回調査）と1ポイント高くなっている。

ボランティア活動や環境美化活動などの社会活動に参加すること（時系列比較）



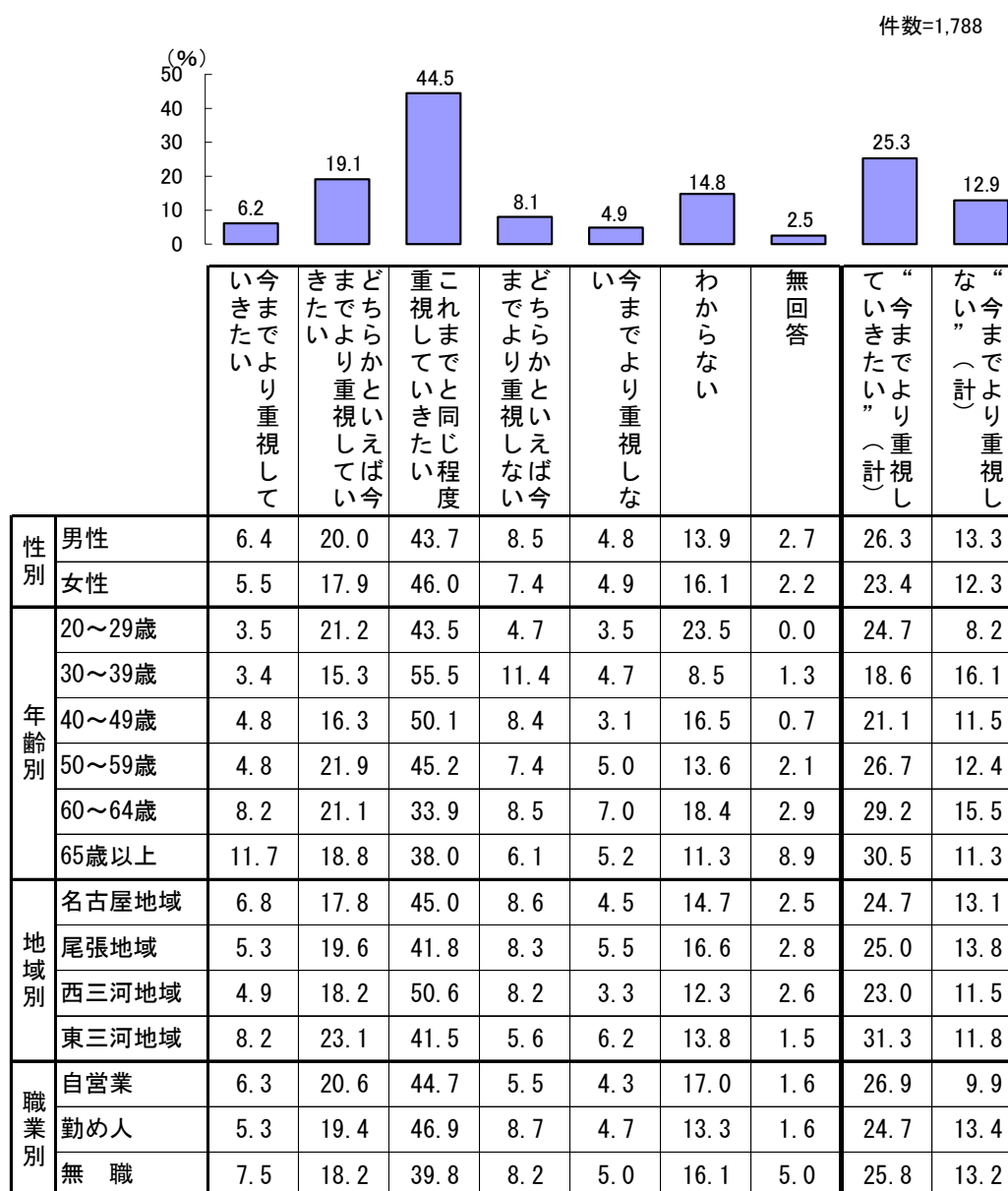
ボランティア活動や環境美化活動などの社会活動に参加すること (性別、年齢別、地域別、職業別)

◆性別で見ると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、女性(23.4%)より男性(26.3%)で2.9ポイント高くなっている。

◆年齢別で見ると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、65歳以上(30.5%)が最も高くなっている。

◆地域別で見ると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、東三河地域(31.3%)が3割を超え最も高くなっている。

◆職業別で見ると、“今までより重視していきたい”と答えた人の割合は、自営業(26.9%)が最も高くなっている。

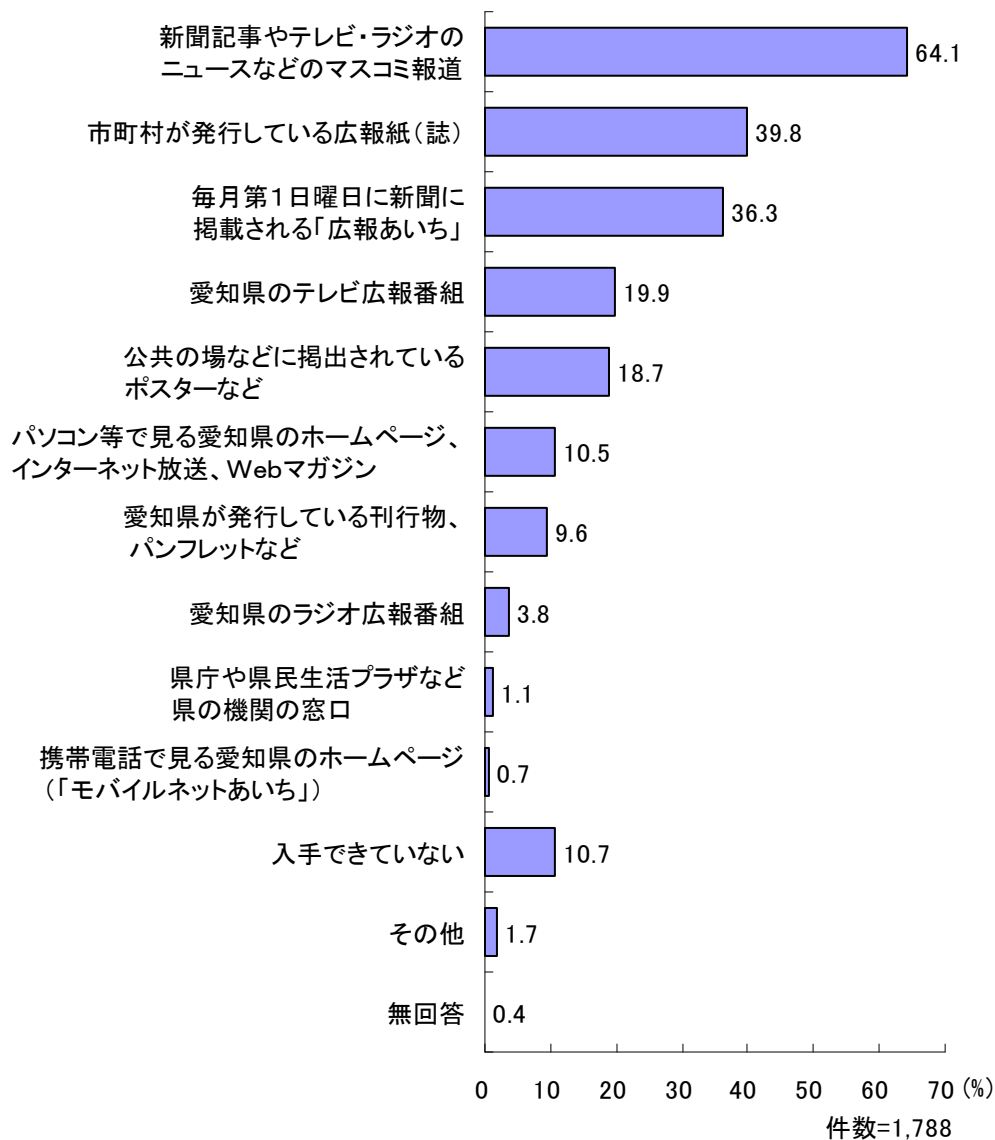


2 広報活動

(1) 県の情報の入手方法

「新聞記事やテレビ・ラジオのニュースなどのマスコミ報道」が64%

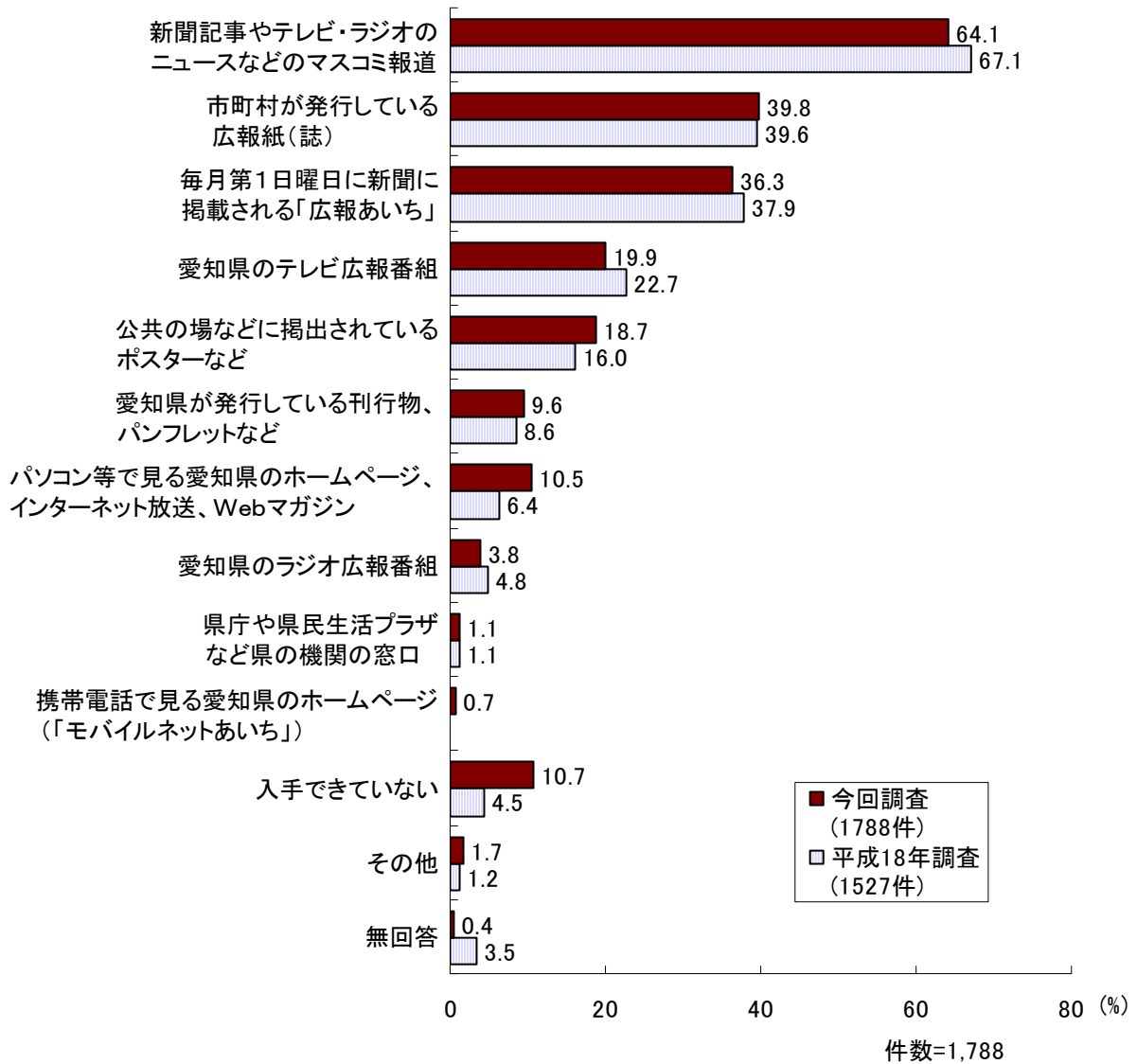
問3 あなたは県の情報をどこで入手することが多いですか。次の中からあてはまるものを選んで番号に○印をつけてください。(○は3つまで)



県の情報入手方法について、「新聞記事やテレビ・ラジオのニュースなどのマスコミ報道」と答えた人の割合が64.1%で最も高く、次いで「市町村が発行している広報紙(誌)」(39.8%)、「毎月第1日曜日に新聞に掲載される『広報あいち』」(36.3%)の順になっている。

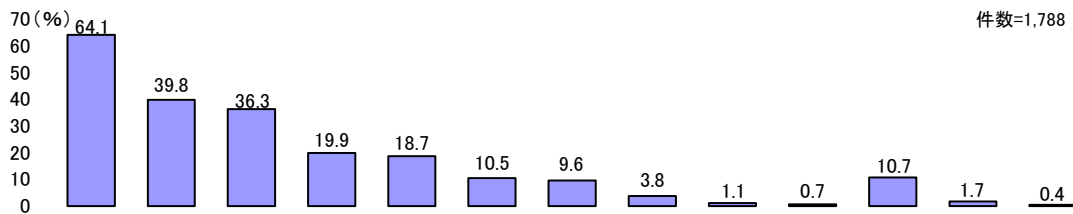
県の情報の入手方法（時系列比較）

平成18年の県政世論調査と比較すると、「パソコン等で見る愛知県のホームページ、インターネット放送、Webマガジン」と答えた人の割合は6.4%（平成18年調査）から10.5%（今回調査）と4.1ポイント、「公共の場などに掲出されているポスターなど」が16.0%（平成18年調査）から18.7%（今回調査）と2.7ポイント高くなっている。



県の情報の入手方法（性別、年齢別、地域別、職業別）

- ◆性別でみると、「市町村が発行している広報紙(誌)」と答えた人の割合は、男性（37.3%）より女性（44.1%）で6.8ポイント高くなっている。
- ◆年齢別でみると、「市町村が発行している広報紙(誌)」と答えた人の割合は、年代が上がるほど高くなっており、「パソコン等で見える愛知県のホームページ、インターネット放送、Webマガジン」と答えた人の割合は、年代が上がるほど低くなっている。
- ◆地域別でみると、名古屋地域で「毎月第1日曜日に新聞に掲載される『広報あいち』」（55.0%）と答えた人の割合が高く、「市町村が発行している広報紙(誌)」（21.9%）と答えた人の割合が低くなっている。
- ◆職業別でみると、「毎月第1日曜日に新聞に掲載される『広報あいち』」と答えた人の割合は、無職（41.9%）が最も高く、自営業（35.2%）が続いている。

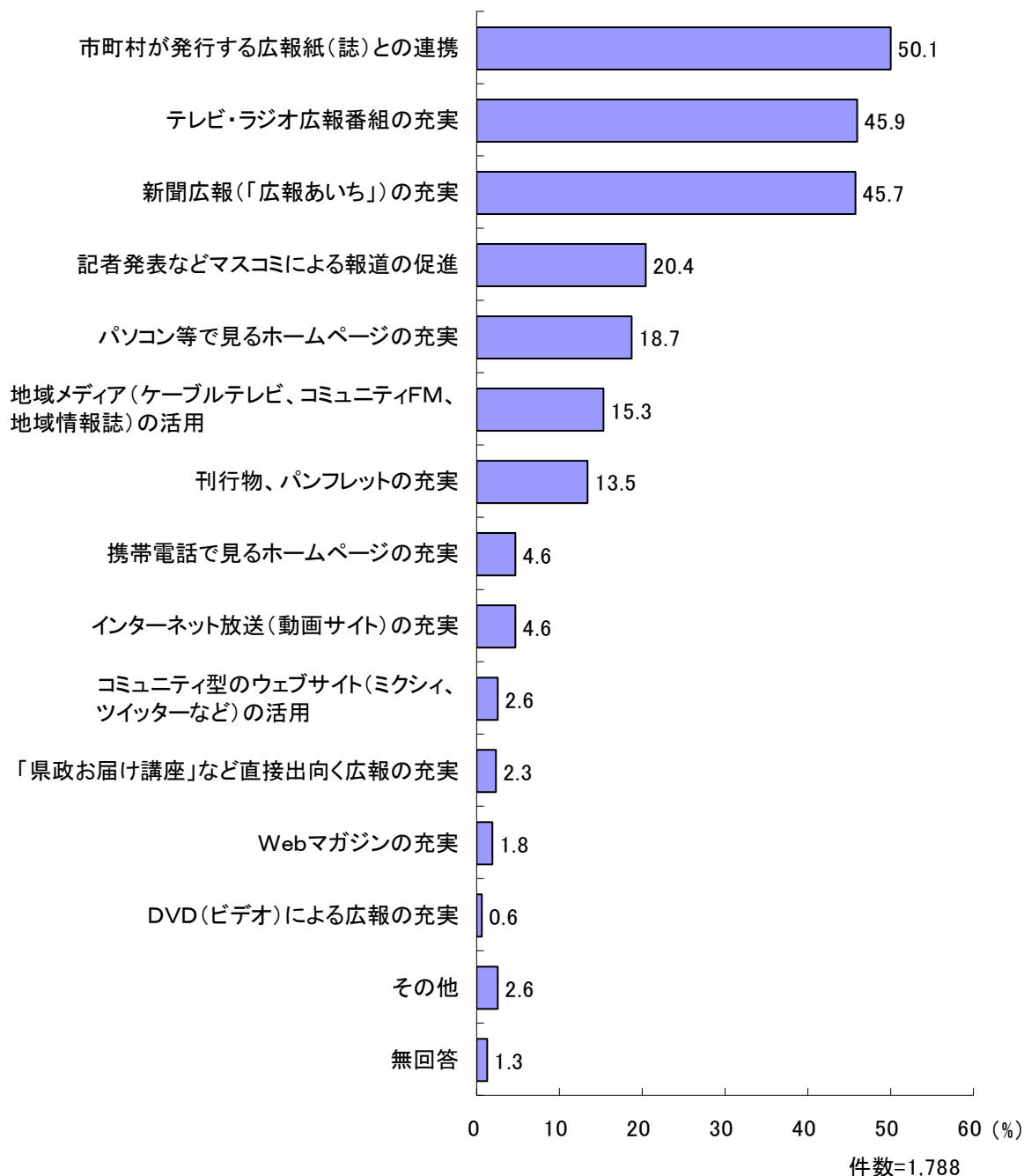


	二新聞記事やテレビマスコミ報道の	市町村が発行している広報紙(誌)	毎月第1日曜日に新聞に掲載される「広報あいち」	愛知県のテレビ広報番組	公共の場などに掲出されているポスターなど	ホームページ、Webマガジン	パソコン等で見る愛知県のホームページ、インターネット放送、ラジオなど	愛知県のラジオ広報番組	県庁や県民生活プラザなど県の機関の窓口	携帯電話で見える愛知県のホームページ（「モバイルネットあいち」）	入手できていない	その他	無回答	
性別	男性	63.5	37.3	35.8	19.8	17.7	13.0	9.6	4.4	1.2	0.5	11.8	2.3	0.2
	女性	65.5	44.1	36.8	20.4	20.3	6.4	9.3	2.8	1.0	0.9	9.2	0.9	0.7
年齢別	20～29歳	50.6	31.8	21.2	21.2	18.8	21.2	3.5	2.4	1.2	3.5	17.6	1.2	0.0
	30～39歳	59.3	34.3	25.8	16.9	24.6	16.9	8.5	3.4	0.8	1.7	11.9	2.1	0.4
	40～49歳	58.0	36.0	35.7	17.0	19.7	13.2	8.4	4.1	0.7	0.7	11.8	1.2	0.0
	50～59歳	68.4	41.1	36.4	20.2	17.4	9.3	8.3	3.7	1.4	0.2	11.2	1.4	0.4
	60～64歳	69.0	42.1	44.7	21.1	18.4	6.7	12.9	3.8	1.5	0.3	7.3	2.0	0.6
	65歳以上	70.4	50.2	40.8	26.8	13.6	2.3	12.7	4.2	0.9	0.0	9.9	2.8	0.9
地域別	名古屋地域	61.4	21.9	55.0	15.9	19.4	11.2	12.5	2.7	1.0	0.2	9.2	1.4	0.4
	尾張地域	66.4	48.6	31.2	21.2	18.9	10.0	7.7	3.3	1.3	0.9	10.1	2.1	0.6
	西三河地域	62.9	46.0	23.5	21.5	18.2	10.5	9.2	5.1	0.8	1.3	12.5	1.0	0.3
	東三河地域	68.2	45.1	30.3	23.1	17.9	10.3	8.2	5.6	1.5	0.0	12.8	3.1	0.0
職業別	自営業	63.2	36.8	35.2	19.4	18.6	7.5	9.9	5.1	3.2	0.4	10.7	3.6	0.4
	勤め人	62.4	38.6	33.9	20.1	19.9	12.8	9.3	3.6	0.5	0.8	11.1	1.4	0.4
	無職	69.0	43.8	41.9	20.3	15.7	7.3	10.1	3.6	1.5	0.6	10.3	1.5	0.4

(2) 県の広報を充実させる方法

「市町村が発行する広報紙（誌）との連携」が50%

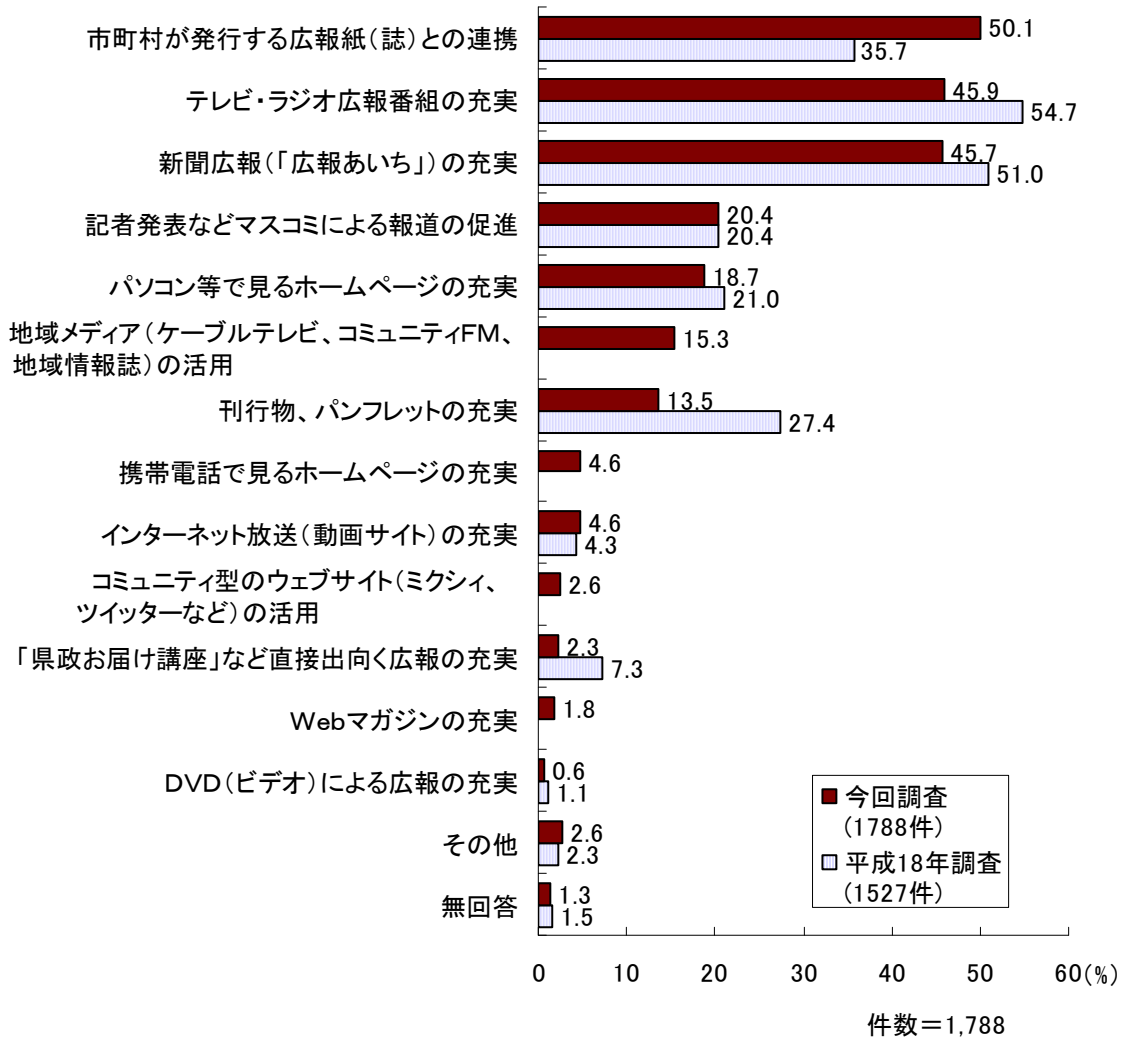
問4 県の広報を充実させるためには、どのような方法を取るのが効果的だと思いますか。次の中からあてはまるものを選んで番号に○印をつけてください。（○は3つまで）



県の広報を充実させる効果的な方法について、「市町村が発行する広報紙（誌）との連携」と答えた人の割合が50.1%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオ広報番組の充実」（45.9%）、「新聞広報（「広報あいち」）の充実」（45.7%）の順になっている。

県の広報を充実させる方法（時系列比較）

平成18年の県政世論調査と比較すると、「市町村が発行する広報紙（誌）との連携」と答えた人の割合は35.7%（平成18年調査）から50.1%（今回調査）と14.4ポイント高くなっている。



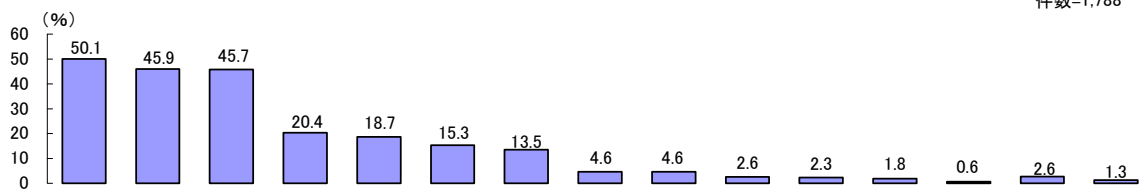
県の広報を充実させる方法（性別、年齢別、地域別、職業別）

◆性別でみると、「市町村が発行する広報紙（誌）との連携」と答えた人の割合は、男性（46.6%）より女性（55.8%）で9.2ポイント高くなっている。

◆年齢別でみると、「新聞広報（「広報あいち」）」の充実」と答えた人の割合は、60代以上で6割を超えている。また、「パソコン等で見るホームページの充実」と答えた人の割合は、年齢が下がるほど高くなっている。

◆地域別でみると、「市町村が発行する広報紙（誌）との連携」と答えた人の割合は、尾張地域（58.1%）が最も高くなっている。

◆職業別でみると、「市町村が発行する広報紙（誌）との連携」と答えた人の割合は、無職（57.7%）が最も高くなっている。

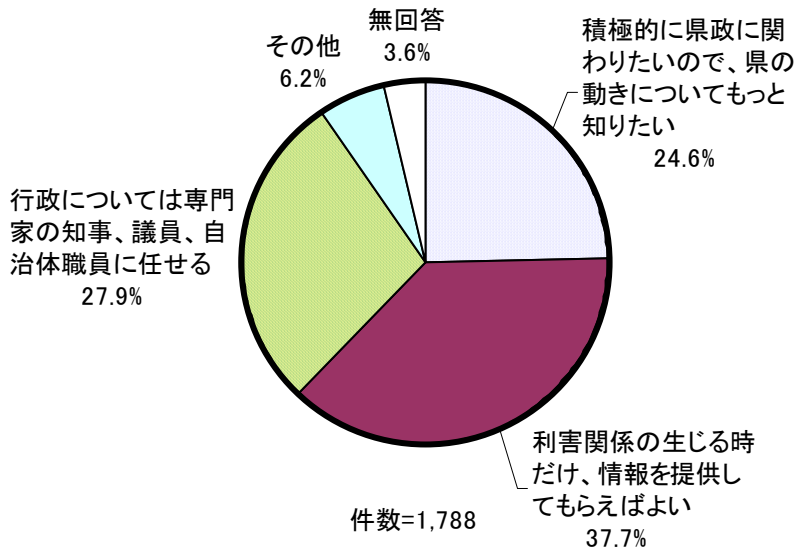


	市町村が発行する広報紙（誌）との連携	テレビ・ラジオ広報番組の充実	新聞広報（「広報あいち」）の充実	記者発表などマスコミによる報道の促進	パソコン等で見るホームページの充実	M、テレビ、地域情報誌の活用	地域メディア（ケーブリング、ケーブルテレビ）の活用	充実行物、パンフレットの発行	画（インターネット）の充実	携帯電話で見るホームページの充実	インターネットの活用	「県政お届け講座」など直接出向く広報の充実	Webマガジンの充実	DVD（ビデオ）による広報の充実	その他	無回答
性別	男性	46.6	45.6	46.6	22.1	20.9	14.3	13.5	5.5	4.3	2.8	2.5	2.5	0.6	3.0	1.0
	女性	55.8	46.7	44.5	17.8	15.2	16.9	13.3	3.3	5.3	2.1	2.1	0.9	0.6	2.1	1.5
年齢別	20～29歳	40.0	48.2	25.9	16.5	28.2	12.9	8.2	7.1	11.8	9.4	5.9	3.5	0.0	4.7	1.2
	30～39歳	44.9	36.0	29.7	22.0	25.0	19.5	12.3	6.4	8.9	4.7	1.7	3.8	0.8	3.8	0.8
	40～49歳	45.1	45.3	38.1	20.6	24.2	16.1	12.2	4.8	7.0	3.8	1.2	2.2	0.2	2.2	0.7
	50～59歳	50.4	47.1	46.9	20.9	17.6	15.5	14.3	4.8	3.3	1.2	2.9	1.9	0.6	2.5	1.2
	60～64歳	54.1	47.1	60.2	19.3	13.7	12.0	15.8	4.4	1.8	0.9	2.9	0.9	0.9	2.3	1.5
	65歳以上	62.9	53.5	60.6	20.7	8.0	15.0	13.6	1.4	0.5	0.5	1.4	0.0	0.9	2.3	1.9
地域別	名古屋地域	34.2	49.1	54.6	23.1	20.4	9.8	14.3	4.5	5.3	3.3	2.0	3.9	0.2	2.9	1.2
	尾張地域	58.1	45.5	45.6	20.1	16.8	15.3	15.0	4.5	5.3	1.5	2.4	0.7	1.0	2.5	1.2
	西三河地域	55.8	43.7	36.6	19.4	21.0	20.2	9.5	5.6	3.1	3.8	2.3	1.5	0.5	2.6	1.5
	東三河地域	53.3	44.6	42.1	14.9	16.9	20.5	14.4	4.1	4.1	1.5	3.1	1.0	0.5	2.6	0.5
職業別	自営業	45.8	47.8	45.1	20.6	15.4	16.2	16.2	4.3	4.0	1.6	3.6	1.6	0.0	4.3	1.6
	勤め人	47.3	44.9	43.2	21.0	21.9	15.6	12.8	6.0	5.1	3.5	1.8	2.7	0.5	2.4	0.8
	無職	57.7	47.2	51.8	19.3	14.0	14.7	13.2	2.1	4.2	1.0	2.5	0.2	1.3	2.3	1.7

(3) 協働のための情報提供のあり方

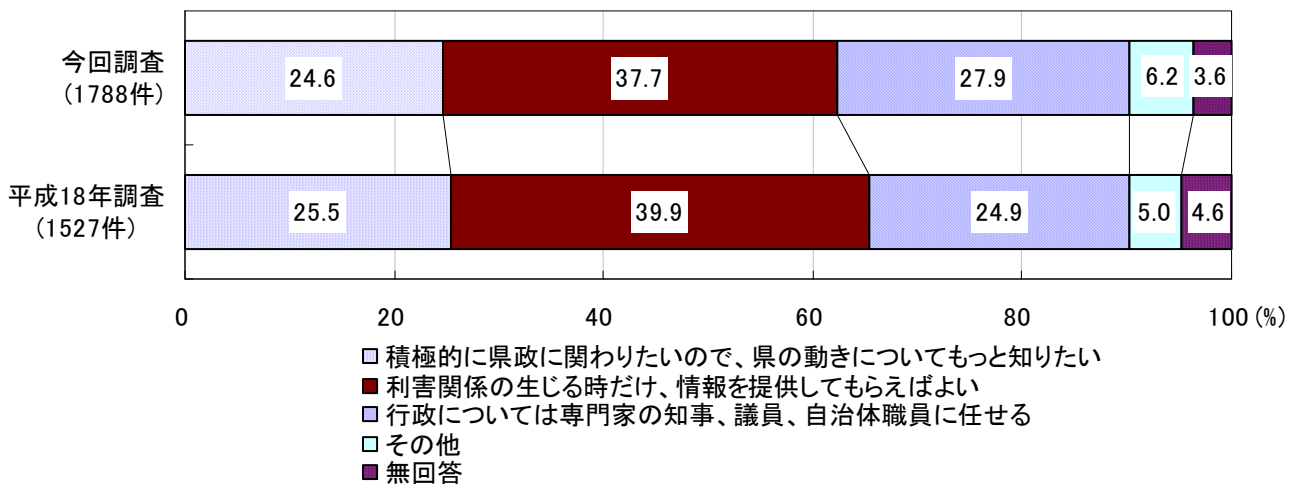
「積極的に県政に関わりたいので、県の動きについてもっと知りたい」が25%

問5 地域の経営は、そこに住む住民と自治体が協働して行っていくのが望ましいと言われていますが、そのための情報提供についてあなたの意見はありますか。次の中からあてはまるものを選んで番号に○印をつけてください。(○は1つ)



住民と自治体が協働して地域経営を行っていくための情報提供のあり方について、「利害関係の生じる時だけ、情報を提供してもらえばよい」と答えた人の割合が37.7%で最も高く、次いで「行政については専門家の知事、議員、自治体職員に任せる」(27.9%)、「積極的に県政に関わりたいので、県の動きについてもっと知りたい」(24.6%)の順になっている。

協働のための情報提供のあり方（時系列比較）



平成 18 年の県政世論調査と比較すると、「積極的に県政に関わりたいので、県の動きについてもっと知りたい」と答えた人の割合は 25.5%（平成 18 年調査）から 24.6%（今回調査）と 0.9 ポイント低くなっている。

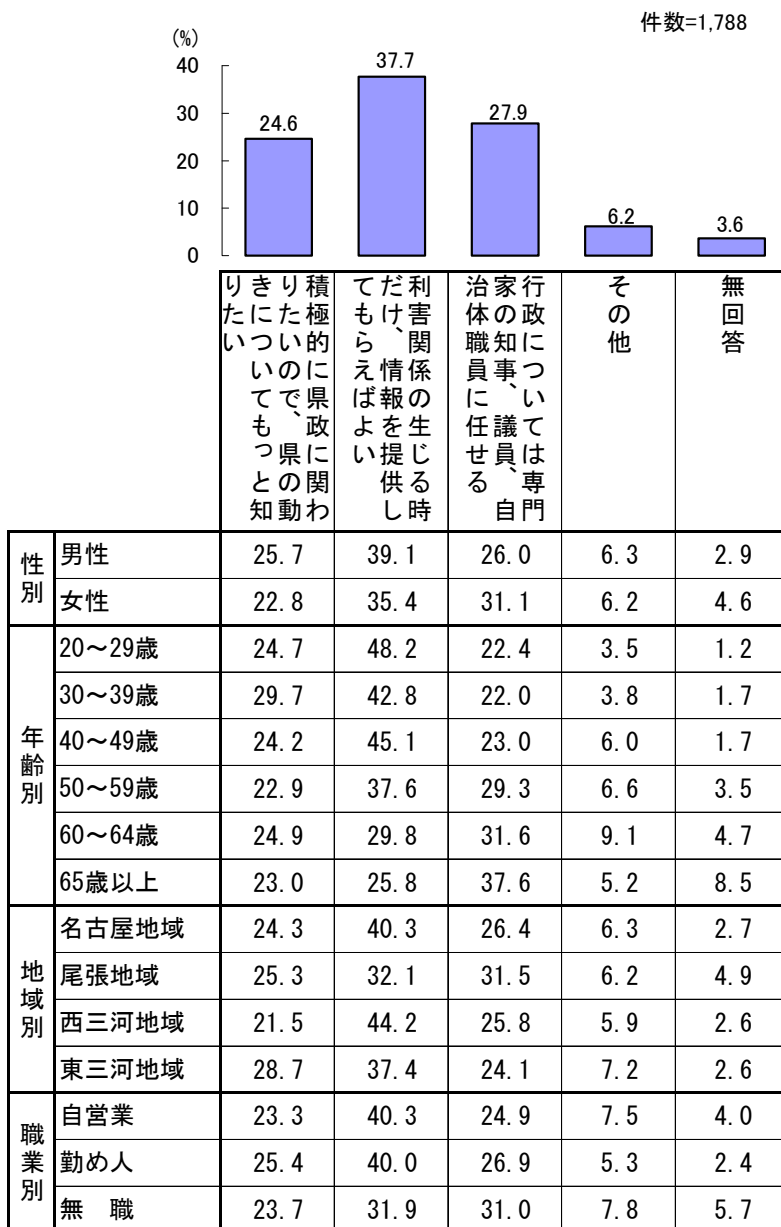
協働のための情報提供のあり方（性別、年齢別、地域別、職業別）

◆性別でみると、「積極的に県政に関わりたいので、県の動きについてもっと知りたい」と答えた人の割合は、女性（22.8%）より男性（25.7%）で 2.9 ポイント高くなっている。

◆年齢別でみると、「利害関係の生じる時だけ、情報を提供してもらえばよい」と答えた人の割合は、年齢が下がるほど高くなっており、40 代以下で 4 割を超えている。

◆地域別でみると、「積極的に県政に関わりたいので、県の動きについてもっと知りたい」と答えた人の割合は、東三河地域（28.7%）が最も高くなっている。

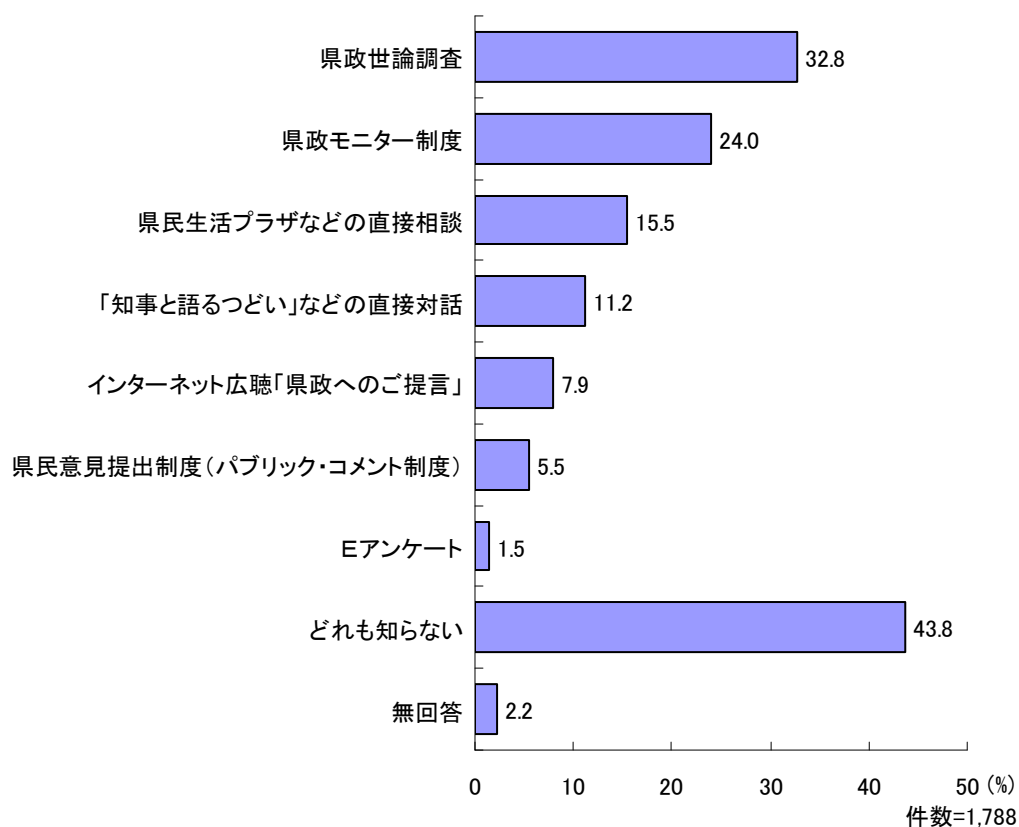
◆職業別でみると、「行政については専門家の知事、議員、自治体職員に任せる」と答えた人の割合は、無職（31.0%）が最も高くなっている。



(4) 県の広聴活動の認知状況

「県政世論調査」が33%

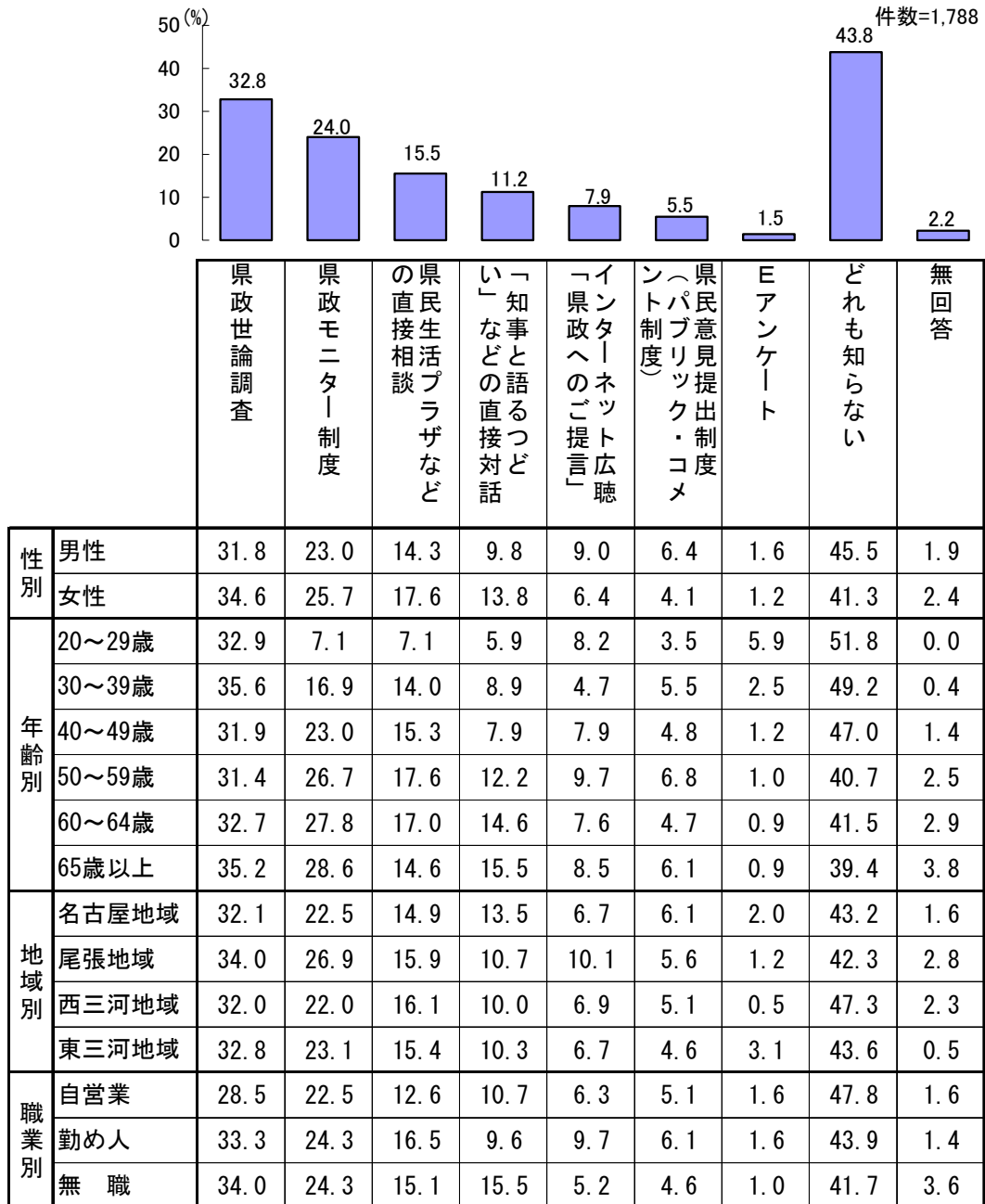
問6 県では、皆さんからのご意見やご要望を県政運営の参考にさせていただくため、様々な広聴活動を行っています。次に掲げる県の広聴活動のうち知っているものに○印をつけてください。
(○はいくつでも)



県政運営のための広聴活動について知っているものをたずねたところ、「県政世論調査」が32.8%と最も高く、次いで「県政モニター制度」(24.0%)、「県民プラザなどの直接相談」(15.5%)の順になっている。

県の広聴活動の認知状況（性別、年齢別、地域別、職業別）

- ◆性別でみると、「県政世論調査」と答えた人の割合は、男性（31.8%）より女性（34.6%）で2.8ポイント高くなっている。
- ◆年齢別でみると、「県政モニター制度」と答えた人の割合は、年齢が上がるほど高くなっている。
- ◆地域別でみると、「県政世論調査」と答えた人の割合は、尾張地域（34.0%）が最も高くなっている。
- ◆職業別でみると、「どれも知らない」と答えた人の割合は、自営業（47.8%）が最も高くなっている。



3 自動車運転代行業

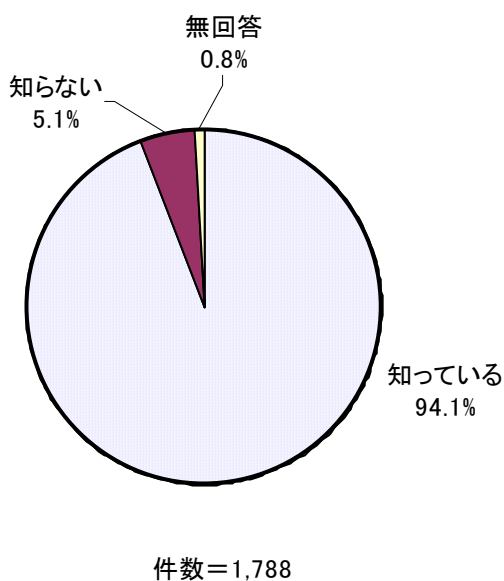
(1) 自動車運転代行業の認知度

「知っている」が94%

問7 あなたは、自動車運転代行業※を知っていますか。(○は1つ)

※自動車運転代行業

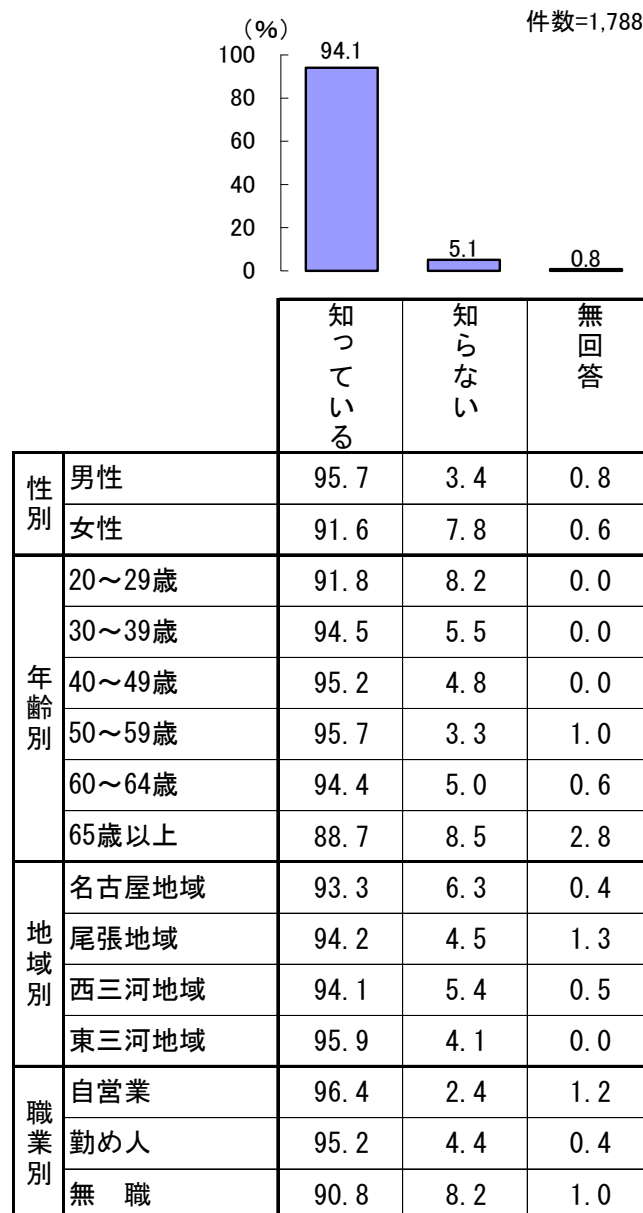
主に飲酒のため自分の自動車を運転することができなくなった顧客に代わって、業者の従業員が顧客を同乗させて顧客の自動車を代行運転するサービスであり、かつ業者の自動車が随伴する形態のもの。



自動車運転代行業について知っているかたずねたところ、「知っている」と答えた人の割合は94.1%となっている。

自動車運転代行業の認知度（性別、年齢別、地域別、職業別）

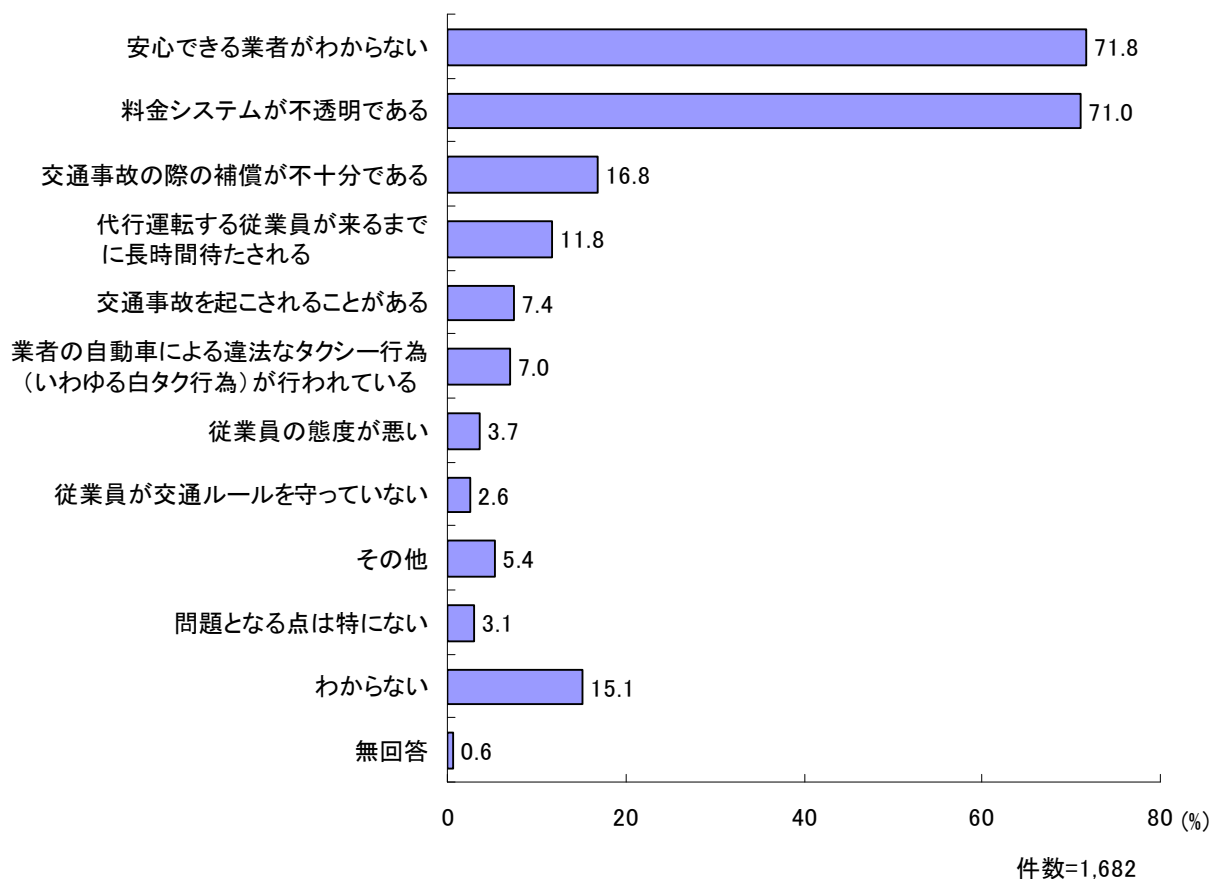
- ◆性別で見ると、「知っている」と答えた人の割合は、女性（91.6%）より男性（95.7%）で4.1ポイント高くなっている。
- ◆年齢別で見ると、「知っている」と答えた人の割合は、65歳以上（88.7%）を除いた全ての年代で9割を超えている。
- ◆地域別で見ると、「知っている」と答えた人の割合は、東三河地域（95.9%）が最も高くなっている。
- ◆職業別で見ると、「知っている」と答えた人の割合は、自営業（96.4%）が最も高くなっている。



(2) 自動車運転代行業の普及に当たっての問題点

「安心できる業者がわからない」が72%

問8 問7で「知っている」と回答された方にお聞きします。自動車運転代行業は飲酒運転の防止に役立つことが期待されていますが、自動車運転代行業が多くの人に利用されるようにするに当たって問題となる点は次のどれだと思いますか。(〇はいくつでも可)



自動車運転代行業の普及に当たっての問題点について、「安心できる業者がわからない」と答えた人の割合が71.8%と最も高く、次いで「料金システムが不透明である」(71.0%)、「交通事故の際の補償が不十分である」(16.8%)の順になっている。

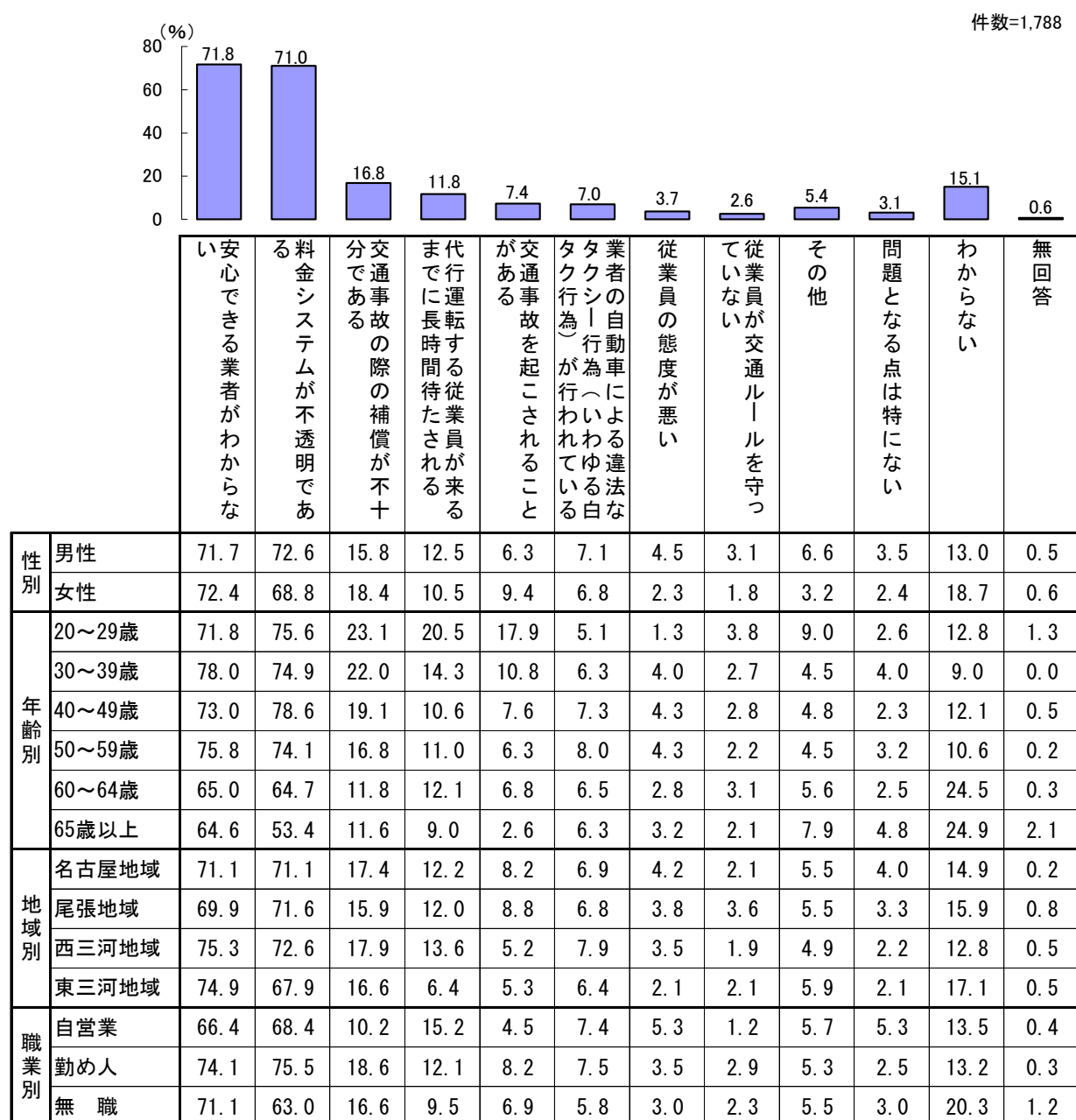
自動車運転代行業の普及に当たっての問題点（性別、年齢別、地域別、職業別）

◆性別でみると、「料金システムが不透明である」と答えた人の割合は、女性（68.8%）より男性（72.6%）で3.8ポイント高くなっている。

◆年齢別でみると、「安心できる業者がわからない」と答えた人の割合は、30代（78.0%）が最も高くなっている。

◆地域別でみると、「安心できる業者がわからない」と答えた人の割合は、西三河地域（75.3%）が最も高くなっている。

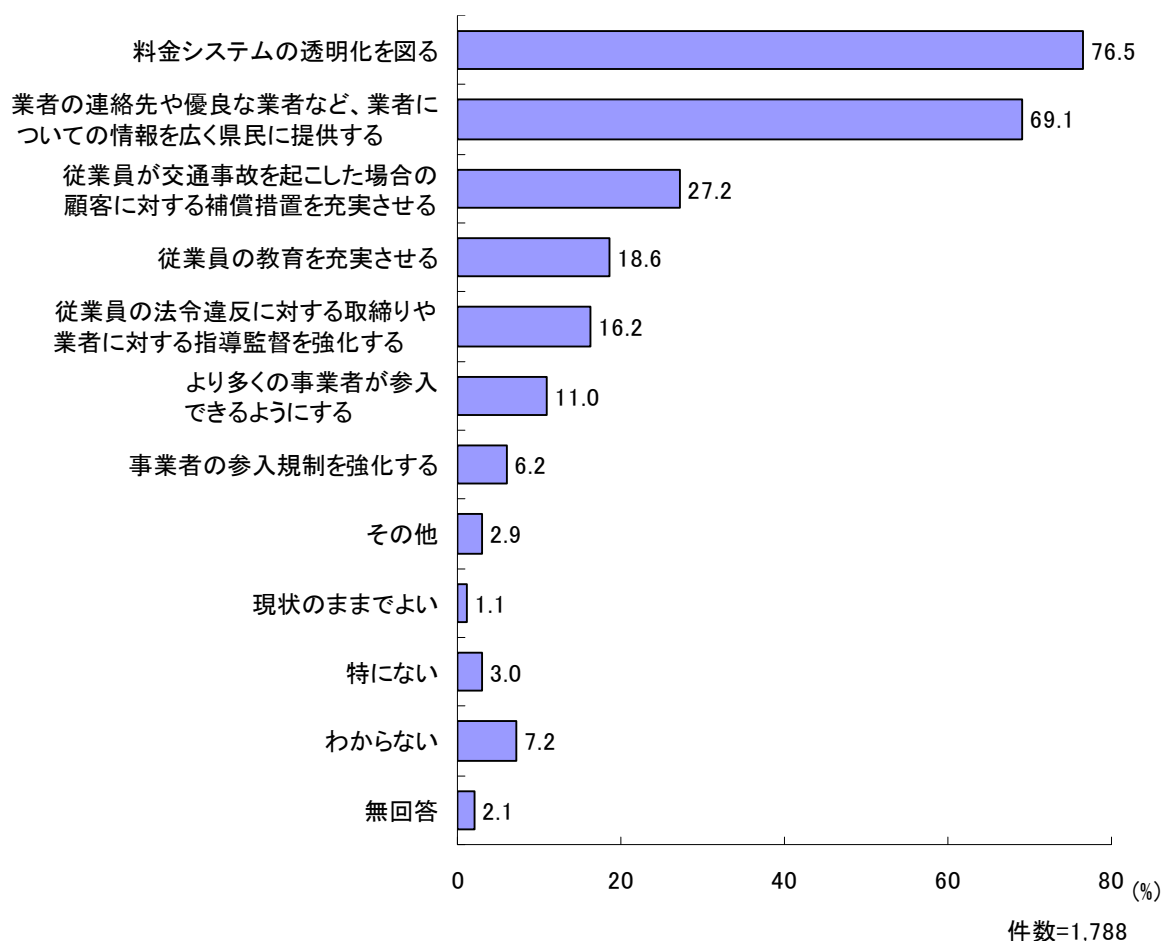
◆職業別でみると、「料金システムが不透明である」と答えた人の割合は、勤め人（75.5%）が最も高くなっている。



(3) 自動車運転代行業の普及方策

「料金システムの透明化を図る」が77%

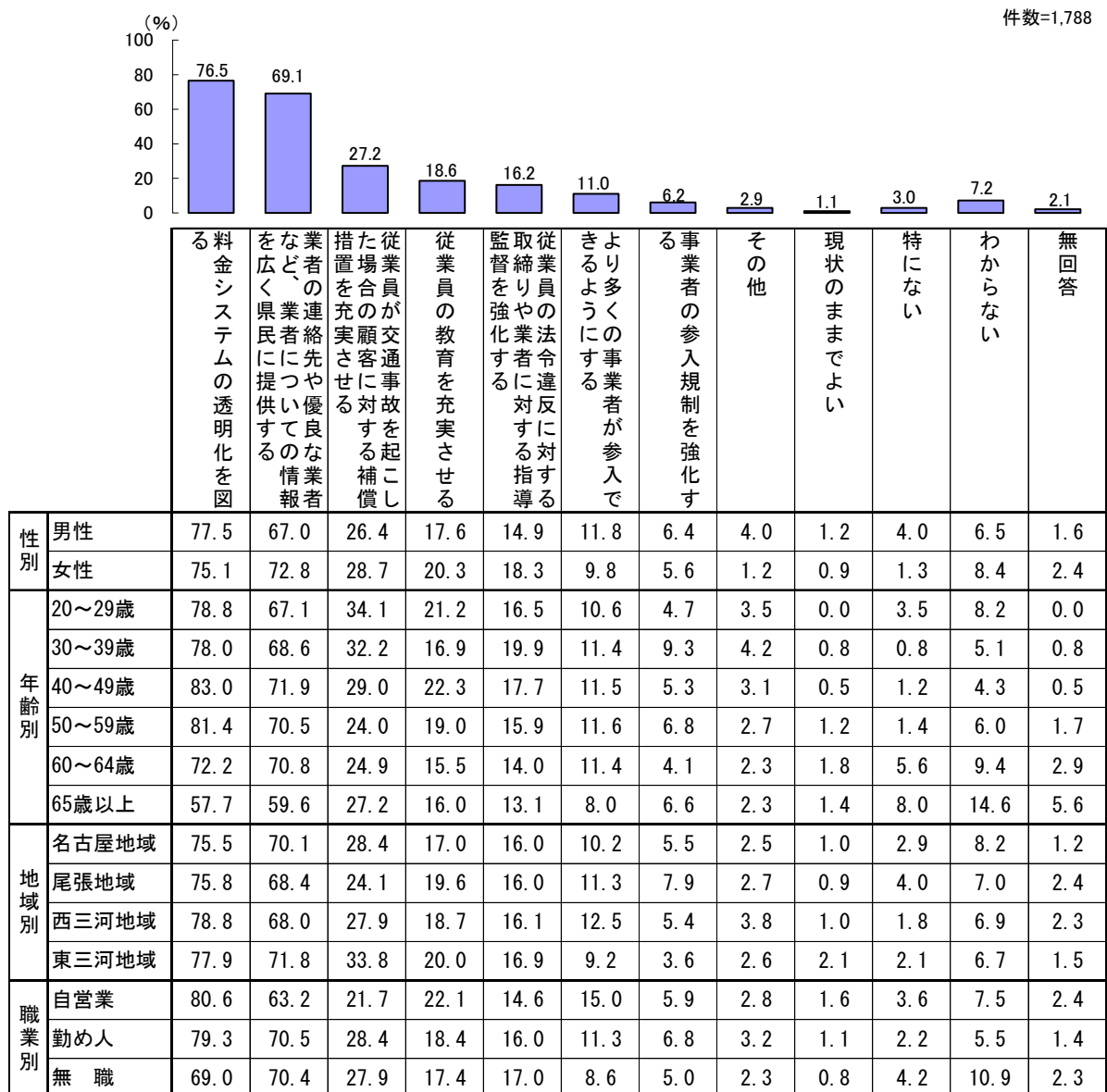
問9 自動車運転代行業が多くの人に利用されるようにするため、具体的にどのような方策を講ずるべきだと思いますか。(〇は3つまで)



自動車運転代行業の普及方策について、「料金システムの透明化を図る」と答えた人の割合が76.5%と最も高く、次いで「業者の連絡先や優良な業者など、業者についての情報を広く県民に提供する」(69.1%)、「従業員が交通事故を起こした場合の顧客に対する補償措置を充実させる」(27.2%)の順になっている。

自動車運転代行業の普及方策（性別、年齢別、地域別、職業別）

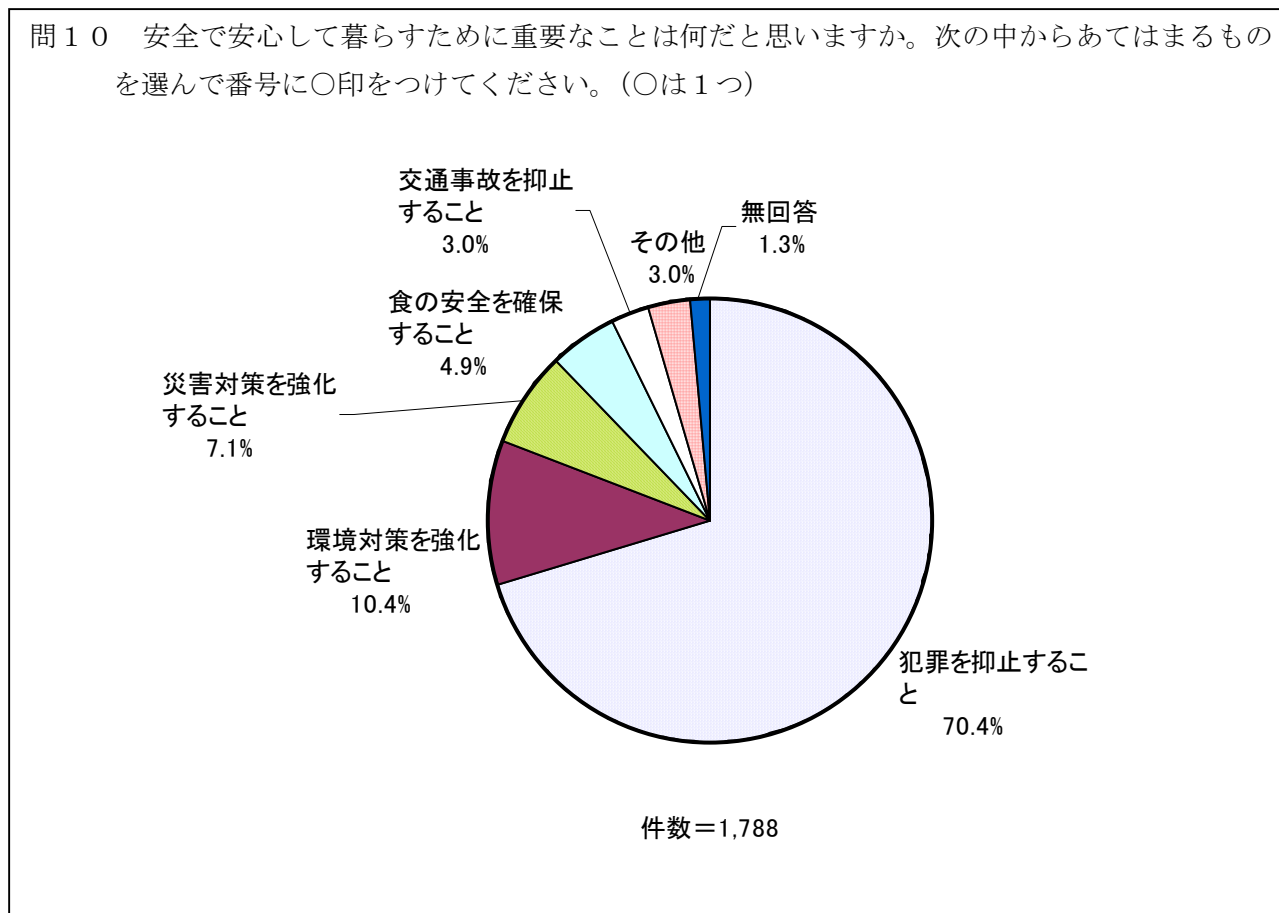
- ◆性別でみると、「業者の連絡先や優良な業者など、業者についての情報を広く県民に提供する」と答えた人の割合は、男性（67.0%）より女性（72.8%）で5.8ポイント高くなっている。
- ◆年齢別でみると、「料金システムの透明化を図る」と答えた人の割合は40代（83.0%）と50代（81.4%）で8割を超えている。
- ◆地域別でみると、「料金システムの透明化を図る」と答えた人の割合は西三河地域（78.8%）が最も高くなっている。
- ◆職業別でみると、「料金システムの透明化を図る」と答えた人の割合は自営業（80.6%）が最も高くなっている。



4 防犯活動

(1) 安全で安心して暮らすために重要なこと

「犯罪を抑止すること」が70%



安心して暮らすために重要なことについて、「犯罪を抑止すること」と答えた人の割合が70.4%と最も高く、次いで「環境対策を強化すること」(10.4%)、「災害対策を強化すること」(7.1%)の順になっている。

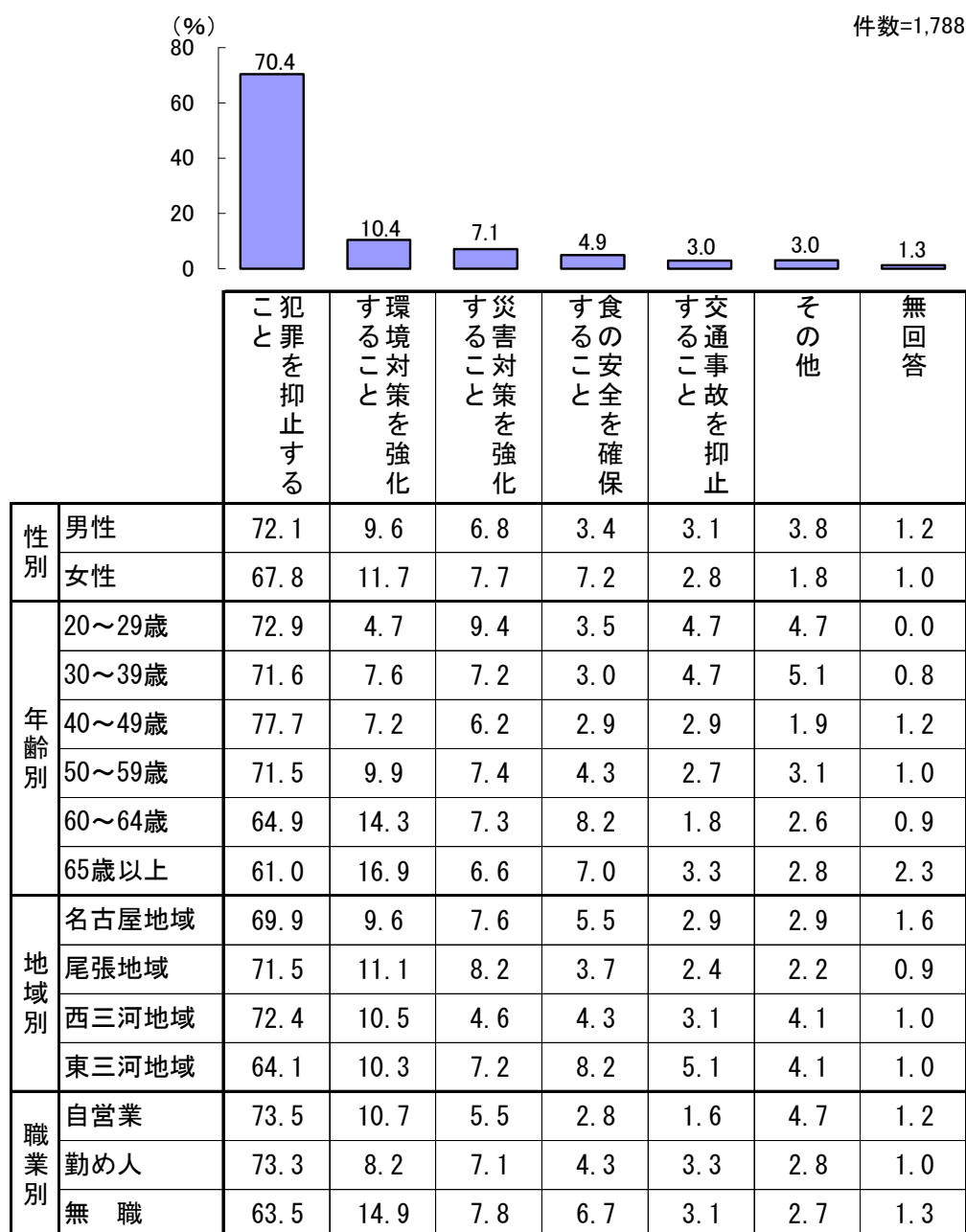
安全で安心して暮らすために重要なこと（性別、年齢別、地域別、職業別）

◆性別でみると、「犯罪を抑止すること」と答えた人の割合は、女性（67.8%）より男性（72.1%）で4.3ポイント高くなっている。

◆年齢別でみると、「環境対策を強化すること」と答えた人の割合は、概ね年齢が下がるほど低くなっている。

◆地域別でみると、「犯罪を抑止すること」と答えた人の割合は、西三河地域（72.4%）と尾張地域（71.5%）で7割を超えている。

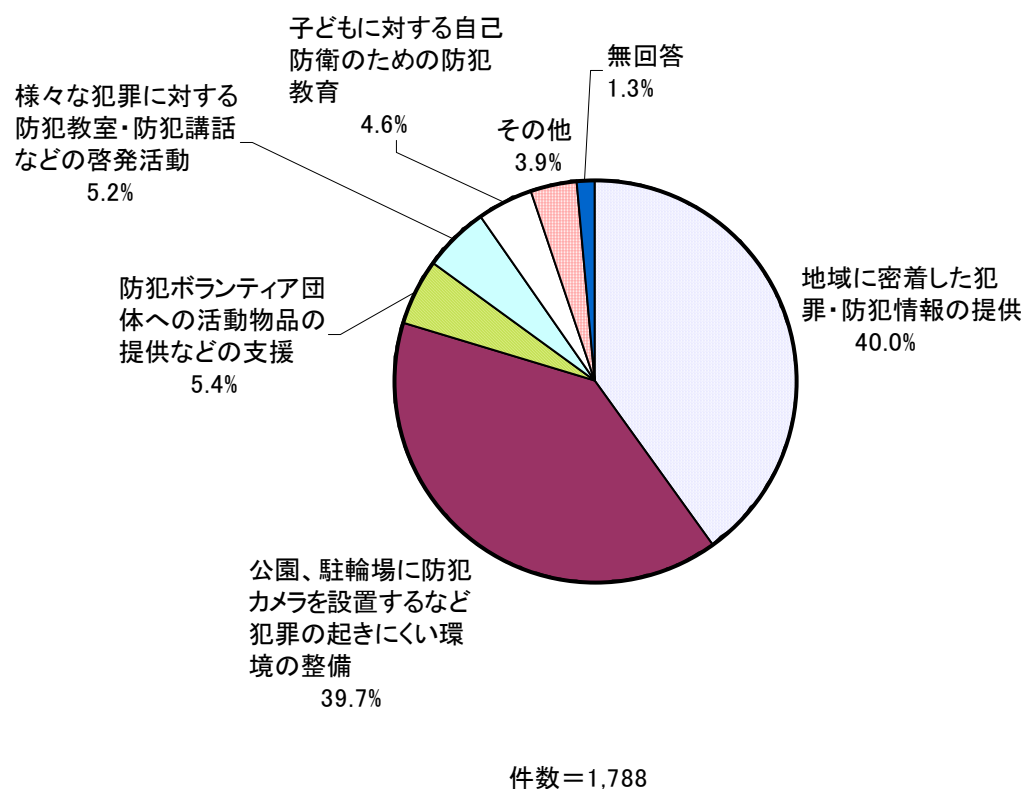
◆職業別でみると、「犯罪を抑止すること」と答えた人の割合は、自営業（73.5%）と勤め人（73.3%）で7割を超えている。



(2) 自治体に望む防犯対策

「地域に密着した犯罪・防犯情報の提供」と「公園、駐輪場に防犯カメラを設置するなど犯罪の起きにくい環境の整備」が40%

問 1 1 自治体に最も望む防犯対策は何ですか。次の中からあてはまるものを選んで番号に○印をつけてください。(○は1つ)



自治体に最も望む防犯対策について、「地域に密着した犯罪・防犯情報の提供」と答えた人の割合が40.0%で最も高く、次いで「公園、駐輪場に防犯カメラを設置するなど犯罪の起きにくい環境の整備」39.7%となっている。

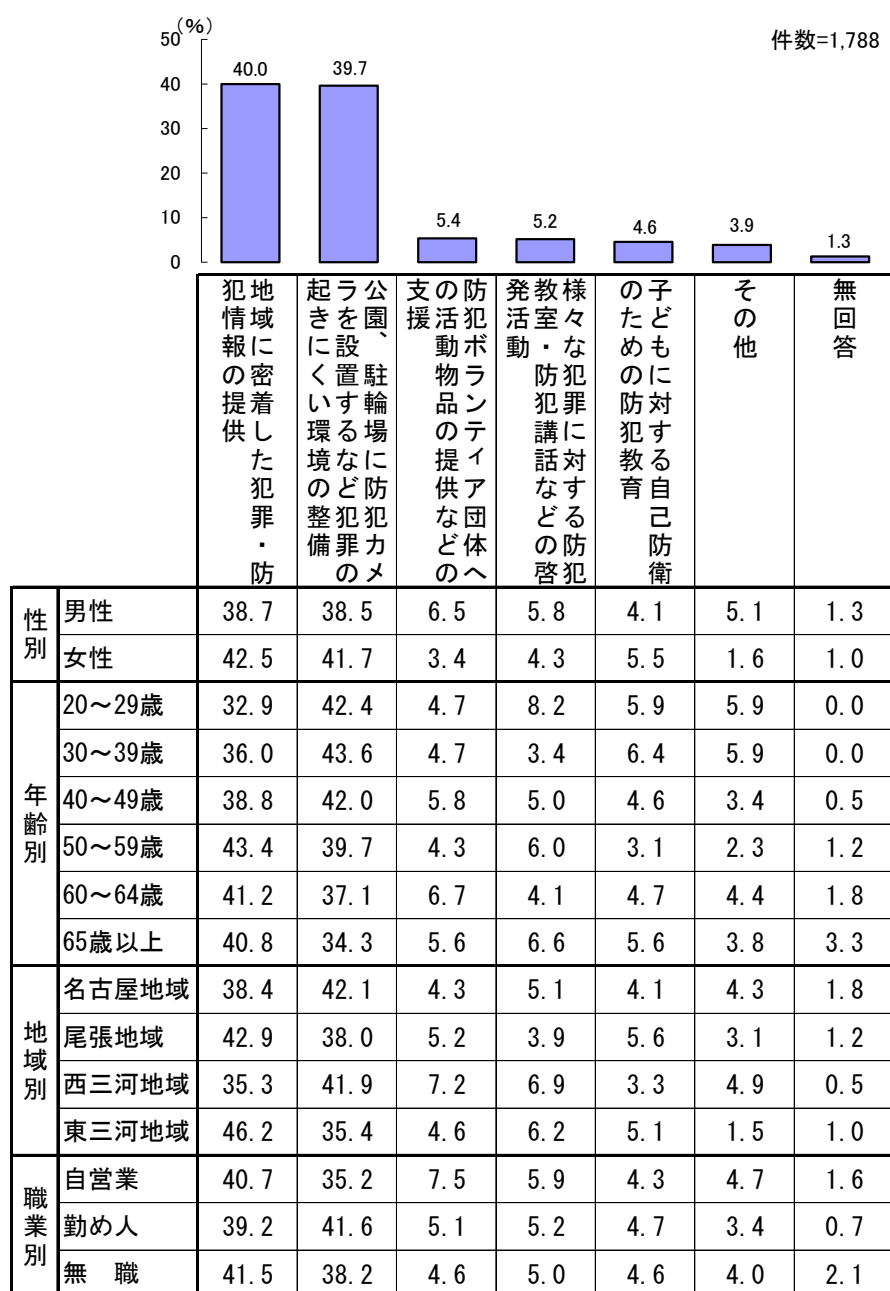
自治体に望む防犯対策（性別、年齢別、地域別、職業別）

◆性別で見ると、「地域に密着した犯罪・防犯情報の提供」と答えた人の割合は、男性（38.7%）より女性（42.5%）で3.8ポイント高くなっている。

◆年齢別で見ると、「地域に密着した犯罪・防犯情報の提供」と答えた人の割合は、50代以上で4割を超えている。また、「公園、駐輪場に防犯カメラを設置するなど犯罪の起きにくい環境の整備」と答えた人の割合は、40代以下で4割を超えている。

◆地域別で見ると、「地域に密着した犯罪・防犯情報の提供」と答えた人の割合は、東三河地域（46.2%）が最も高く、尾張地域（42.9%）が続いている。

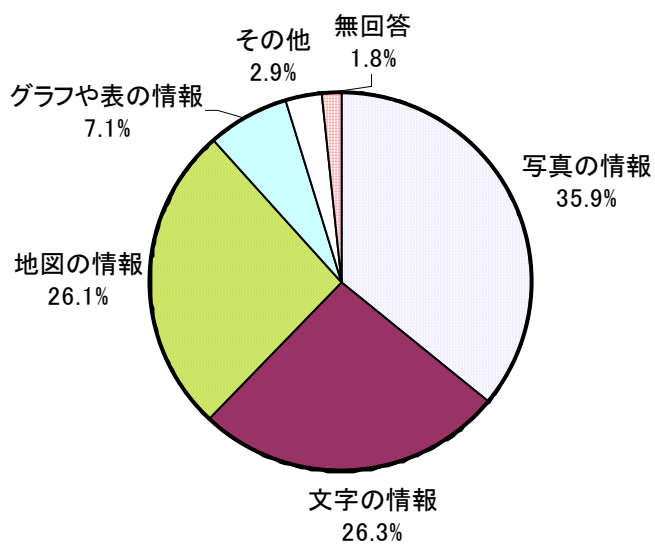
◆職業別で見ると、「公園、駐輪場に防犯カメラを設置するなど犯罪の起きにくい環境の整備」と答えた人の割合は勤め人（41.6%）が4割を超え最も高くなっている。



(3) 身近に感じる犯罪情報

「写真の情報」が36%

問12 犯罪発生状況について、どのような情報がより身近に感じますか。次の中からあてはまるものを選んで番号に○印をつけてください。(○は1つ)

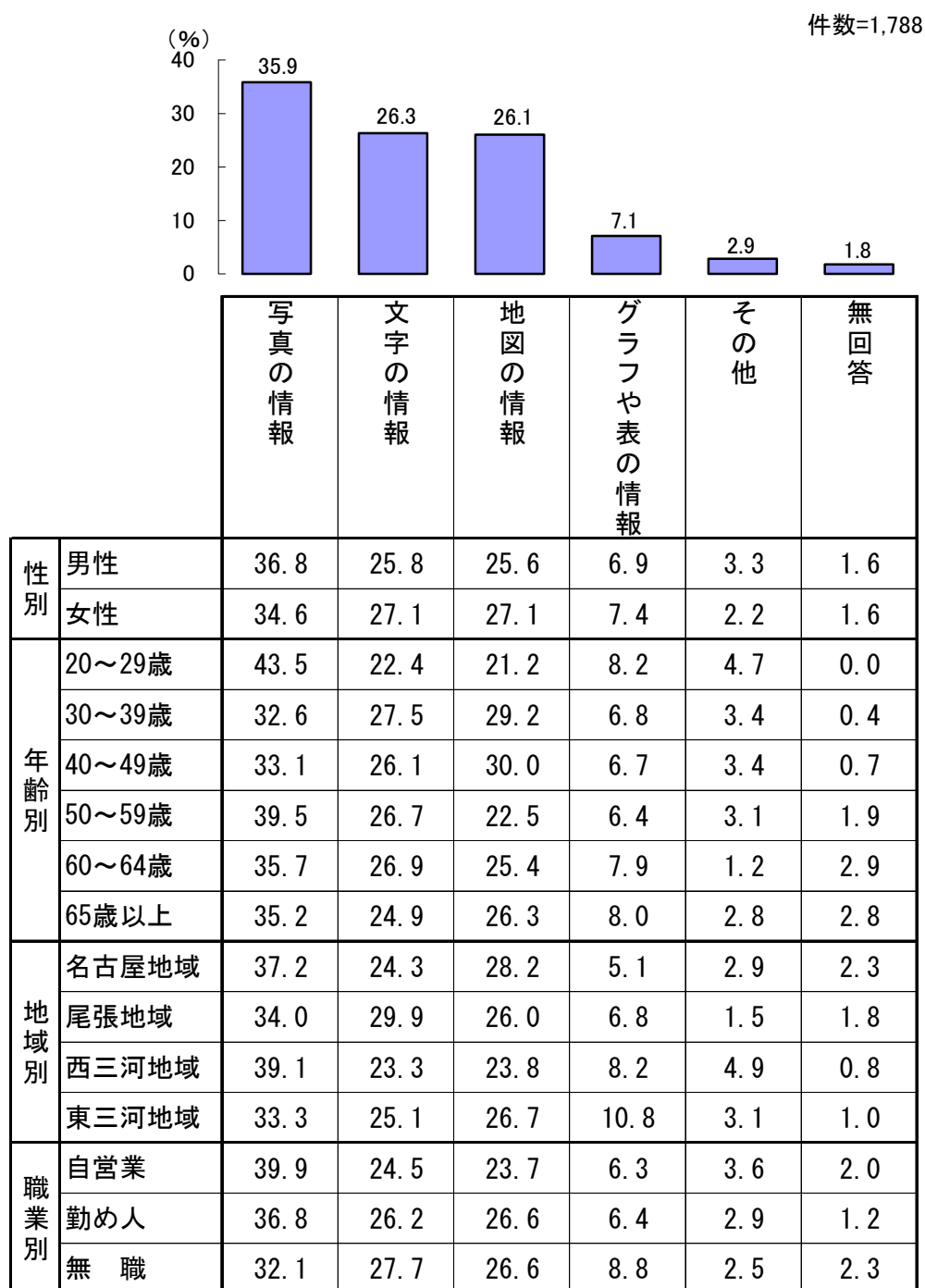


件数=1,788

身近に感じる犯罪発生状況の情報について、「写真の情報」と答えた人の割合が35.9%と最も高く、次いで「文字の情報」(26.3%)、「地図の情報」(26.1%)の順になっている。

身近に感じる犯罪情報（性別、年齢別、地域別、職業別）

- ◆性別でみると、「写真の情報」と答えた人の割合は、女性（34.6%）より男性（36.8%）で2.2ポイント高くなっている。
- ◆年齢別でみると、「写真の情報」と答えた人の割合は、20代（43.5%）が4割を超え最も高くなっている。
- ◆地域別でみると、「文字の情報」と答えた人の割合は、尾張地域（29.9%）が最も高くなっている。
- ◆職業別でみると、「写真の情報」と答えた人の割合は、自営業（39.9%）が最も高くなっている。

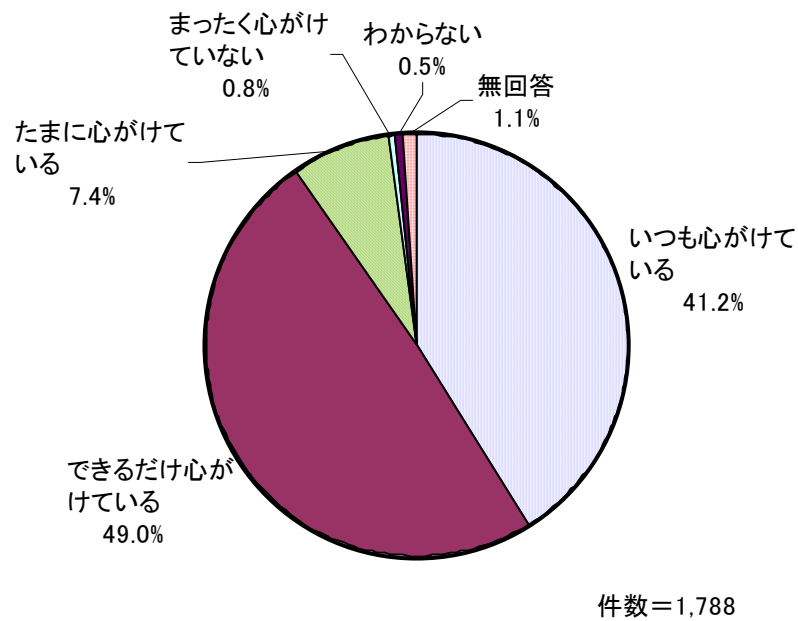


5 資源循環型社会づくり

(1) 日常生活における取り組み意識

「いつも心がけている」が41%

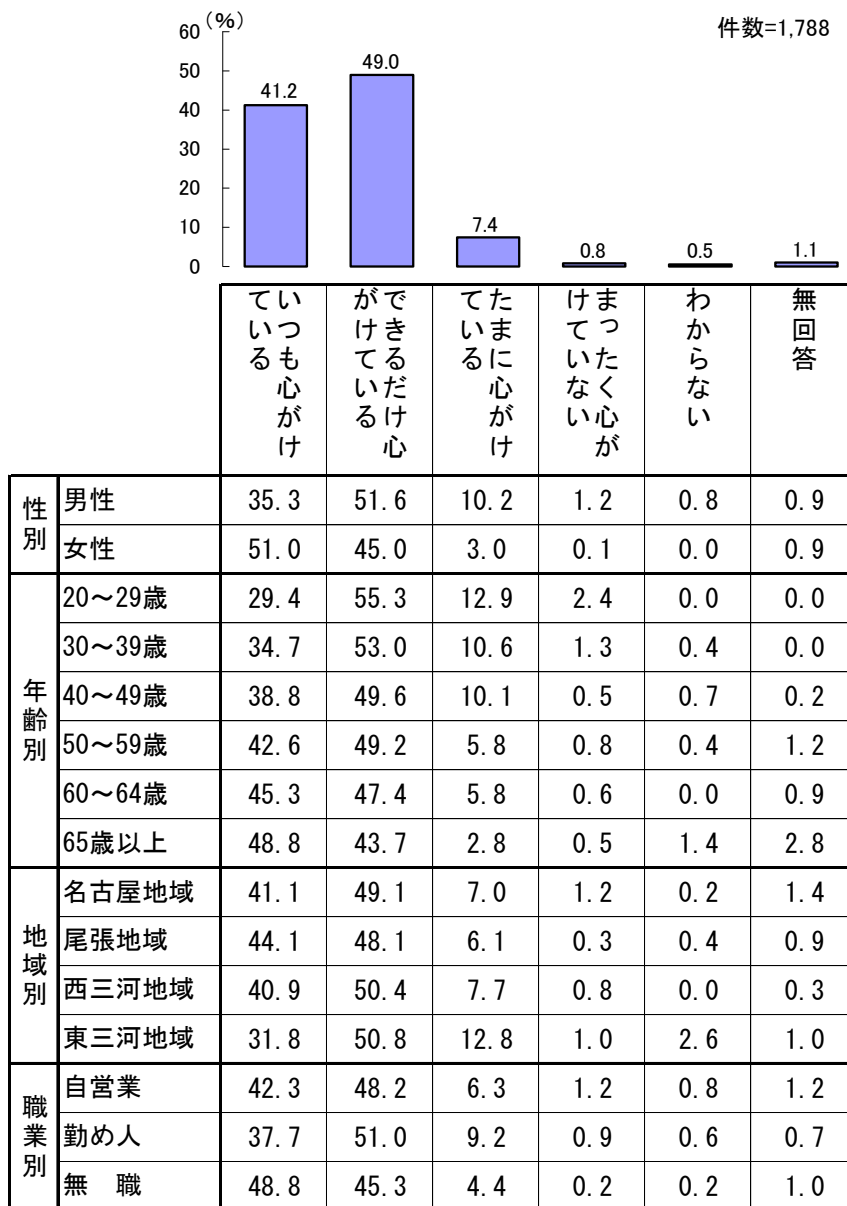
問13 大量消費、大量廃棄型のライフスタイルを見直し、できるだけごみを資源とする「循環型社会」をつくることが求められています。日常生活の中では、マイバッグの利用、詰め替え可能製品の購入などが考えられます。あなたは、このような取り組みについてどのように意識していますか。当てはまるものを選んでください。(〇は1つ)



日常生活における取り組み意識について、「いつも心がけている」と答えた人の割合は41.2%、「できるだけ心がけている」と答えた人の割合は49.0%となっている。

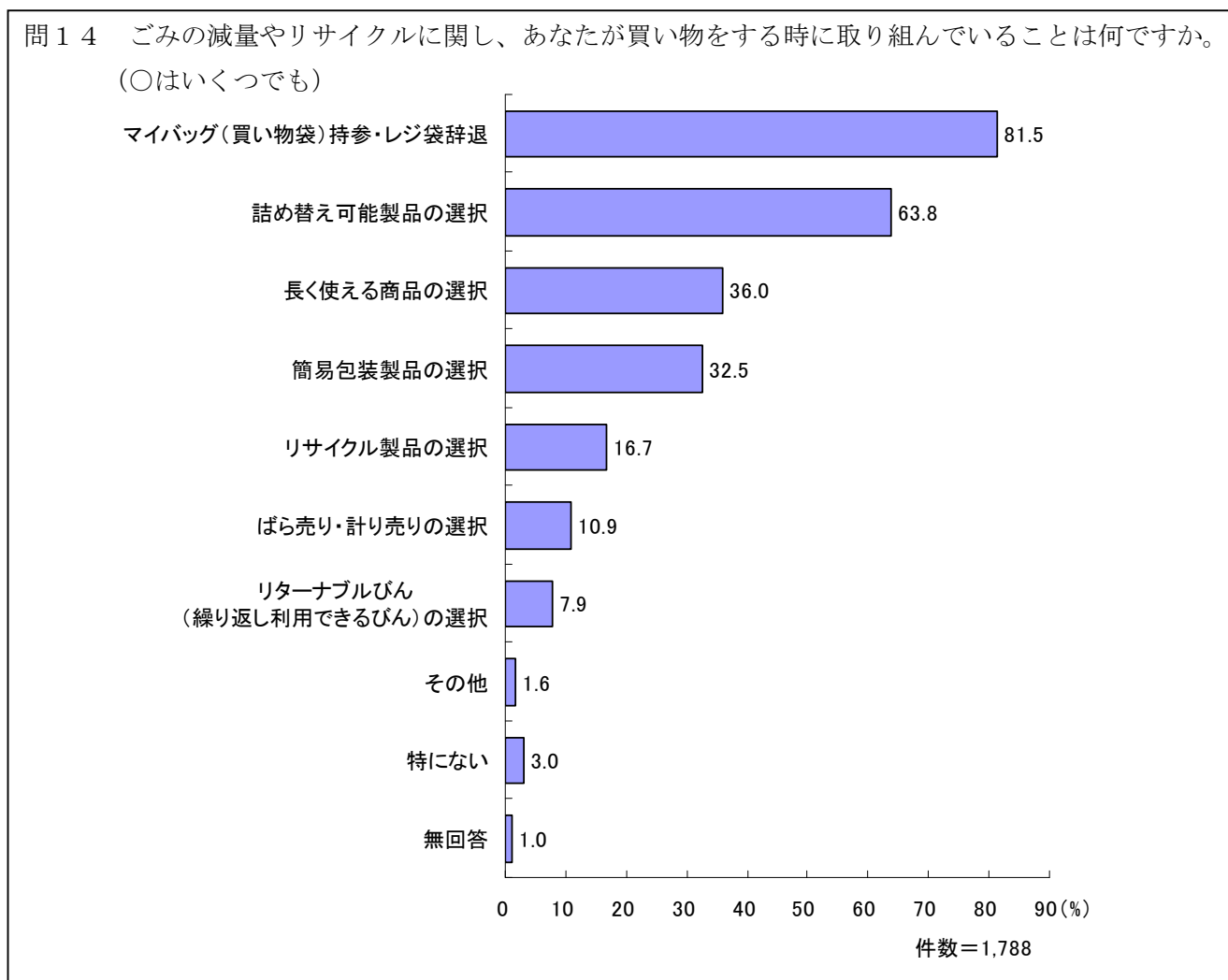
日常生活における取り組み意識（性別、年齢別、地域別、職業別）

- ◆性別で見ると、「いつも心がけている」と答えた人の割合は、男性（35.3%）より女性（51.0%）で15.7ポイント高くなっている。
- ◆年齢別で見ると、「いつも心がけている」と答えた人の割合は50代以上で4割を超えている。
- ◆地域別で見ると、「いつも心がけている」と答えた人の割合は、尾張地域（44.1%）が高く、東三河地域（31.8%）で低くなっている。
- ◆職業別で見ると、「いつも心がけている」と答えた人の割合は無職（48.8%）が高く、勤め人（37.7%）で低くなっている。



(2) 買い物をする時に取り組んでいること

「マイバッグ（買い物袋）持参・レジ袋辞退」が82%

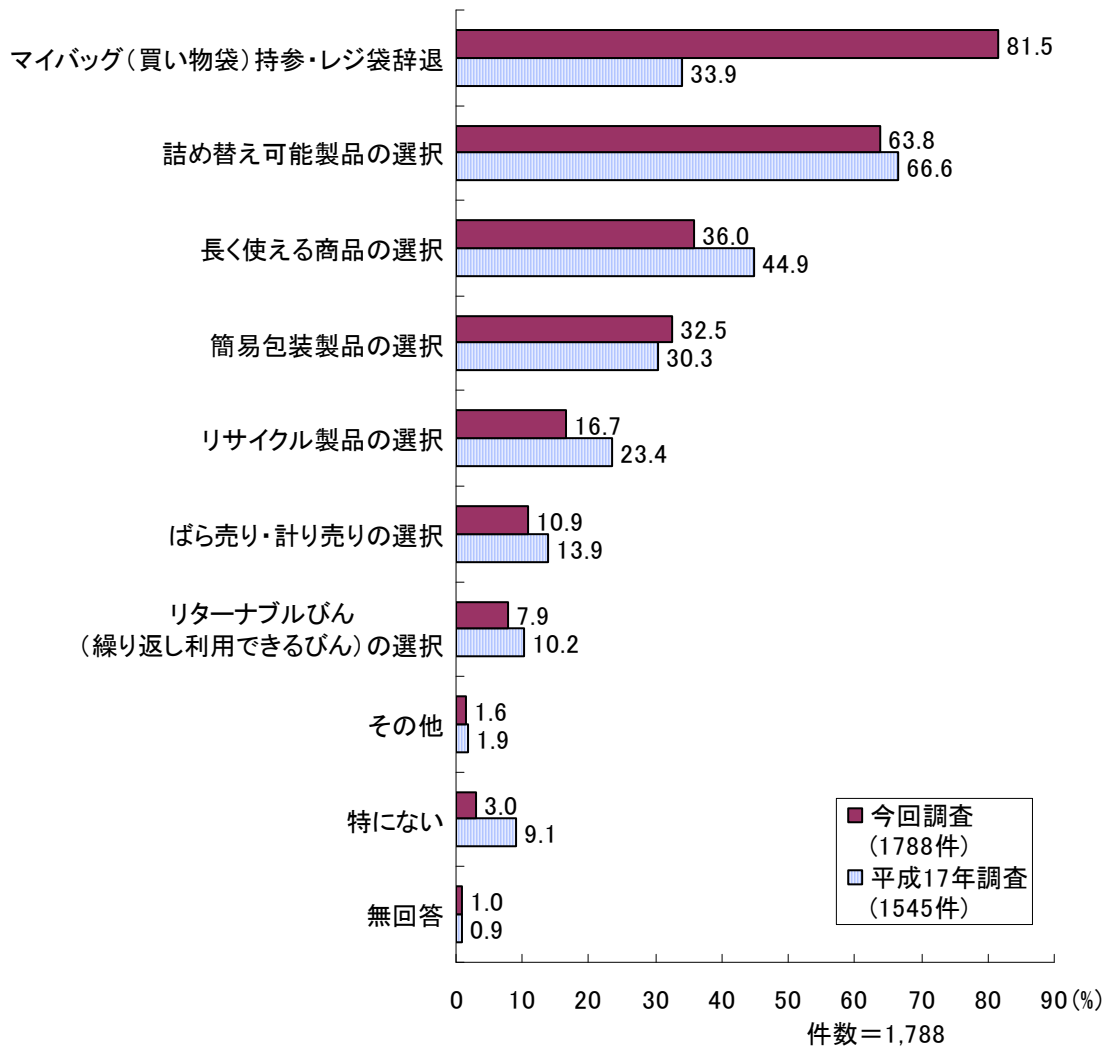


買い物をする時に取り組んでいることについて、「マイバッグ（買い物袋）持参・レジ袋辞退」と答えた人の割合が81.5%と最も高くなっている。次いで「詰め替え可能製品の選択」（63.8%）、「長く使える商品の選択」（36.0%）の順になっている。

買い物をする時に取り組んでいること（時系列比較）

平成 17 年の県政世論調査と比較すると「マイバッグ（買い物袋）持参・レジ袋辞退」と答えた人の割合は、33.9%（平成 17 年調査）から 81.5%（今回調査）と 47.6 ポイント、「簡易包装製品の選択」と答えた人の割合は、30.3%（平成 17 年調査）から 32.5%（今回調査）と 2.2 ポイント高くなっている。

一方、他の項目では平成 17 年調査より低くなっている傾向がみられ、「長く使える商品の選択」と答えた人の割合は、44.9%（平成 17 年調査）から 36.0%（今回調査）と 8.9 ポイント低くなっている。



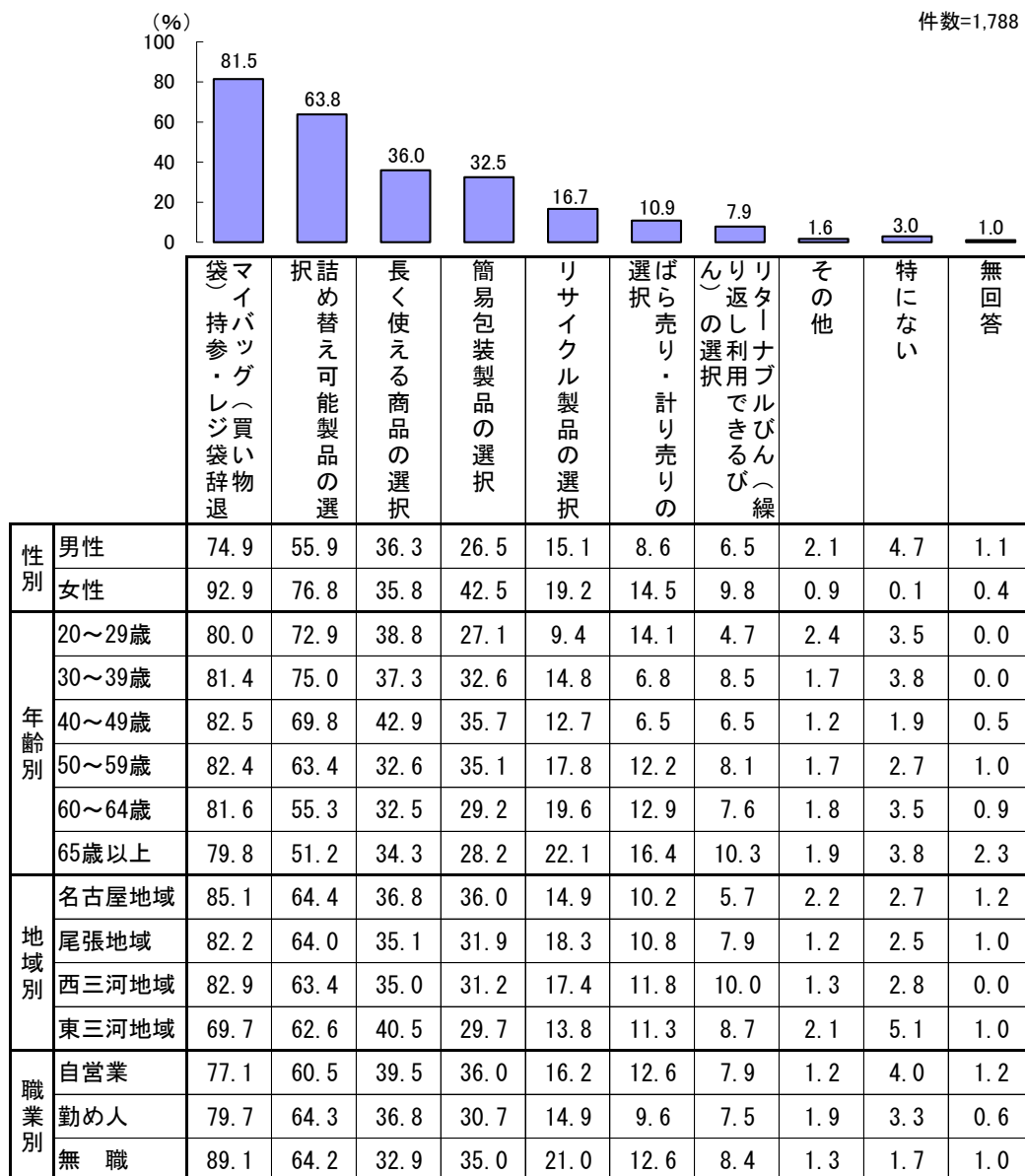
買い物をする時に取り組んでいること（性別、年齢別、地域別、職業別）

◆性別でみると、全体的に買い物をする時、男性よりも女性の方が積極的に取り組んでおり、特に「マイバッグ（買い物袋）持参・レジ袋辞退」と答えた人の割合は92.9%、「詰め替え可能製品の選択」と答えた人の割合は76.8%と高くなっている。

◆年齢別でみると、「詰め替え可能製品の選択」と答えた人の割合は30代以下では7割を超えているが、60代以上では5割程度である。「マイバッグ（買い物袋）持参・レジ袋辞退」については、年齢別でみると大きな差異はみられない。

◆地域別でみると、「マイバッグ（買い物袋）持参・レジ袋辞退」と答えた人の割合は、名古屋地域（85.1%）で高く、東三河地域（69.7%）で低くなっている。

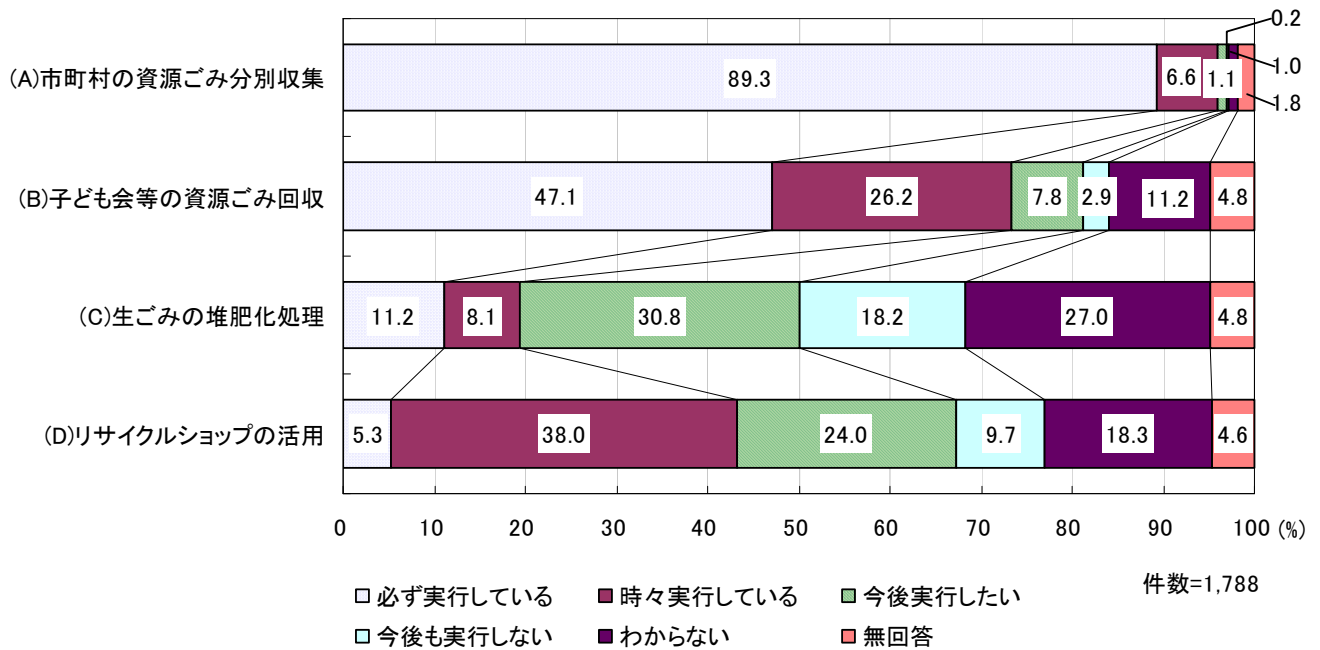
◆職業別でみると、「マイバッグ（買い物袋）持参・レジ袋辞退」と答えた人の割合は、無職（89.1%）で最も高くなっている。



(3) 物を捨てる時に取り組んでいること

『市町村の資源ごみ分別収集』を“実行している”が96%

問15 物を捨てる時の取り組みとして次のことが考えられますが、あなたは、それぞれについてどうしていますか。(○はそれぞれ1つ)



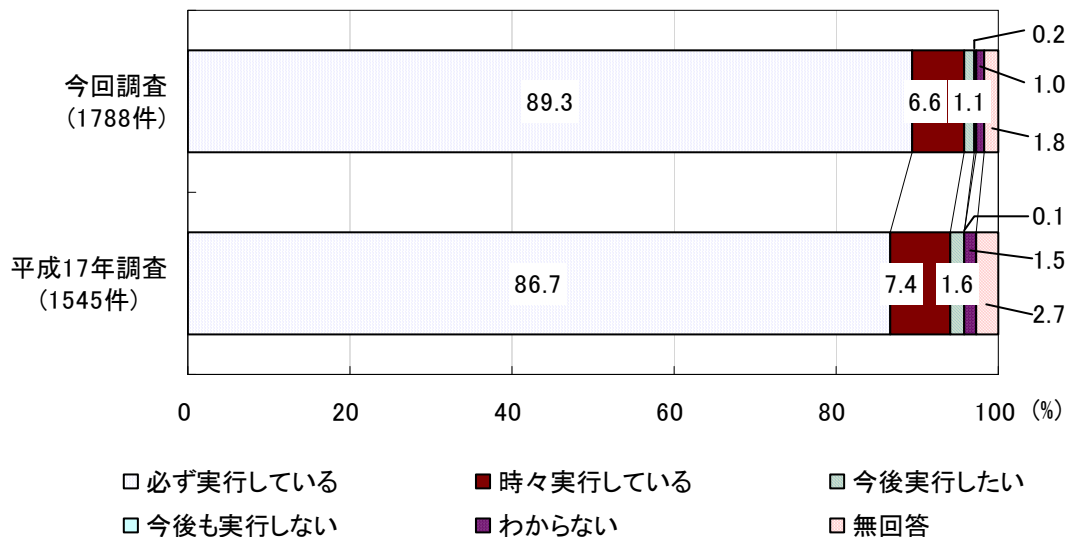
物を捨てる時の取り組みについて、『市町村の資源ごみ分別収集』を“実行している”(「必ず実行している」89.3%+「時々実行している」6.6%)と答えた人の割合は95.9%となっている。

また、『子ども会等の資源ごみ回収』を“実行している”と答えた人の割合も73.3%と高くなっている。

一方、『生ごみの堆肥化処理』を“実行している”と答えた人の割合は2割程に留まっている。

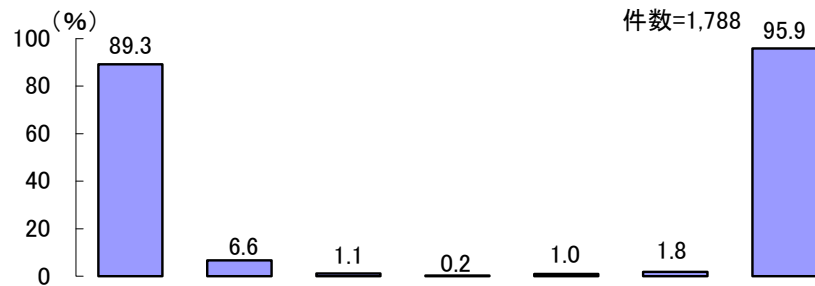
(A) 市町村の資源ごみ分別収集（時系列比較）

平成 17 年の県政世論調査と比較すると、“実行している”と答えた人の割合は、94.1%（平成 17 年調査）から 95.9%（今回調査）と 1.8 ポイント高くなっている。



市町村の資源ごみ分別収集（性別、年齢別、地域別、職業別）

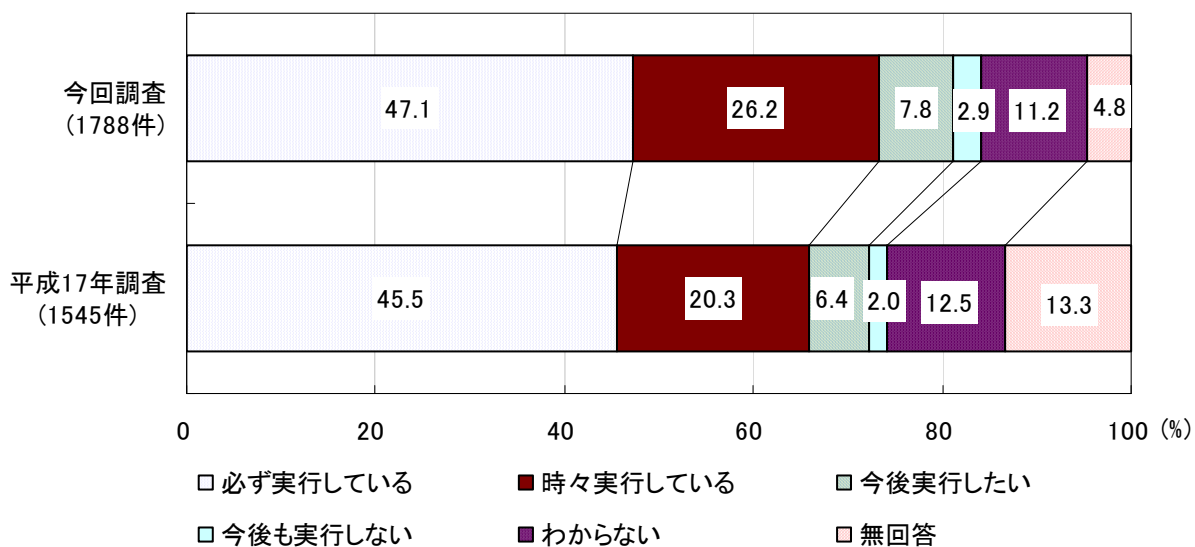
- ◆性別で見ると、「必ず実行している」と答えた人の割合は、男性（87.7%）より女性（92.3%）で4.6ポイント高くなっている。
- ◆年齢別で見ると、「必ず実行している」と答えた人の割合は、20代（70.6%）で低くなっている。
- ◆地域別で見ると、大きな差異はみられない。
- ◆職業別で見ると、「必ず実行している」と答えた人の割合は、無職（92.7%）が最も高い。



		必ず実行している	時々実行している	今後実行したい	今後実行しない	わからない	無回答	“実行している” (計)
性別	男性	87.7	7.8	1.4	0.2	1.3	1.6	95.6
	女性	92.3	4.6	0.7	0.3	0.4	1.6	96.9
年齢別	20～29歳	70.6	17.6	3.5	1.2	5.9	1.2	88.2
	30～39歳	86.0	9.7	3.0	0.4	0.8	0.0	95.8
	40～49歳	90.4	6.2	1.4	0.2	1.0	0.7	96.6
	50～59歳	90.1	6.6	0.8	0.2	0.6	1.7	96.7
	60～64歳	93.0	4.4	0.0	0.0	0.6	2.0	97.4
	65歳以上	92.0	2.8	0.0	0.0	0.5	4.7	94.8
地域別	名古屋地域	88.8	5.9	1.2	0.4	2.0	1.8	94.7
	尾張地域	89.5	6.8	1.2	0.0	0.3	2.2	96.3
	西三河地域	89.8	7.2	1.3	0.3	0.8	0.8	96.9
	東三河地域	90.3	6.7	0.5	0.5	1.0	1.0	96.9
職業別	自営業	88.1	7.1	1.2	0.8	1.2	1.6	95.3
	勤め人	88.3	7.5	1.5	0.2	1.1	1.4	95.8
	無職	92.7	4.2	0.2	0.0	0.6	2.3	96.9

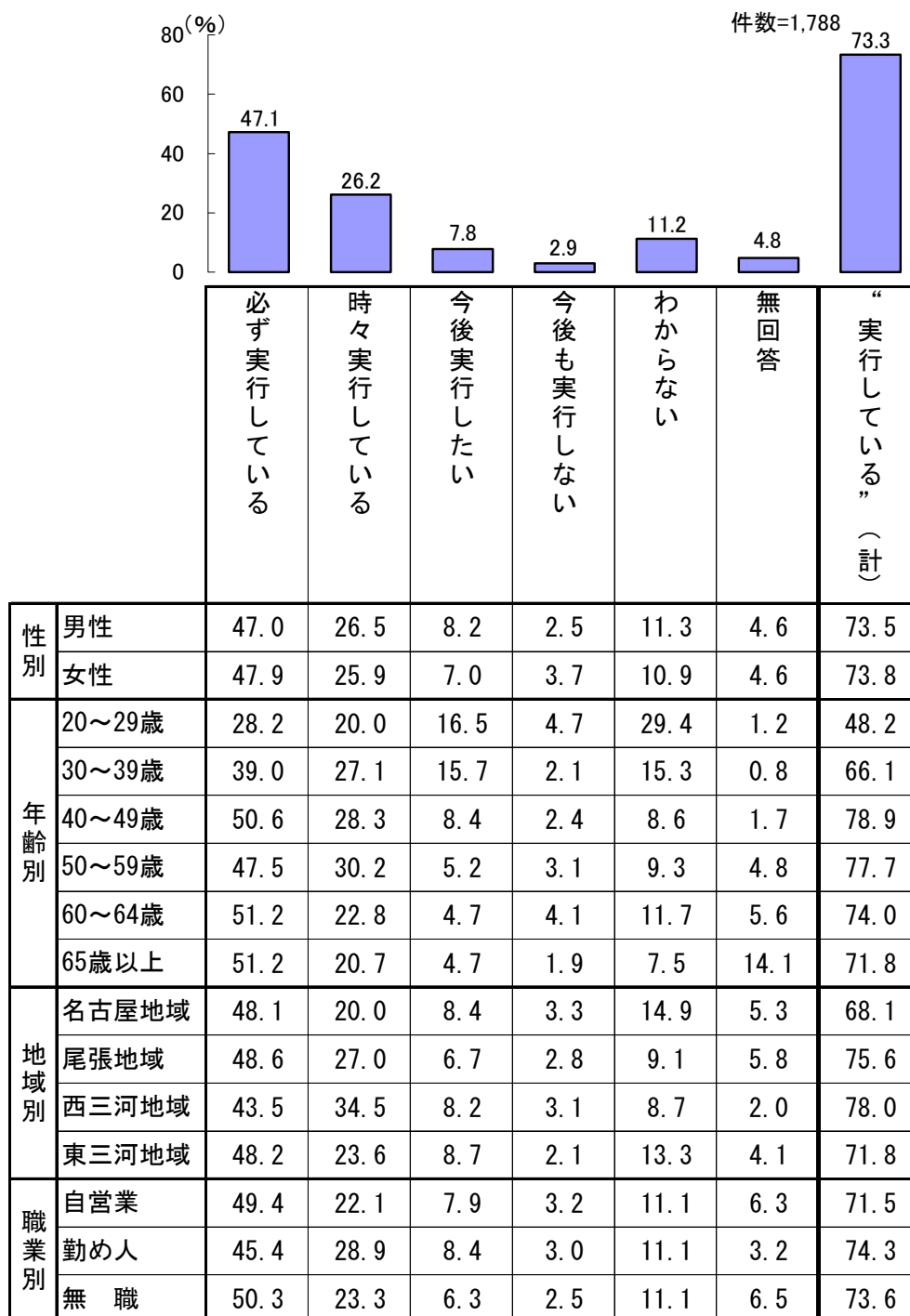
(B) 子ども会等の資源ごみ回収（時系列比較）

平成17年の県政世論調査と比較すると、“実行している”と答えた人の割合は、65.8%（平成17年調査）から73.3%（今回調査）と7.5ポイント高くなっている。



子ども会等の資源ごみ回収（性別、年齢別、地域別、職業別）

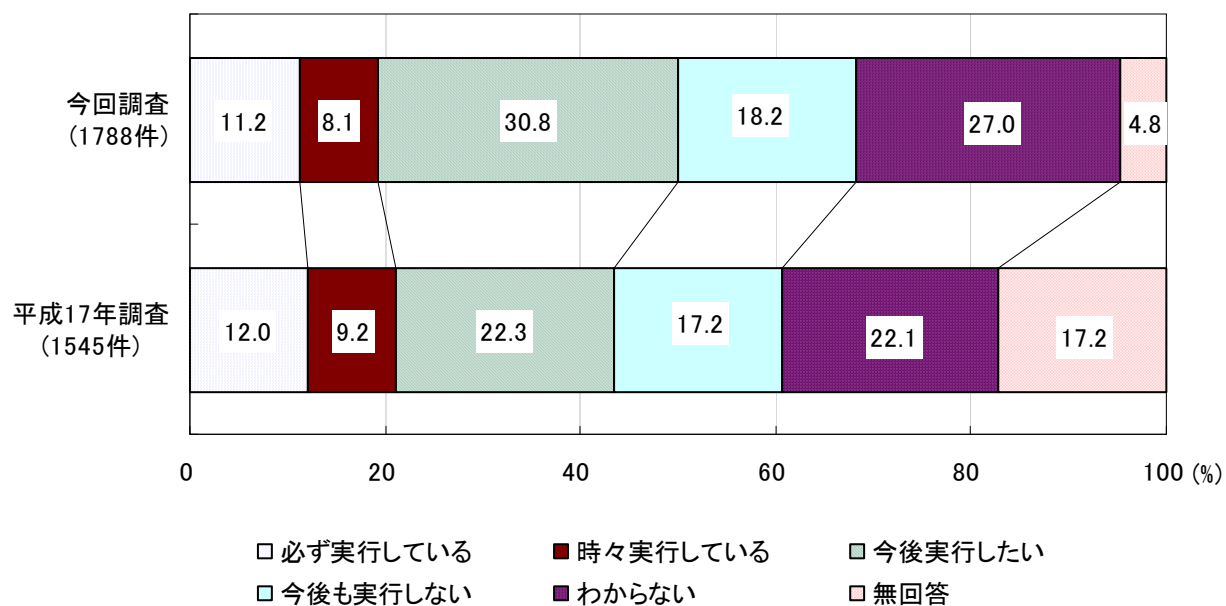
- ◆性別でみると、大きな差異はみられない。
- ◆年齢別でみると、“実行している”と答えた人の割合は、20代（48.2%）で低くなっている。
- ◆地域別でみると、“実行している”と答えた人の割合は、名古屋地域（68.1%）で低くなっている。
- ◆職業別でみると、大きな差異はみられない。



(C) 生ごみの堆肥化处理（時系列比較）

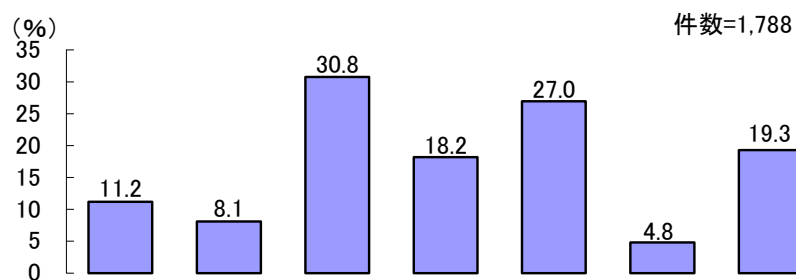
平成 17 年の県政世論調査と比較すると、「今後実行したい」と答えた人の割合は、22.3%（平成 17 年調査）から 30.8%（今回調査）と 8.5 ポイント高くなっている。

一方、平成 17 年の県政世論調査と比較すると、“実行している”と答えた人の割合は、21.2%（平成 17 年調査）から 19.3%（今回調査）と 1.9 ポイント低くなっている。



生ごみの堆肥化处理（性別、年齢別、地域別、職業別）

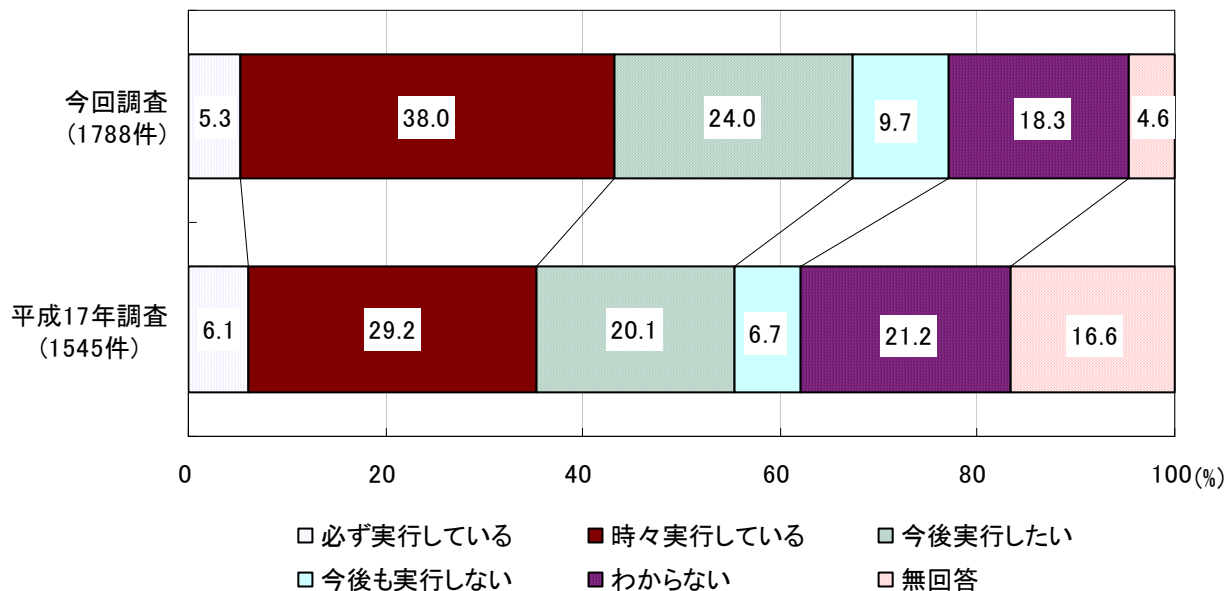
- ◆性別でみると、大きな差異はみられない。
- ◆年齢別でみると、30代及び40代で“実行している”と答えた人の割合は12.7%で最も低いが、「今後実行したい」と答えた人の割合は37.3%、35.0%と高くなっている。
- ◆地域別でみると、“実行している”と答えた人の割合は、名古屋地域（16.2%）で低くなっている。
- ◆職業別でみると、“実行している”と答えた人の割合は、自営業（27.3%）で高く、勤め人（15.5%）で低くなっている。



		必ず実行している	時々実行している	今後実行したい	今後も実行しない	わからない	無回答	“実行している” (計)
性別	男性	10.6	7.9	30.8	18.1	27.6	5.0	18.5
	女性	12.3	8.4	30.9	18.2	26.0	4.1	20.7
年齢別	20～29歳	12.9	2.4	29.4	17.6	37.6	0.0	15.3
	30～39歳	6.4	6.4	37.3	16.9	32.2	0.8	12.7
	40～49歳	8.2	4.6	35.0	23.0	26.9	2.4	12.7
	50～59歳	12.0	8.9	30.8	16.1	27.3	5.0	20.9
	60～64歳	13.2	12.0	23.4	17.0	28.1	6.4	25.1
	65歳以上	17.4	11.3	27.7	16.9	15.0	11.7	28.6
地域別	名古屋地域	10.0	6.3	28.4	19.2	31.3	4.9	16.2
	尾張地域	10.8	9.7	31.2	16.3	26.0	5.9	20.5
	西三河地域	14.8	6.1	32.0	20.2	23.3	3.6	21.0
	東三河地域	8.2	11.3	33.8	18.5	26.2	2.1	19.5
職業別	自営業	17.0	10.3	28.1	16.2	22.5	5.9	27.3
	勤め人	8.1	7.3	33.1	20.1	28.1	3.2	15.5
	無職	14.5	8.8	27.5	14.9	27.3	7.1	23.3

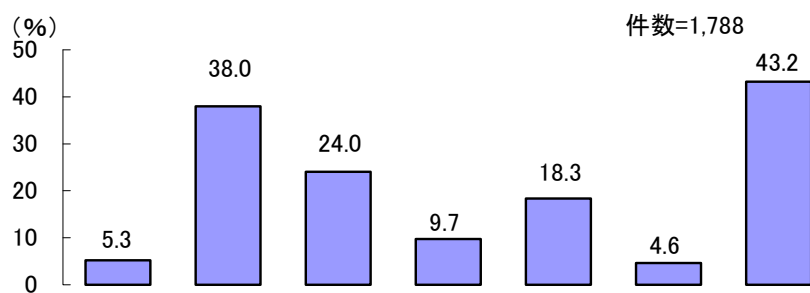
(D) リサイクルショップの活用（時系列比較）

平成 17 年の県政世論調査と比較すると、“実行している” と答えた人の割合は、35.3%（平成 17 年調査）から 43.2%（今回調査）と 7.9 ポイント高くなっている。



リサイクルショップの活用（性別、年齢別、地域別、職業別）

- ◆性別で見ると、大きな差異はみられない。
- ◆年齢別で見ると、“実行している”と答えた人の割合は30代で5割を超えている。
- ◆地域別で見ると、“実行している”と答えた人の割合は東三河地域（48.2%）で高くなっている。
- ◆職業別で見ると、“実行している”と答えた人の割合は勤め人（44.9%）で高くなっている。



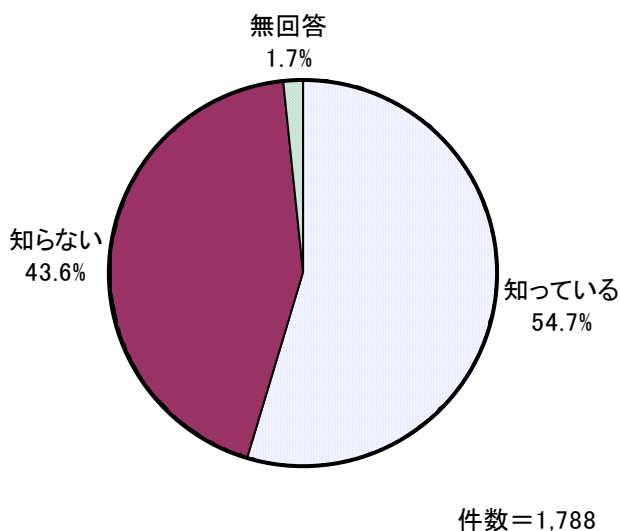
		必ず実行している	時々実行している	今後実行したい	今後も実行しない	わからない	無回答	“実行している” (計)
性別	男性	4.9	37.5	24.7	10.5	17.3	5.1	42.4
	女性	5.9	38.9	22.9	8.6	20.1	3.6	44.8
年齢別	20～29歳	7.1	34.1	22.4	12.9	23.5	0.0	41.2
	30～39歳	3.8	52.1	24.6	8.9	9.7	0.8	55.9
	40～49歳	4.3	42.7	25.2	9.4	16.5	1.9	47.0
	50～59歳	4.8	38.4	23.3	9.5	19.6	4.3	43.2
	60～64歳	6.7	30.7	20.2	10.2	26.0	6.1	37.4
	65歳以上	7.0	25.8	29.6	10.3	14.1	13.1	32.9
地域別	名古屋地域	4.1	36.4	22.7	11.2	20.5	5.1	40.5
	尾張地域	4.6	38.5	23.2	8.5	19.3	5.9	43.1
	西三河地域	7.4	37.1	28.1	11.0	13.8	2.6	44.5
	東三河地域	5.6	42.6	22.6	8.2	19.0	2.1	48.2
職業別	自営業	7.1	35.6	20.9	9.9	20.6	5.9	42.7
	勤め人	4.3	40.6	25.4	10.0	16.7	2.9	44.9
	無職	6.1	34.0	22.9	9.2	21.0	6.9	40.0

6 河川情報

(1) 「洪水ハザードマップ」の認知度について

「知っている」が55%

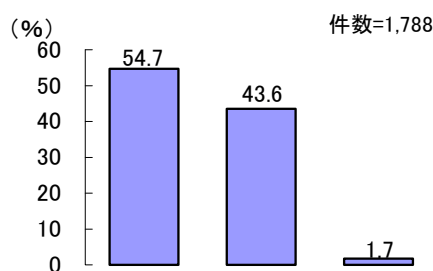
問16 河川がはん濫したときに想定される浸水や避難所の場所を記載した「洪水ハザードマップ」が、お住まいの市町村から各戸に配布されています。「洪水ハザードマップ」を知っていますか。
(○は1つ)



「洪水ハザードマップ」を知っているかたずねたところ、「知っている」と答えた人の割合は54.7%、「知らない」と答えた人の割合は43.6%となっている。

「洪水ハザードマップ」の認知度について（性別、年齢別、地域別、職業別）

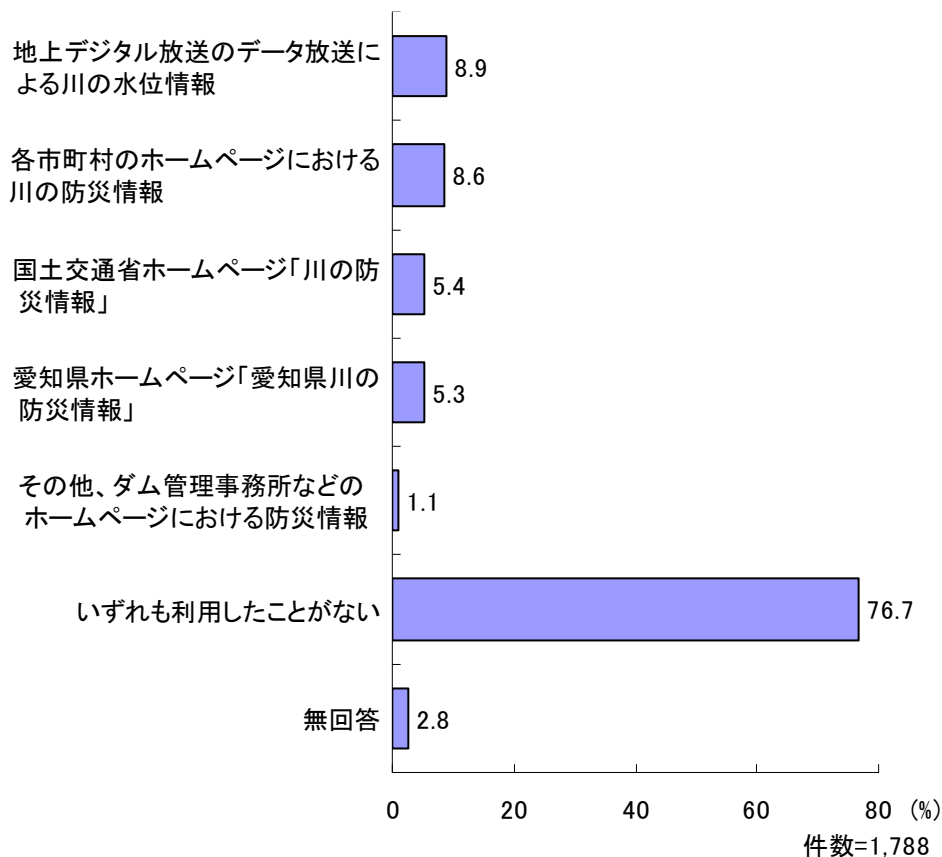
- ◆性別で見ると、「知っている」と答えた人の割合は、男性（52.0%）より女性（59.3%）で7.3ポイント高くなっている。
- ◆年齢別で見ると、「知っている」と答えた人の割合は20代（34.1%）で低く、60代以上では6割を超えている。
- ◆地域別で見ると、「知っている」と答えた人の割合は、名古屋地域（67.9%）が高く、東三河地域（43.1%）で低くなっている。
- ◆職業別で見ると、「知っている」と答えた人の割合は無職（63.5%）で高くなっている。



		知っている	知らない	無回答
性別	男性	52.0	46.1	1.9
	女性	59.3	39.6	1.0
年齢別	20～29歳	34.1	65.9	0.0
	30～39歳	53.8	45.8	0.4
	40～49歳	53.5	45.3	1.2
	50～59歳	51.4	46.7	1.9
	60～64歳	61.4	37.1	1.5
	65歳以上	63.4	32.9	3.8
地域別	名古屋地域	67.9	29.9	2.2
	尾張地域	49.0	49.0	1.9
	西三河地域	53.5	46.0	0.5
	東三河地域	43.1	55.9	1.0
職業別	自営業	52.2	45.5	2.4
	勤め人	51.3	47.5	1.2
	無職	63.5	34.6	1.9

(2) インターネット・地上デジタル放送での川に関するリアルタイム情報について
 「地上デジタル放送のデータ放送による川の水位情報」・「各市町村のホームページにおける川の防災情報」が9%

問17 国土交通省や愛知県では、川の水位や雨量など、川に関するリアルタイム情報をインターネットのホームページなどで提供しています。次の選択肢のうち、利用したことがあるものを選択してください。(〇はいくつでも)

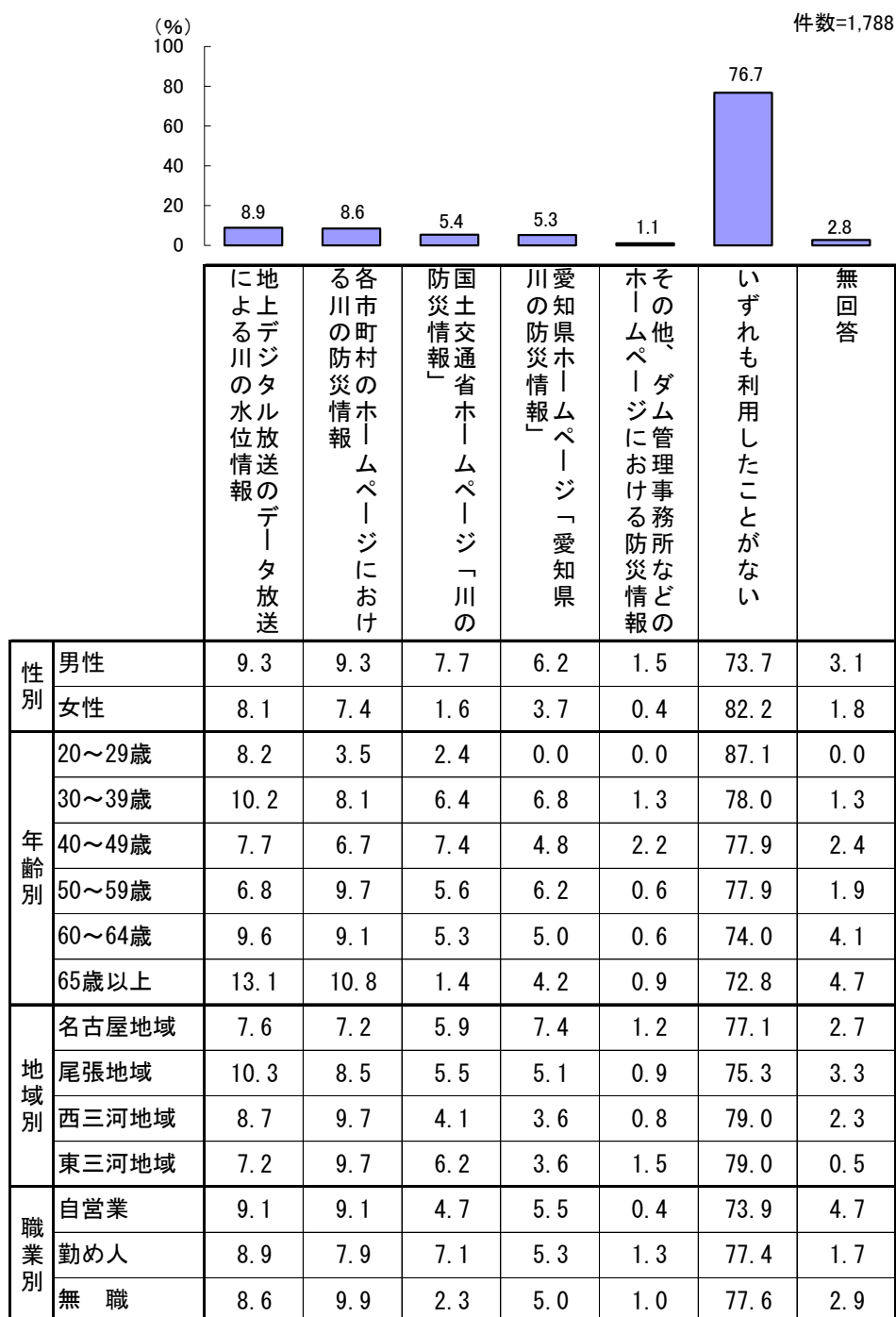


利用したことがあるホームページなどの川に関するリアルタイム情報についてたずねたところ、「地上デジタル放送のデータ放送による川の水位情報」8.9%、「各市町村のホームページにおける川の防災情報」8.6%となっている。

一方、「いずれも利用したことがない」と答えた人の割合は76.7%となっている。

インターネット・地上デジタル放送での川に関するリアルタイム情報について (性別、年齢別、地域別、職業別)

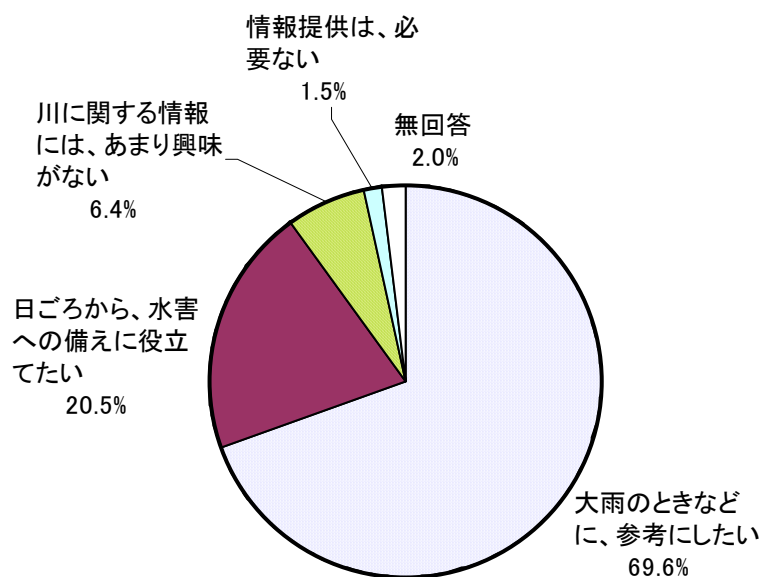
- ◆性別で見ると、全体的に女性より男性の利用率が高い傾向にみられる。
- ◆年齢別で見ると、「地上デジタル放送のデータ放送による川の水位情報」と答えた人の割合は65歳以上(13.1%)で高くなっている。
- ◆地域別で見ると、「地上デジタル放送のデータ放送による川の水位情報」と答えた人の割合は、尾張地域(10.3%)で高くなっている。
- ◆職業別で見ると、大きな差異はみられない。



(3) 河川の水位など水害に関する情報提供の必要性について

「大雨のときなどに、参考にしたい」が70%

問18 愛知県では、河川の水位や水害時において浸水が想定される場所などの情報提供を行っています。そうした情報を、今後どのように活用したいと思われますか。(〇は1つ)

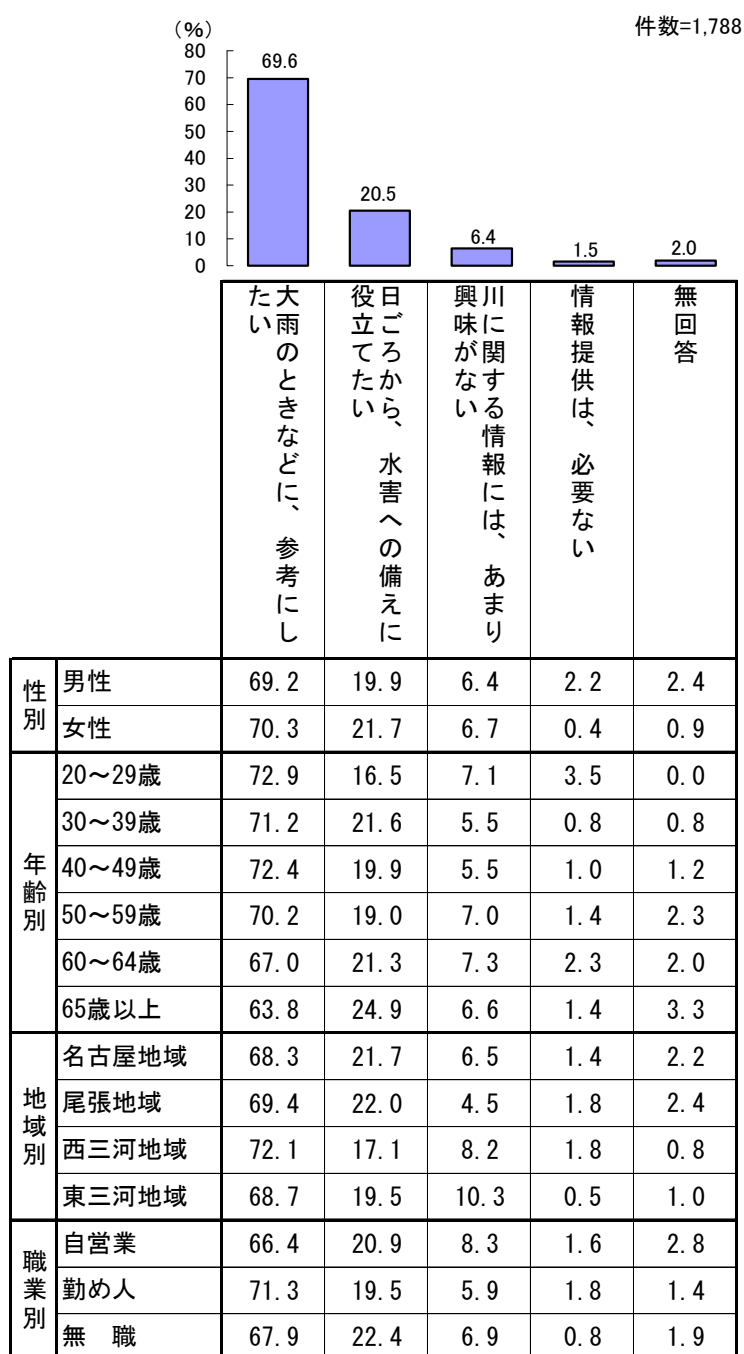


件数=1,788

河川の水位など水害に関する情報提供の必要性について、「大雨のときなどに、参考にしたい」と答えた人の割合は69.6%で最も高く、次いで「日ごろから、水害への備えに役立てたい」(20.5%)、「川に関する情報には、あまり興味がない」(6.4%)の順になっている。

河川の水位など水害に関する情報提供の必要性について (性別、年齢別、地域別、職業別)

- ◆性別で見ると、大きな差異はみられない。
- ◆年齢別で見ると、「大雨のときなどに、参考にしたい」と答えた人の割合は65歳以上(63.8%)で最も低い。
- ◆地域別で見ると、「大雨のときなどに、参考にしたい」と答えた人の割合は西三河地域(72.1%)でやや高くなっている。
- ◆職業別で見ると、「大雨のときなどに、参考にしたい」と答えた人の割合は勤め人(71.3%)でやや高くなっている。

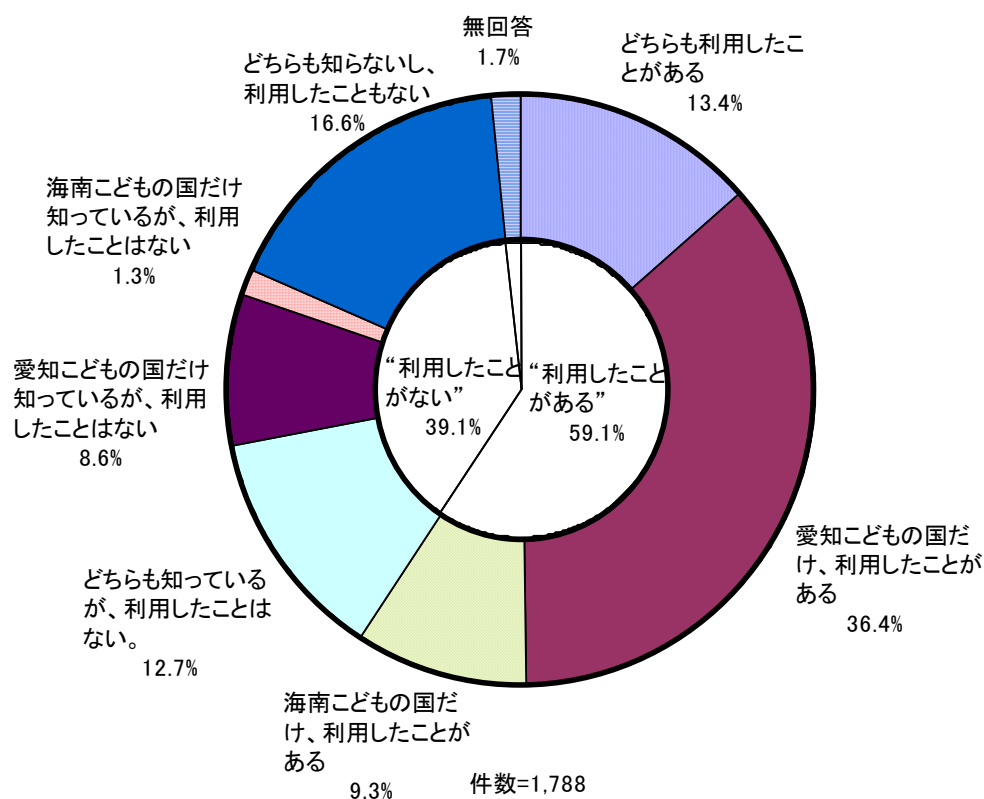


7 児童厚生施設

(1) 県立大型児童遊園であるこどもの国の認知度

“利用したことがある”が59%

問19 あなたは、県立の大型児童遊園である愛知こどもの国（幡豆郡幡豆町）、海南こどもの国（弥富市）を利用されたことがありますか。（○は1つ）



県立の大型児童遊園（愛知こどもの国・海南こどもの国）を利用したことがあるかをたずねたところ、“利用したことがある”（「どちらも利用したことがある」（13.4%）+「愛知こどもの国だけ、利用したことがある」（36.4%）+「海南こどもの国だけ、利用したことがある」（9.3%））と答えた人の割合が59.1%となっている。一方、“利用したことがない”（「どちらも知っているが、利用したことはない」（12.7%）+「愛知こどもの国だけ知っているが、利用したことはない」（8.6%）+「海南こどもの国だけ知っているが、利用したことはない」（1.3%）+「どちらも知らないし、利用したこともない」（16.6%））と答えた人の割合は39.1%となっている。

県立大型児童遊園であるこどもの国の認知度（性別、年齢別、地域別、職業別）

◆性別でみると、「どちらも利用したことがある」と答えた人の割合は、女性（11.8%）より男性（14.5%）で2.7ポイント高くなっている。

◆年齢別でみると、「どちらも利用したことがある」と答えた人の割合は40代（19.2%）で高くなっている。

◆地域別でみると、「愛知こどもの国だけ、利用したことがある」と答えた人の割合は、西三河地域・東三河地域が高く、ともに6割を超えている。一方、「海南こどもの国だけ、利用したことがある」と答えた人の割合は、西三河地域（1.0%）と東三河地域（0.5%）で低くなっている。

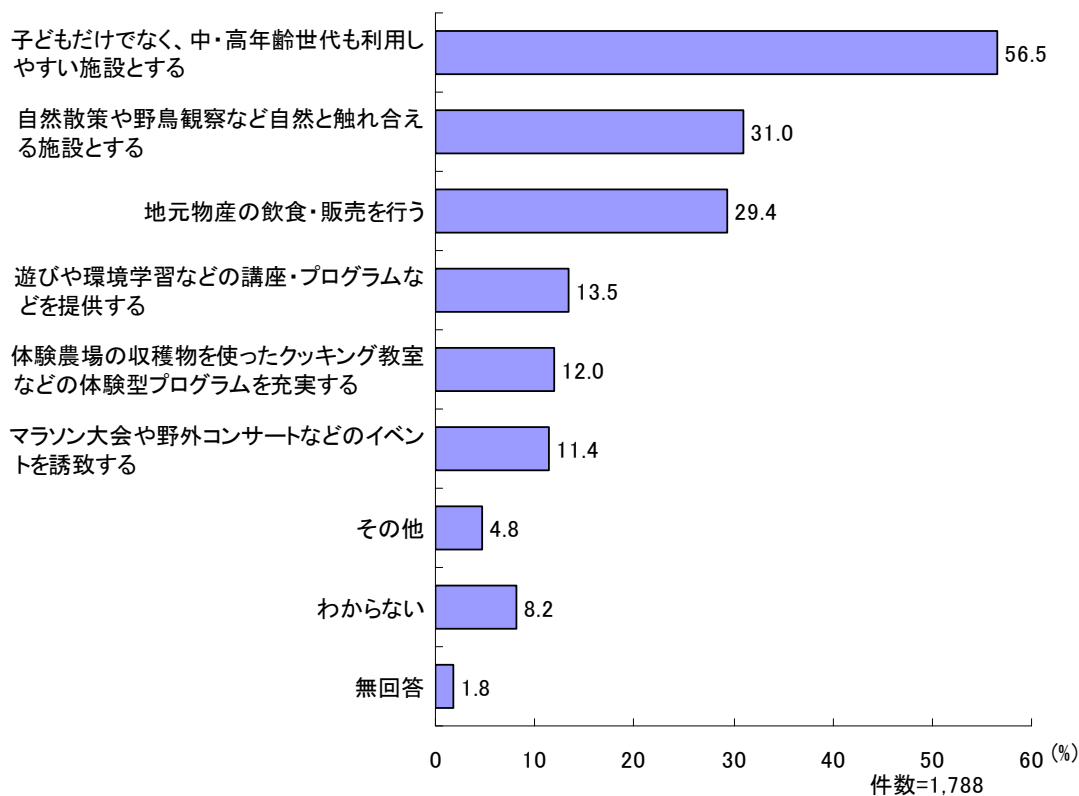
◆職業別でみると、「どちらも利用したことがある」と答えた人の割合は無職（8.8%）で低くなっている。



(2) こどもの国を多くの方に利用していただくための方策

「子どもだけでなく、中・高年齢世代も利用しやすい施設とする」が57%

問20 こどもの国のような県が設置・運営する大型児童遊園をより多くの方に利用いただくために、どのようにしたらよいと思いますか。(〇は2つまで)



県が設置・運営する大型児童遊園をより多くの方に利用いただくためにどのようにしたらよいかたずねたところ、「子どもだけでなく、中・高年齢世代も利用しやすい施設とする」と答えた人の割合は56.5%で最も高く、次いで「自然散策や野鳥観察など自然と触れ合える施設とする」(31.0%)、「地元物産の飲食・販売を行う」(29.4%)の順になっている。

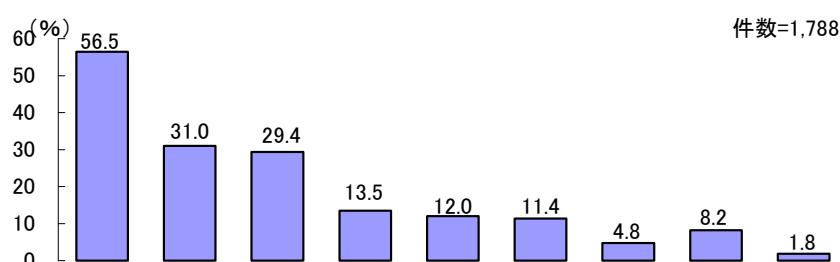
こどもの国を多くの方に利用していただくための方策 (性別、年齢別、地域別、職業別)

◆性別で見ると、「子どもだけでなく、中・高齢世代も利用しやすい施設とする」と答えた人の割合は、男性（54.3%）より女性（60.5%）で6.2ポイント高くなっている。

◆年齢別で見ると、「子どもだけでなく、中・高齢世代も利用しやすい施設とする」と答えた人の割合は50代以上で6割を超えている。

◆地域別で見ると、「子どもだけでなく、中・高齢世代も利用しやすい施設とする」と答えた人の割合は尾張地区（59.3%）で高くなっている。

◆職業別で見ると、「子どもだけでなく、中・高齢世代も利用しやすい施設とする」と答えた人の割合は無職（60.0%）で高くなっている。

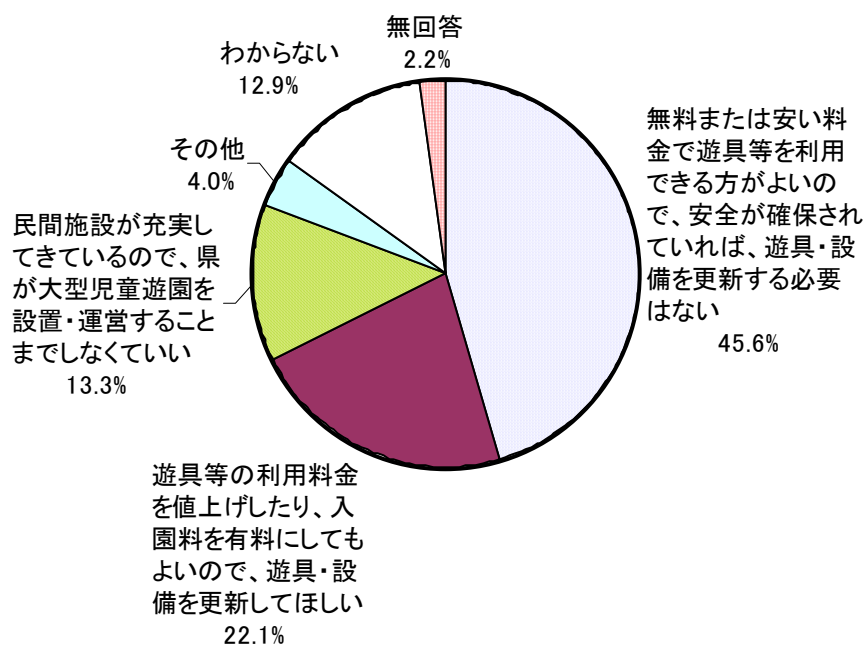


		設年子 とす る	然自然 と触 れ合 え る 施 設 と す る	う地元 物産 の飲 食・ 販 売を 行 う	す座遊 ・プ ロ グ ラ ム な ど を 提 供 す	型ク体 ・キ ン グ ラ ム を 充 実 す る	致サマ ・ト ン な ど の 大 会 や 野 外 コ ン テ ン ト を 誘 致	その他	わからない	無回答
性別	男性	54.3	31.7	28.1	12.8	10.1	11.3	6.1	9.3	2.2
	女性	60.5	30.0	31.2	14.6	15.2	11.4	2.7	6.4	0.9
年齢別	20～29歳	52.9	18.8	28.2	14.1	25.9	27.1	2.4	7.1	0.0
	30～39歳	36.4	23.3	33.1	32.6	23.3	12.7	8.1	5.1	0.8
	40～49歳	50.6	30.9	28.1	19.2	13.7	12.5	6.0	7.0	1.2
	50～59歳	61.4	31.0	30.8	10.1	10.3	12.0	3.3	7.9	1.9
	60～64歳	66.7	37.1	28.4	5.6	6.1	7.6	3.8	9.4	1.8
	65歳以上	65.3	35.2	26.3	1.4	4.2	6.1	4.7	13.6	3.8
地域別	名古屋地域	54.2	32.5	31.9	14.5	12.5	11.5	3.7	6.7	2.3
	尾張地域	59.3	29.9	27.9	12.8	10.0	9.2	5.5	10.5	1.9
	西三河地域	55.0	32.7	28.1	13.0	13.8	13.6	6.1	6.9	1.0
	東三河地域	56.9	28.2	29.2	14.4	14.9	14.4	2.6	6.7	0.5
職業別	自営業	55.3	30.4	24.9	10.7	11.5	13.4	5.1	11.1	2.8
	勤め人	55.6	31.1	30.2	14.9	12.7	12.3	5.2	6.9	1.1
	無職	60.0	31.7	29.4	12.2	11.1	8.6	3.8	9.4	2.3

(3) こどもの国の今後のあり方

「無料または安い料金で遊具等を利用できる方がよいので、安全が確保されていれば、遊具・設備を更新する必要はない」が46%

問2 1 現在、愛知こどもの国及び海南こどもの国の入園料は無料ですが、ゴーカート（150円）やプール（中学生以下200円、大人450円）などの遊具・設備の利用は有料となっています。県の大型児童遊園の今後のあり方について、お考えをお聞かせください。（○は1つ）



件数=1,788

こどもの国の今後のあり方について、「無料または安い料金で遊具等を利用できる方がよいので、安全が確保されていれば、遊具・設備を更新する必要はない」と答えた人の割合は45.6%となっている。

一方で、「遊具等の利用料金を値上げしたり、入園料を有料にしてもよいので、遊具・設備を更新してほしい」と答えた人の割合は22.1%となっている。

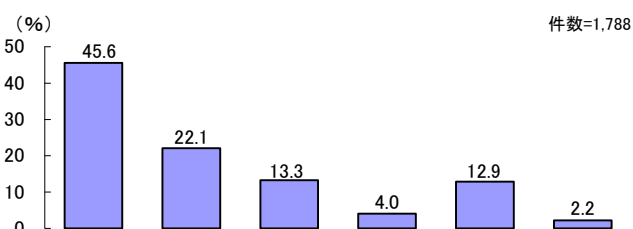
こどもの国の今後のあり方（性別、年齢別、地域別、職業別）

◆性別でみると、「無料または安い料金で遊具等を利用できる方がよいので、安全が確保されていれば、遊具・設備を更新する必要はない」と答えた人の割合は、男性（40.6%）より女性（53.8%）で13.2ポイント高くなっている。

◆年齢別でみると、「無料または安い料金で遊具等を利用できる方がよいので、安全が確保されていれば、遊具・設備を更新する必要はない」と答えた人の割合は30代以下で5割を超えている。

◆地域別でみると、「無料または安い料金で遊具等を利用できる方がよいので、安全が確保されていれば、遊具・設備を更新する必要はない」と答えた人の割合は東三河地域（49.7%）でやや高くなっている。

◆職業別でみると、「無料または安い料金で遊具等を利用できる方がよいので、安全が確保されていれば、遊具・設備を更新する必要はない」と答えた人の割合は、無職（47.6%）で高くなっている。一方、「遊具等の利用料金を値上げしたり、入園料を有料にしてもよいので、遊具・設備を更新してほしい」と答えた人の割合は自営業（25.3%）でやや高くなっている。



		必要はない	利用できる	遊具等	その他	わからない	無回答
性別	男性	40.6	26.1	14.4	5.1	11.5	2.3
	女性	53.8	15.7	11.4	2.4	15.1	1.6
年齢別	20～29歳	54.1	23.5	8.2	5.9	8.2	0.0
	30～39歳	53.4	20.3	10.6	6.8	8.1	0.8
	40～49歳	48.2	24.2	12.2	3.6	9.8	1.9
	50～59歳	42.1	24.6	13.4	3.9	13.6	2.3
	60～64歳	42.7	20.5	16.4	2.9	16.4	1.2
	65歳以上	41.3	16.9	15.0	3.3	18.3	5.2
地域別	名古屋地域	41.3	25.6	11.2	5.3	14.3	2.3
	尾張地域	47.5	17.7	14.7	2.7	14.7	2.7
	西三河地域	45.5	26.1	12.8	4.9	9.7	1.0
	東三河地域	49.7	21.0	14.4	4.1	9.7	1.0
職業別	自営業	36.0	25.3	14.2	5.1	15.8	3.6
	勤め人	47.0	23.0	13.6	4.3	10.7	1.4
	無職	47.6	19.1	11.9	2.7	16.1	2.5

8 三河山間地域※との交流

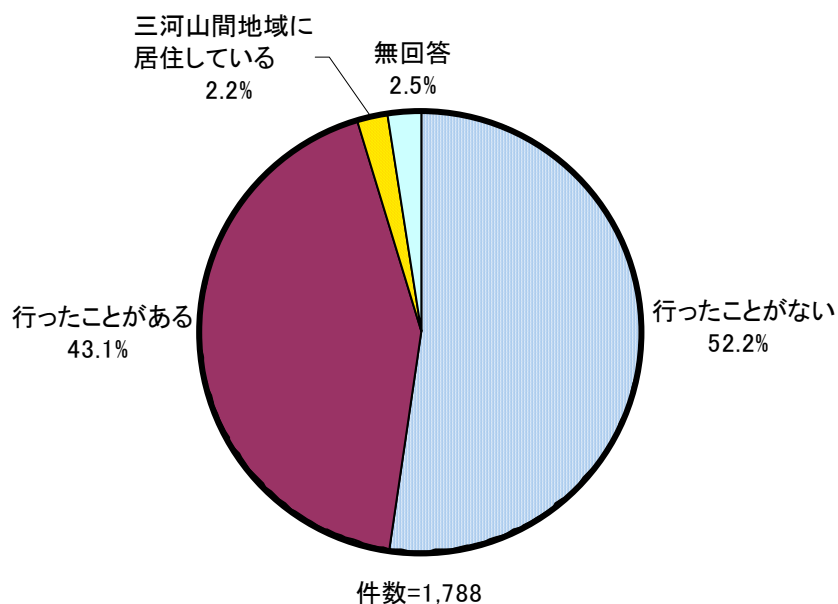
※ 三河山間地域

岡崎市（旧額田町の地域）、豊田市（旧豊田市を除いた地域）、新城市、北設楽郡

（1）三河山間地域への訪問回数

「行ったことがない」が52%

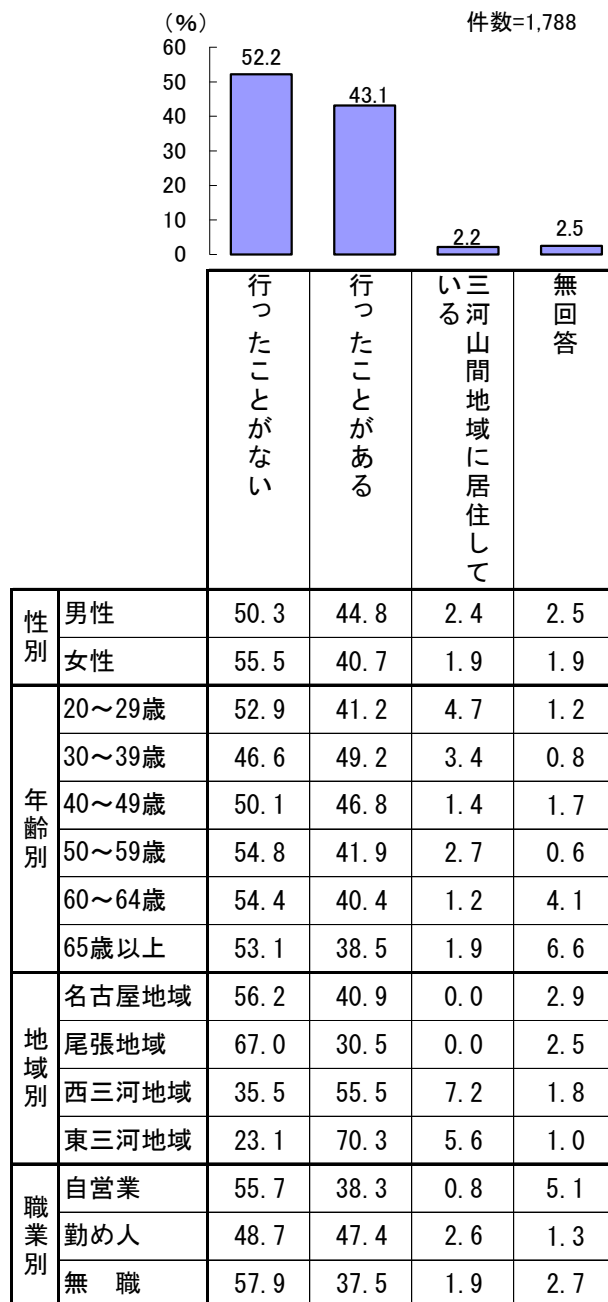
問22 県土の1/3を占める三河山間地域においては、過疎化や高齢化が進み、地域の主要産業である農林業が停滞するなど厳しい状況にあります。こうした問題に対処するには、より多くの都市の方々が三河山間地域を訪れ、地域住民との交流を通じて、活性化を図っていくことが求められています。あなたは、最近1年の間に何回程度、三河山間地域を訪れましたか。
(〇は1つ)



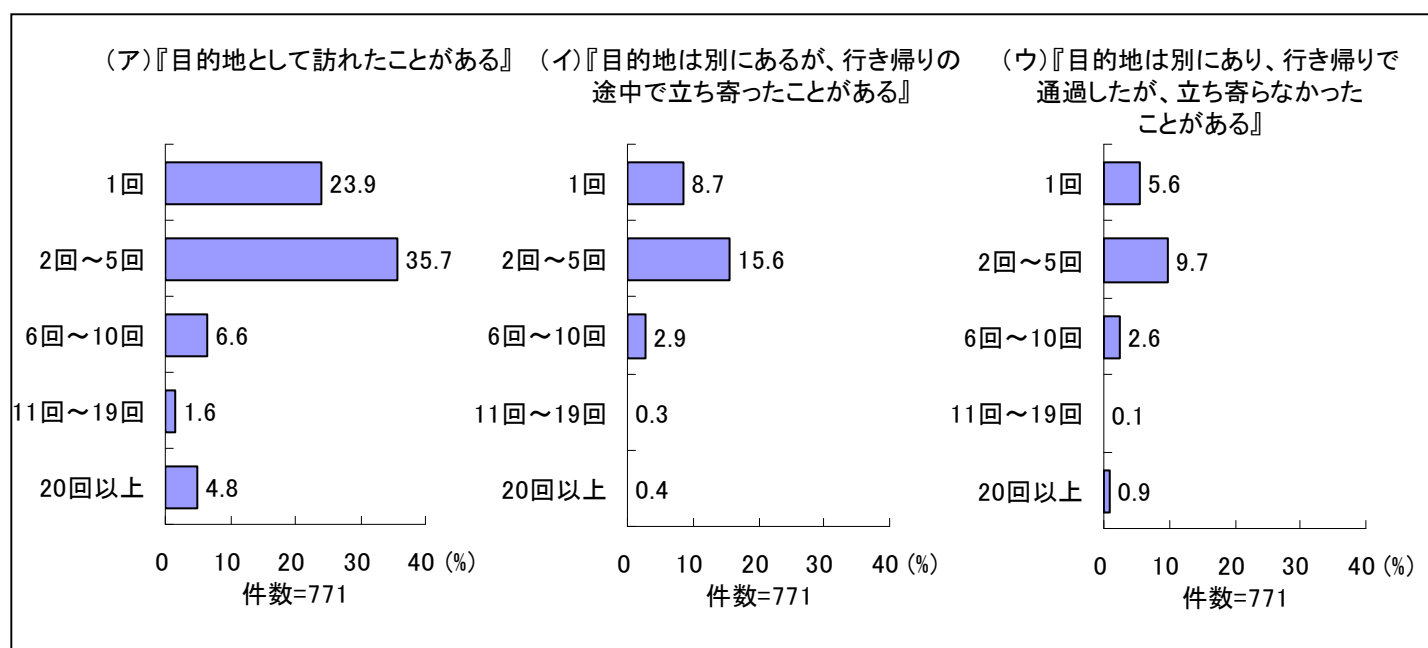
最近1年の間に何回程度、三河山間地域を訪れたかをたずねたところ、「行ったことがない」と答えた人の割合は52.2%となっている。

三河山間地域への訪問回数（性別、年齢別、地域別、職業別）

- ◆性別で見ると、「行ったことがある」と答えた人の割合は、女性（40.7%）より男性（44.8%）で4.1ポイント高くなっている。
- ◆年齢別で見ると、「行ったことがある」と答えた人の割合は30代（49.2%）で最も高く、65歳以上（38.5%）で最も低い。
- ◆地域別で見ると、「行ったことがある」と答えた人の割合は東三河地域（70.3%）で最も高く、尾張地域（30.5%）で最も低い。
- ◆職業別で見ると、「行ったことがある」と答えた人の割合は勤め人（47.4%）で高くなっている。



「行ったことがある」と回答した人の訪問回数（内容別）



『目的地として訪れたことがある』人のなかで、「2回～5回」と答えた人の割合が35.7%で最も高く、次いで「1回」(23.9%)、「6回～10回」(6.6%)の順になっている。

『目的地は別にあるが、行き帰りの途中で立ち寄ったことがある』人のなかで、「2回～5回」と答えた人の割合は、15.6%で最も高く、次いで「1回」(8.7%)、「6回～10回」(2.9%)の順になっている。

『目的地は別にあり、行き帰りで通過したが立ち寄らなかったことがある』人のなかで、「2回～5回」と答えた人の割合が9.7%で最も高く、次いで「1回」(5.6%)、「6回～10回」(2.6%)の順になっている。

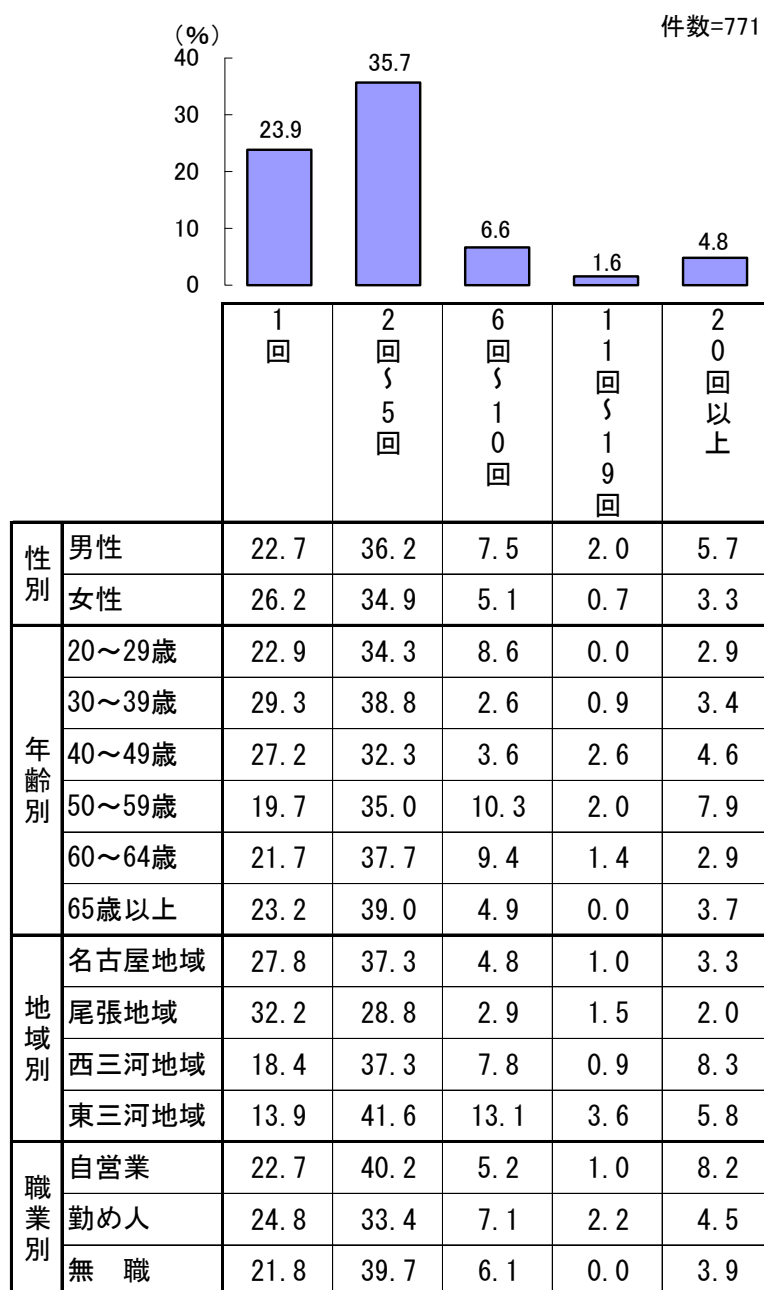
(ア) 目的地として訪れたことがある（性別、年齢別、地域別、職業別）

◆性別でみると、「1回」と答えた人の割合は男性（22.7%）より女性（26.2%）で3.5ポイント高くなっているが、2回以上ではすべて男性の方が高い傾向がみられる。

◆年齢別でみると、「2回～5回」と答えた人の割合は30代（38.8%）と65歳以上（39.0%）でやや高くなっている。

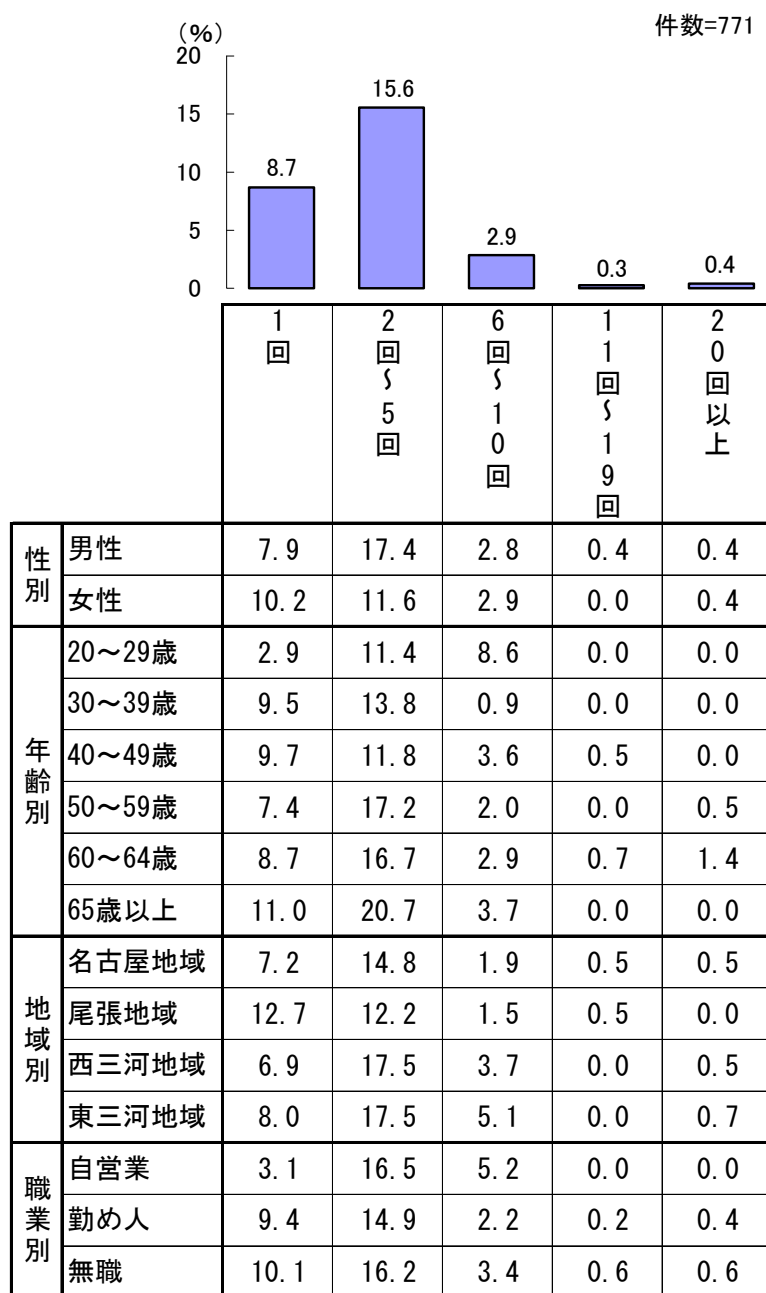
◆地域別でみると、「1回」と答えた人の割合は尾張地域（32.2%）で高く、「2回～5回」と答えた人の割合は、東三河地域（41.6%）で高くなっている。

◆職業別でみると、「2回～5回」と答えた人の割合は自営業（40.2%）で高くなっている。



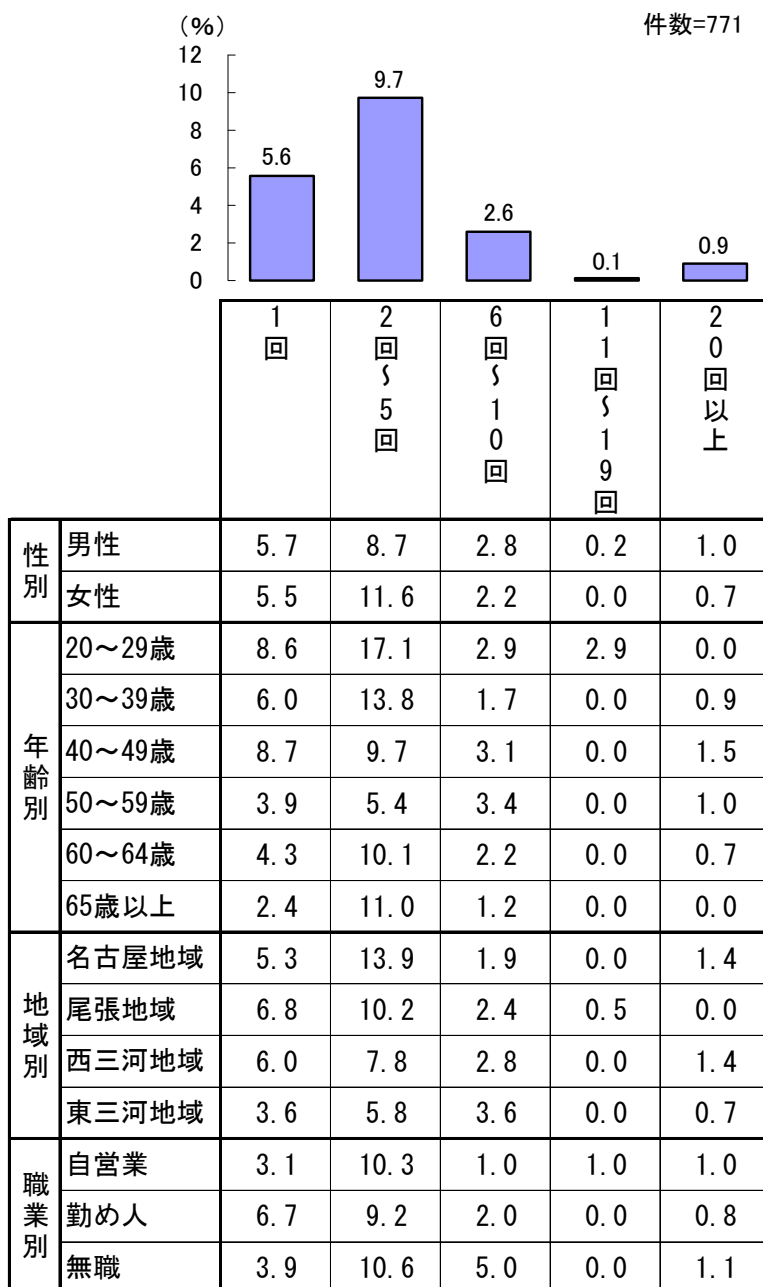
(イ) 目的地は別にあるが、行き帰りの途中で立ち寄ったことがある
(性別、年齢別、地域別、職業別)

- ◆性別で見ると、「2回～5回」と答えた人の割合は女性（11.6%）より男性（17.4%）で5.8ポイント高くなっている。
- ◆年齢別で見ると、「6回～10回」と答えた人の割合は20代（8.6%）が高い。
- ◆地域別で見ると、「1回」と答えた人の割合は尾張地域（12.7%）で高くなっている。
- ◆職業別で見ると、「1回」答えた人の割合は自営業（3.1%）で低く、無職（10.1%）で高くなっている。



(ウ) 目的地は別にあり、行き帰りで通過したが立ち寄りなかったことがある
(性別、年齢別、地域別、職業別)

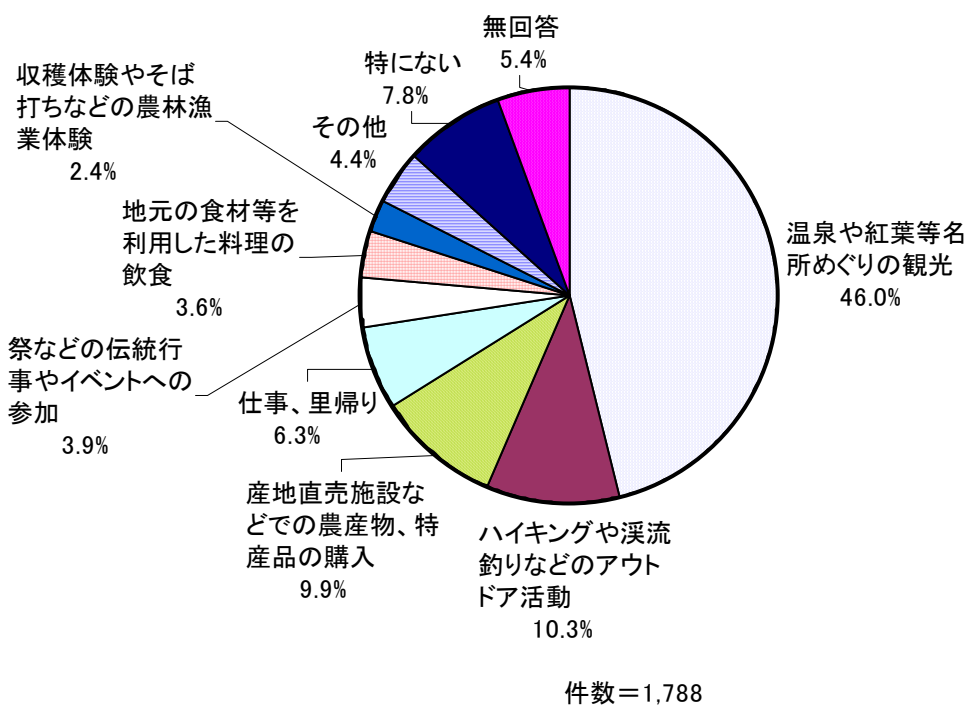
- ◆性別で見ると、「2回～5回」と答えた人の割合は男性（8.7%）より女性（11.6%）で2.9ポイント高くなっている。
- ◆年齢別で見ると、「2回～5回」と答えた人の割合は20代（17.1%）でやや高くなっている。
- ◆地域別で見ると、「2回～5回」と答えた人の割合は名古屋地域（13.9%）でやや高い。
- ◆職業別で見ると、「1回」と答えた人の割合は勤め人（6.7%）で高くなっている。



(2) 三河山間地域を訪問する目的

「温泉や紅葉等名所めぐりの観光」が46%

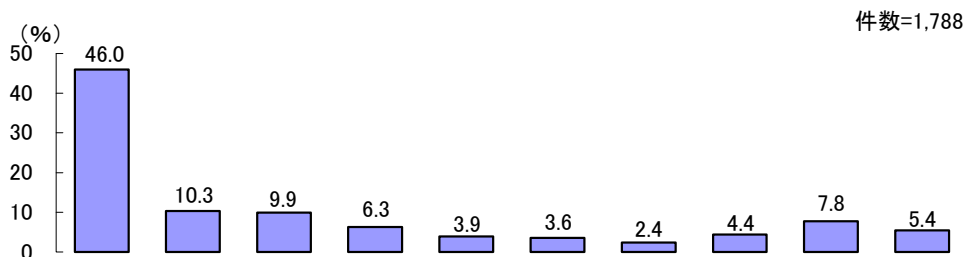
問23 あなたは、三河山間地域を訪れるとき、どのような目的で訪れることが多いですか。(行ったことがない方、単に通過点としてしか行ったことがない方は、どのような目的でなら訪れたいと思いますか。)(○は1つ)



三河山間地域を訪問する目的について、「温泉や紅葉等名所めぐりの観光」と答えた人の割合が46.0%で最も高く、次いで「ハイキングや溪流釣りなどのアウトドア活動」(10.3%)、「産地直売施設などでの農産物、特産品の購入」(9.9%)の順になっている。

三河山間地域を訪問する目的（性別、年齢別、地域別、職業別）

- ◆性別で見ると、「温泉や紅葉等名所めぐりの観光」と答えた人の割合は、男性（43.2%）より女性（50.7%）で7.5ポイント高くなっている。
- ◆年齢別で見ると、「温泉や紅葉等名所めぐりの観光」と答えた人の割合は60代前半（49.7%）で高くなっている。
- ◆地域別で見ると、「温泉や紅葉等名所めぐりの観光」と答えた人の割合は尾張地域（50.7%）で高くなっている。
- ◆職業別で見ると、「温泉や紅葉等名所めぐりの観光」と答えた人の割合は無職（48.4%）で高く、自営業（36.8%）で低くなっている。

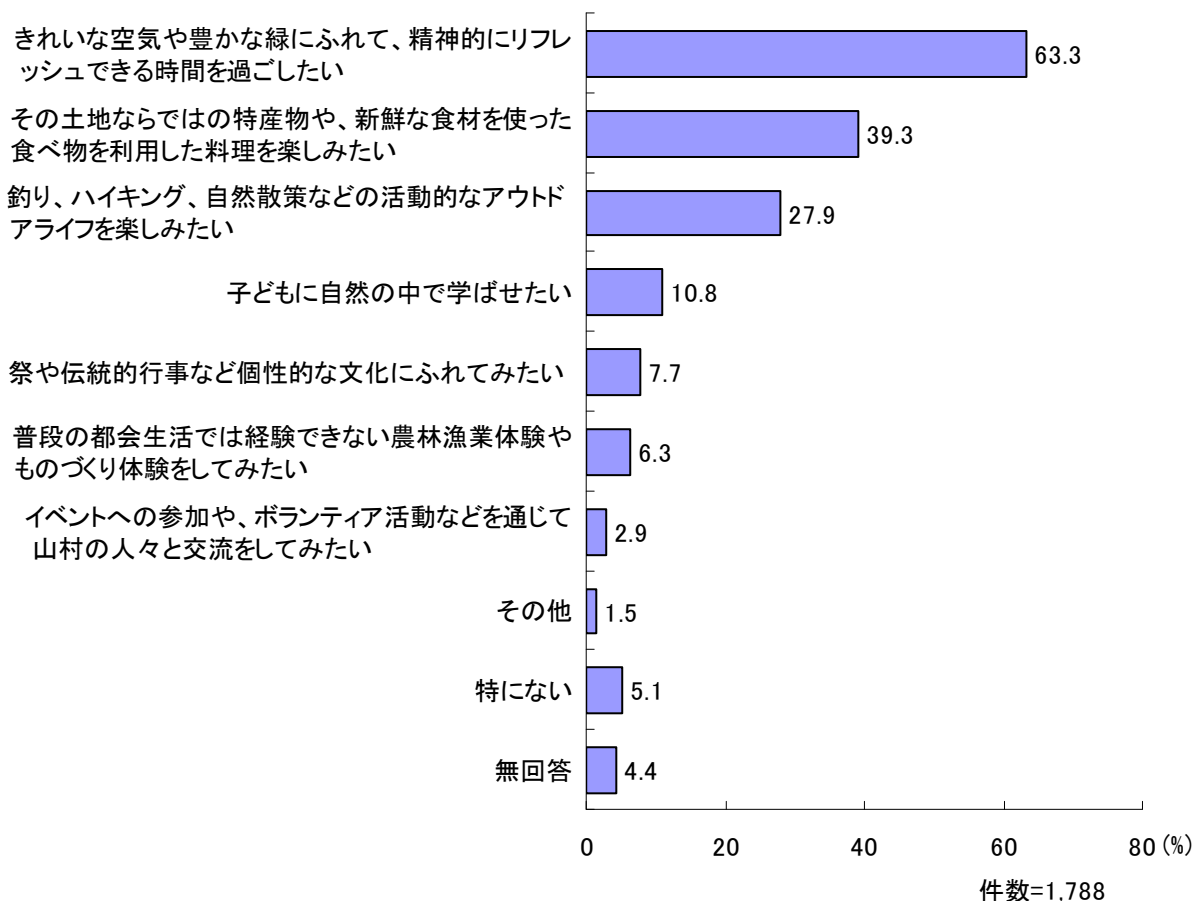


		温泉や紅葉等名所めぐりの観光	ウハイキングや溪流釣りなどのアウトドア活動	特産地直売施設などでの農産物の購入	仕事、里帰り	祭などの伝統行事やイベントへの参加	飲食	地元食材等を利用した料理の体験	漁獲体験やそば打ちなどの農林業体験	その他	特にない	無回答
性別	男性	43.2	12.5	8.5	8.2	3.6	3.7	2.1	4.6	8.3	5.3	
	女性	50.7	7.0	12.0	3.3	4.4	3.3	3.0	4.1	7.1	5.2	
年齢別	20～29歳	44.7	9.4	3.5	9.4	9.4	2.4	5.9	5.9	4.7	4.7	
	30～39歳	44.5	12.3	7.2	6.8	8.1	3.0	3.8	5.5	4.7	4.2	
	40～49歳	44.8	16.1	6.7	8.6	3.6	3.8	1.4	5.5	5.8	3.6	
	50～59歳	45.5	7.4	12.8	8.3	2.5	4.8	2.5	3.9	7.6	4.8	
	60～64歳	49.7	8.5	12.3	2.0	3.2	1.2	2.0	4.1	9.9	7.0	
	65歳以上	46.0	7.5	10.8	2.3	2.3	5.2	1.9	2.3	13.6	8.0	
地域別	名古屋地域	45.4	11.2	10.6	5.1	4.7	3.3	3.1	4.5	8.0	4.1	
	尾張地域	50.7	9.2	8.5	5.2	3.7	3.9	2.7	3.1	9.8	3.3	
	西三河地域	41.4	10.0	11.0	7.4	3.6	3.3	1.5	6.4	5.9	9.5	
	東三河地域	40.5	13.3	10.3	11.3	3.6	3.6	1.5	5.1	4.1	6.7	
職業別	自営業	36.8	9.5	9.5	10.7	4.3	4.0	2.4	4.0	12.6	6.3	
	勤め人	47.2	11.7	8.9	7.5	3.7	3.4	2.3	5.1	5.8	4.3	
	無職	48.4	8.2	12.4	1.5	4.2	3.8	2.7	3.4	9.4	6.1	

(3) 三河山間地域での過ごし方についての意向

「きれいな空気や豊かな緑にふれて、精神的にリフレッシュできる時間を過ごしたい」が
63%

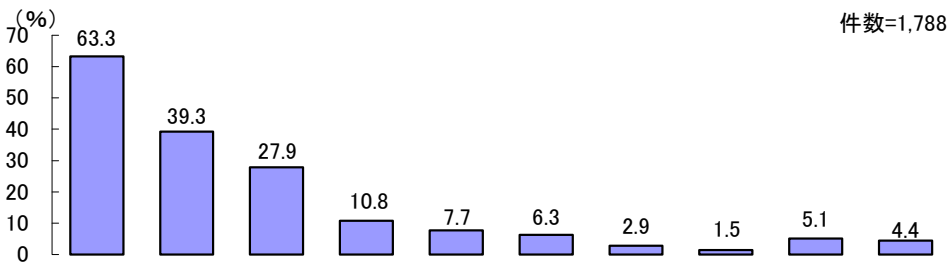
問24 あなたが三河山間地域で休暇を過ごす場合、どのような過ごし方がしたいですか。
(○は2つまで)



三河山間地域での過ごし方の意向について、「きれいな空気や豊かな緑にふれて、精神的にリフレッシュできる時間を過ごしたい」と答えた人の割合が63.3%で最も高く、次いで「その土地ならではの特産物や、新鮮な食材を使った食べ物を利用した料理を楽しみたい」(39.3%)、「釣り、ハイキング、自然散策などの活動的なアウトドアライフを楽しみたい」(27.9%)の順になっている。

三河山間地域での過ごし方についての意向（性別、年齢別、地域別、職業別）

- ◆性別でみると、「その土地ならではの特産物や、新鮮な食材を使った食べ物を利用した料理を楽しみたい」と答えた人の割合は、男性（34.0%）より女性（48.1%）で14.1ポイント高くなっている。
- ◆年齢別でみると、「普段の都会生活では経験できない農林漁業体験やものづくり体験をしてみたい」と答えた人の割合は20代（12.9%）で高くなっている。
- ◆地域別でみると、「きれいな空気や豊かな緑にふれて、精神的にリフレッシュできる時間を過ごしたい」と答えた人の割合は名古屋地域（67.1%）で最も高く、尾張地域（60.9%）で最も低い。
- ◆職業別でみると、「その土地ならではの特産物や、新鮮な食材を使った食べ物を利用した料理を楽しみたい」と答えた人の割合は無職（43.6%）で高くなっている。

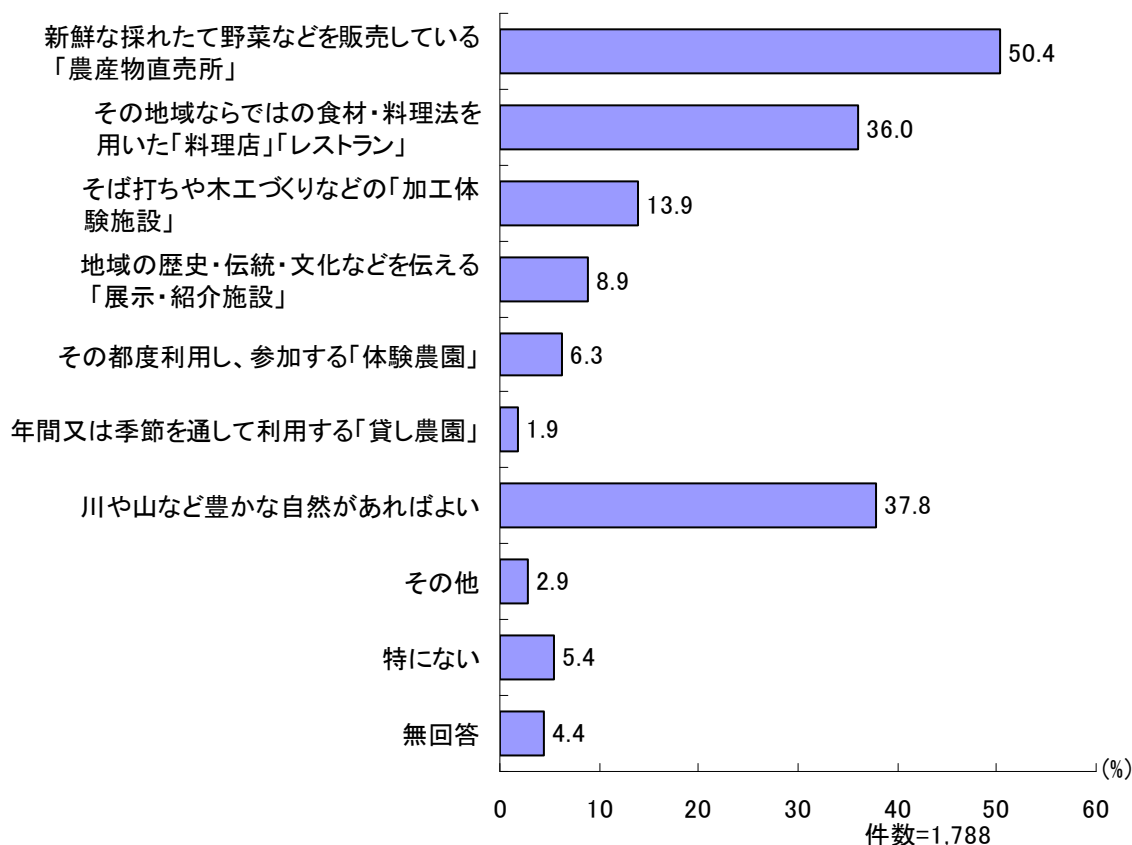


		るて、きれいな空気や豊かな緑にふれて、精神的にリフレッシュできる時間を過ごす	新鮮な食材を使った食べ物を利用した料理を楽しみたい	その土地ならではの特産物や、新鮮な食材を使った食べ物を利用した料理を楽しみたい	釣りの活動やハイキング、アウトドアライフレジャーなど	子どもに自然の中で学ばせたい	祭や伝統行事など個性豊かな文化にふれてみたい	農林漁業体験やものづくり体験をしてみたい	イベントや交流会などを通じて、山村の人々と交流をしてみたい	その他	特になし	無回答
性別	男性	61.7	34.0	31.6	11.3	7.5	5.5	3.2	1.8	6.1	4.6	
	女性	66.1	48.1	22.0	9.9	8.0	7.5	2.4	0.9	3.6	3.4	
年齢別	20～29歳	57.6	24.7	20.0	14.1	8.2	12.9	2.4	1.2	8.2	5.9	
	30～39歳	57.6	31.4	36.4	28.0	6.8	8.1	1.7	1.3	0.8	4.2	
	40～49歳	63.8	40.0	35.0	13.9	6.7	5.8	2.4	1.7	3.6	2.9	
	50～59歳	65.9	42.8	25.6	5.2	8.7	6.2	3.1	1.9	4.8	3.9	
	60～64歳	69.0	38.6	24.6	6.1	7.6	5.3	2.3	1.5	7.3	3.8	
	65歳以上	56.3	46.0	18.8	4.7	8.5	4.7	5.6	0.5	8.9	7.0	
地域別	名古屋地域	67.1	36.6	28.2	9.6	8.6	7.8	2.7	1.2	5.9	2.5	
	尾張地域	60.9	40.6	28.4	10.7	8.6	5.9	3.6	1.5	5.6	2.5	
	西三河地域	61.4	42.5	28.9	12.0	5.9	5.6	2.6	1.0	3.3	8.2	
	東三河地域	65.1	36.9	24.6	12.3	6.2	5.1	1.5	2.6	4.6	6.2	
職業別	自営業	58.5	35.6	26.5	10.7	6.3	6.3	3.2	0.8	9.1	5.9	
	勤め人	64.4	38.2	31.6	11.6	7.4	6.0	3.1	1.8	3.6	3.5	
	無職	64.2	43.6	21.2	9.0	9.2	7.1	2.3	1.0	6.1	4.4	

(4) 三河山間地域で利用したい交流施設

「新鮮な採れたて野菜などを販売している『農産物直売所』が50%

問25 あなたが、三河山間地域を訪れる場合、利用したいと思う施設はどんなものですか。
(○は2つまで)



三河山間地域で利用したい交流施設について、「新鮮な採れたて野菜などを販売している『農産物直売所』と答えた人の割合が50.4%で最も高く、次いで「その地域ならではの食材・料理法を用いた『料理店』『レストラン』(36.0%)が高くなっている。

一方、「川や山など豊かな自然があればよい」(37.8%)と答えた人の割合は約4割となっている。

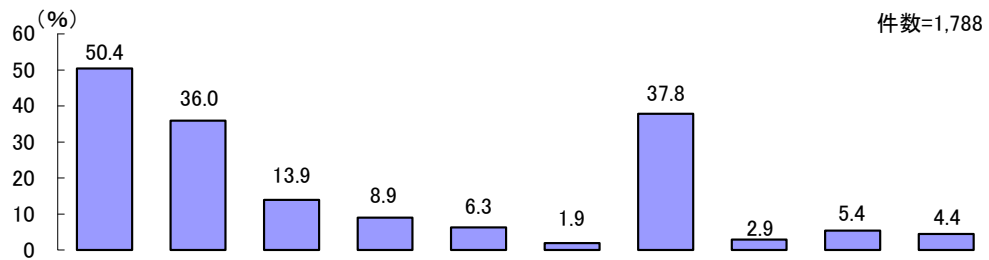
三河山間地域で利用したい交流施設（性別、年齢別、地域別、職業別）

◆性別でみると、「新鮮な採れたて野菜などを販売している『農産物直売所』」と答えた人の割合は、男性（43.4%）より女性（62.0%）で18.6ポイント高くなっている。

◆年齢別でみると、「その地域ならではの食材・料理法を用いた『料理店』『レストラン』」と答えた人の割合は40代（41.7%）で高くなっている。

◆地域別でみると、「新鮮な採れたて野菜などを販売している『農産物直売所』」と答えた人の割合は尾張地域（46.2%）で低くなっている。

◆職業別でみると、「新鮮な採れたて野菜などを販売している『農産物直売所』」と答えた人の割合は無職（56.6%）で高くなっている。



		新鮮な採れたて野菜などを販売している「農産物直売所」	その地域ならではの食材・料理法を用いた「料理店」「レストラン」	そば打ちや木工づくりなどの「加工体験施設」	地域の歴史・伝統・文化などを伝える「展示・紹介施設」	農園「その都度利用し、参加する「体験農園」	「年間又は季節を通して利用する「貸し農園」	川や山など豊かな自然があればよい	その他	特になし	無回答
性別	男性	43.4	34.1	13.1	10.7	5.8	2.3	39.1	3.0	6.8	4.5
	女性	62.0	39.5	15.4	6.2	7.1	1.3	35.8	2.7	3.1	3.6
年齢別	20～29歳	27.1	30.6	28.2	4.7	18.8	5.9	30.6	2.4	4.7	7.1
	30～39歳	45.8	36.0	21.2	3.0	10.6	2.1	36.9	4.7	2.1	5.1
	40～49歳	50.8	41.7	17.7	6.0	6.5	1.4	38.1	2.9	4.8	2.9
	50～59歳	52.5	37.6	12.4	11.4	5.0	2.7	37.4	2.7	6.0	3.3
	60～64歳	53.5	32.7	7.6	13.2	4.1	1.2	39.5	3.5	6.4	3.8
	65歳以上	54.9	30.0	6.6	11.3	2.3	0.5	39.9	0.5	7.5	7.0
地域別	名古屋地域	53.4	35.8	16.0	5.9	8.0	2.0	36.8	2.5	6.5	2.2
	尾張地域	46.2	36.6	12.9	11.0	5.3	1.9	39.5	2.5	6.7	2.8
	西三河地域	52.7	39.6	12.3	8.4	6.6	2.6	35.8	2.8	2.3	8.2
	東三河地域	52.3	28.7	15.9	11.8	4.6	0.5	39.0	5.1	4.1	6.2
職業別	自営業	44.7	34.0	15.4	8.3	7.5	1.2	32.4	2.4	10.3	6.3
	勤め人	49.4	37.2	14.2	9.5	6.5	2.6	39.1	3.4	4.3	3.5
	無職	56.6	35.2	12.8	8.4	5.2	0.8	37.9	1.9	5.0	4.2